

末弘巖太郎研究資料総覧

七戸, 克彦
九州大学大学院法学研究院 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1957717>

出版情報 : 法政研究. 85 (1), pp.175-237, 2018-07-13. 九州大学法政学会
バージョン :
権利関係 :

末弘厳太郎研究資料総覧

七戸克彦

- 一 末弘法学の時代区分
- 二 末弘判例研究方法論
- 三 初出・所収・復刻の異同問題
- 四 末弘法学の全貌把握
- 〈表1〉末弘厳太郎略年譜・著作目録
- 〈表2〉末弘厳太郎研究論文目録

資料

わが国の民法学の革新者にして、法社会学ならびに労働法の始祖である末弘厳太郎に関しては、それぞれの法領域において、これまでに数多くの研究業績が世に現れているが、しかし、末弘法学の全貌を捉える作業は、没後六七年を経過した現在においても、いまだ道半ばの状況にある。

一 末弘法学の時代区分

第一に、すべて領域での議論の基礎に置かれる末弘法学の展開過程に関しても、研究者の時代区分は一致を見ない。もつとも、①留学前と②留学後で、大きな変化があった点については争いが無い。争点は、〔A〕②帰国後の大正デモクラシーの時代から、③戦時体制の時代を経て、④終戦後その死去に至るまで、末弘の思想は終始一貫していたと捉えるか、それとも、〔B〕③超国家主義に屈服ないし迎合した後、④戦後再びリベリズムに復帰したと捉えるかである。かつての学説においては、〔A〕の理解に立つものが多かったが¹⁾、しかし、今日では、〔A〕の理解を否定して、〔B〕の見方をする立場が多数を占める。

1 石田眞と石井保雄の時代区分

だが、〔B〕説の内部にあっても、末弘が③時局迎合的に右傾化したとされる時期に関しては、研究者間に一致を見ない。以下では、さしあたり〔B〕説に立つ石田眞と石井保雄の時代区分を掲げておく。

(1) 石田眞「末弘法学論」

石田眞は、「末弘法学論」(昭和63・10)において、次の

ような時代区分を行っていた。³⁾

「第一期」(大正九年〜昭和七年)——「大正デモクラシー思想の『凝集点』(磯村哲「市民法学」(昭和34・6・昭和36・9))といわれる末弘法学が形成される大正期後半(末弘が留学から帰国した一九二〇〔大正九〕年以降)を前史として、一九二九(昭和四)年の『法律』時報」創刊から一九三二(昭和七)年に至る時期」。

「第二期」(昭和八年〜昭和一六年)——末弘が「前の時期に展開した体制への批判と革新的な社会改良の提言を理由に政治的抑圧と言論弾圧を受けることになる」時期。

「第三期」(昭和一六年〜昭和二〇年)——太平洋戦争開戦から終戦まで、「体制内改良の主張は末弘の論調から完全に消える一方、それに代わって、……ファシズム的戦争賛美論・戦争動員論が末弘の論説を彩ることになる」時期。

(2) 石田眞「末弘労働法論ノート」

だが、石田眞は、翌年公表の「末弘労働法論ノート」(平成1・3)において、上記(1)「末弘法学論」における「第二期」を二つに分割して「第一期」と「第三期」に

組み込んだうえ、以下のような再区分を行った。⁴⁾

「形成期」(大正九年〜昭和一一年)
「転換期」(昭和一二年〜昭和二〇年終戦)

「再転換期」(昭和二〇年終戦後〜昭和二六年死去)

この区分では、新たに戦後期が加わっているが、この時期を「再転換期」と呼ぶ理由もまた、末弘の思想が戦時体制期に右傾化したと理解しているからである。

なお、この時代区分は、その後の石田「末弘法学の軌跡と特質」(平成10・11)、石田「末弘法学の軌跡」(平成19・3)においても維持されている。

(3) 石井保雄「わが国労働法学の生誕」

これに対して、石井保雄「わが国労働法学の生誕」(平成27・4)は、末弘法学の戦前期を、次の三期に区分している。⁵⁾

「第一期」(大正九年〜大正一五年)——大正末期までの末弘の活動を一期として区分する。

「第二期」(昭和二年〜昭和一一年)——昭和期に入って「末弘の社会批評家としての活動に対する圧迫の度合いは次第に高くなり、自ずとその論調は制限的なものとならざるをえなかった」時期。

「第三期」(昭和一二年〜昭和二〇年)——政府の「総力戦体制

を擁護し、国民をそこに積極的に動員することを鼓舞・領導しようとするものへと急角度をもって変化していった」時期。

2 末弘法学の「転換」時期

石田眞と石井保雄の対立点は、大正デモクラシーのイデオログの一人であった末弘の論鋒に翳りが生じ始める昭和初期を、前の時代の延長として捉えるか、後の時代の前兆として捉えるかの違いにある。

(1) 昭和元年を画期とする区分

この点につき、大正期の終了・昭和改元を画期とする石井保雄¹ (3) の区分は、大正デモクラシー期を文字通り大正期とする見解に立ったものであるが、大正デモクラシーの終焉の時期については、昭和三年の第一回普通選挙までとする見解や、昭和六年の満州事変までとする見解など、種々の見方が存在する。一方、石井自身も、「昭和年代にはいり、『現代法学全集』の出版活動（昭和3・2〜昭和6・8）」と、その成功や法律時報誌の創刊（昭和4・12）は、大正デモクラシー法学の延長線上に位置するものであるといってもよいかもしれない⁶。とされている。

(2) 昭和八年を画期とする区分

他方、昭和八年を画期とする石田眞¹ (1) は、区分の

根拠につき、末弘の「『温情主義』や『経済統制』への批判に微妙な変化がみえ始めるのは、一九三三（昭和八）年に書かれた二つの『法律時観』（『法律時報五巻一号』「社会立法の睡眠」（昭和8・2）、一一号「非常時と社会立法」（昭和8・11）あたりからである」としている。⁷

昭和八年は、同年一月に『法窓漫筆』が発禁処分となるなど、直接の思想弾圧が末弘に及び始めた年であるが、しかし、瀬川信久によれば、末弘の民法分野に関する発表媒体は、昭和八年前後で変化するものの、主張内容に関する変化は認められないとされる。⁸ 瀬川の言説は、末弘法学は戦後に至るまで一貫していたとする見解（上記〔A〕説）に立つようにも読める。

(3) 昭和九年を画期とする区分

これに対して、水林彪は、末弘の国家・社会観に転換が見られるのは、昭和九年四月刊行の『法学入門』からであると⁹する。この点に関しては、石田眞¹ (1) も、末弘が同書において「全体主義ないし集団主義の立場に立つ法学を『新しい法律学』と規定し、自らもその立場に立つことを表明していた」¹⁰点に注目している。

だが、石井保雄も指摘するように、末弘『法学入門』は、『現代法学全集』掲載の「法学問答」（昭和3・2〜昭和

5・8)の改訂版であったから、水林彪や石田眞の論に従えば、末弘の全体主義的・集団主義的な国家・社会観は、すでに昭和三年の段階から存在していたことになる。

もっとも、この点は、振り返って石井自身の見解にも波及する。というのも、上記のように、石井は、昭和初期の末弘の法思想を、基本的には大正期の延長線上に捉えているから、末弘の全体主義的・集団主義的な国家・社会観は、大正デモクラシー期より存在していたことになってしまう。

(4) 昭和一二年を画期とする区分

昭和一一年二月二日の義兄・美濃部達吉銃撃事件とその五日後の二・二六事件から二か月を経た同年四月、末弘は東京帝国大学法学部部長の職を任期途中で辞し、難を逃れるかのように六月より外遊の途に着く(同年一二月帰国)。翌昭和一二二年を画期とする前記石田1(2)・石井1(3)の時代区分は、かかる末弘の身辺事情の変化を念頭に置いたものであろう。

二 末弘判例研究方法論

時代区分の問題については、ここでひとまず留保しておく、末弘法学をめぐる別の論点についても触れておくと、

石田眞・水林彪が末弘法学の変化を論ずる際に引用していた末弘『法学入門』は、平井宜雄が、川島武宜の判例研究方法論を批判する際にも引用されている。⁽¹²⁾ この論点に関する平井の問題意識は、次のようなものであった。⁽¹³⁾

「川島〔判例研究〕方法論」が「末弘方法論」の深い影響下に
あることは、川島博士が認めておられるとおりで、
しかし、両者の問題関心は大きく異なっているように思われる。
そして後に示すように、「川島方法論」が体系的に一貫した構造
をもつ「末弘方法論」を受け継ぎつつも、他面で自らの問題関
心に合わせていわば後者を「切り取って」撰取したことは、「川
島方法論」に理論的な不整合さをもたらしたものと考えられる。
したがって、「川島方法論」の意義を明らかにするには、「末弘
方法論」との差異に焦点を合わせることが必要なのではないか
と思われる。このような視角からの検討が適切か否かにつき多
くの異論があり得るであろうが――末弘法学の体系的構造につ
いてわれわれはすでに磯村哲教授のすぐれた分析を手にしてい
るけれども――川島博士の指摘されるとおり、「末弘方法論」に
ついては、未だに十分な検討がなされているとは言いがたく、
……〔以下略〕……。

一方、平井によれば、「川島方法論」と「末弘方法論」の
違いは、以下のようなものである。⁽¹⁴⁾

「川島方法論」が「末弘方法論」から受け継いだものは、川島博士自らが認めておられるところによれば、次の三点である。

すなわち、①裁判所が法を創造すること、言い換えれば判例が法源であることの強調、②裁判過程の理解のしかた（いわゆる「三つ巴理論」、すなわち裁判においては「事実認定と法律解釈と結論を生む心の働きとが三つ巴をなして……相互的に決定し合いつついついっさい一時に行われる」というもの）、③「実用法学」（すなわち法解釈学）の任務が裁判の予見にあるという主張。ところが、「末弘方法論」においては、右①に圧倒的に重点がおかれており、かつ右①と②および③との間に理論的連関性ないし一体性が存するの可否かは疑わしいと解すべきであるのに対し、「川島方法論」は、右②に圧倒的に重点をおき（あるいはそれを中心に末弘方法論を撰取し）、かつそれを中心として①および③とが理論的に統合されているものとして「末弘方法論」を理解しているように思われる。

だが、右の記述における「末弘方法論」の理解は、平井のオリジナルではなく、磯村哲の所見に全面的に依拠したものとされる。¹⁵⁾

そのためか、平井自身が参照している末弘のテキストは、『判例民法（大正一〇年度）』の序文（大正12・10）、『法学入門』（昭和9・4）、『民法雑記帳』所収「判例の法源性と

判例の研究」（初出）昭和16・2（3）の、わずか三点にすぎない。¹⁶⁾ しかも、『法学入門』を除く残り二つの文献は、末弘の膨大な数の著作の中から、むしろ平井が、自らの問題関心に合わせていわば「切り取って」選択・引用しているかのような印象を抱く。そして、この点は、『法学入門』の文章の読み取り方についても同様である。

これに対して、末弘の他の著作をも広く読み込んだうえで導出される結論は、やはり川島の理解しているように、末弘の判例研究方法論（さらには末弘法学全般）の中心は、②裁判過程論に関する「三つ巴理論」にあり、これを中心として、①法源論における判例の法源性の肯定や、③判例研究ないし法解釈学における社会学的考察が統合されているように見える。¹⁷⁾

三 初出・所収・復刻の異同問題

ところで、平井宜雄は、上記引用文献のうち『法学入門』と『民法雑記帳』に関して、戒能通孝編集「末弘著作集」の初版を利用している。¹⁸⁾

だが、末弘の著作に関しては、初出が単行本化された際の記載内容の変更、ならびに末弘死去後の復刻版における

記述の加工の問題に留意しなければならない。

1 末弘の生前の単行本化

すでに触れたように、『法学入門』は、『現代法学全集』に連載された「法学問答」の改訂版であった。一方、『民法雑記帳』は、『法律時報』の連載の単行本化であるが、こうした末弘の生前に（末弘自身の手によって）単行本に収録された文献については、第一に、単行本化の際に末弘自身が取捨選択や追加・修正を行い、あるいは解題・自注を加えたものがある²⁰。

第二に、末弘の著作の中には、当局の検閲や出版社の自主規制によって、伏せ字や削除の処理が施されたものがあるが、処理の時期については、①初出段階で行われたもののほか、②単行本化の際に行われたものや、③単行本の増刷・改版の際に行われたものがある²³。

2 末弘の没後の復刊等

一方、末弘没後の復刻等には、以下のものがある。

(1) 戒能通孝編『末弘著作集』

末弘の死去から二年後（昭和27・9）より刊行された戒能通孝編『末弘著作集』については、戒能の死去（昭和50・3）の五年後（昭和55・1）より「第二版」が刊行されているが、活字を改めたため頁数に変動が生じているも

の、戒能執筆の「あとがき」等を含め、内容に変更はない。

一方、その内容に関しては、清水誠も述べるように、「編集は、かなり戒能の工夫によって行われているが、戒能には書誌学的興味がなかったと思われ、出典、原典との関係などについての叙述が乏しい²⁴」。

のみならず、戒能は、末弘の記述を、注釈を付すことなく改竄している。以下では、石田眞の指摘する「法律と慣習——日本法理探求の方法に関する一考察」（昭和18・11）の記述内容の改変について触れておく。①同論文は、戦後、末弘自身によって②『続民法雑記帳』（昭和24・8）に収録され、さらに、その後、③戒能編『末弘著作集2 民法雑記帳（上）』（昭和28・10）に収められたが、末弘は、①論文を②に収録する際に、末尾の段落に存在した「大東亜共栄圏の法秩序……」の記述を削除した。一方、戒能は、③を編んだ際に（底本は②と考えられる）、①・②に存在した副題（「——日本法理探求の方法に関する一考察」）を削り、本文冒頭の「日本法理の探究、日本の法理学の樹立を目指して……」の語を、「法律と慣習の関係いかんの問題をめぐして……」に改めたほか、末尾の段落全体を削除した。この改変に関して、石田眞は次のように述べる²⁶。

<p>③</p> <p>昭和28・10 『末弘著作集2 民法雑記帳 (上)』三三七 頁 「法律と慣習」 昭和55・2 『末弘著作集 (第二版)』民法 雑記帳(上)』 二九二頁 「法律と慣習」</p>	<p>②</p> <p>昭和24・8 『続民法雑記 帳』三二二頁 「法律と慣習 ——日本法理探 求の方法に関す る一考察」</p>	<p>①</p> <p>昭和18・11 法律時報一五卷 一一号二頁 「法律と慣習 ——日本法理探 求の方法に関す る一考察」</p>
<p>〔末尾〕 (全文削除)</p>	<p>〔冒頭〕 日本法理の探究、日本法理学の樹立を目指して各種の方法が学者に依って提唱せられたつある。</p> <p>〔末尾〕 而して、かくして道義的にして而かも合理的なる法秩序を形成する構想こそは、今日吾々に課せられた重大任務であると私は信じている。蓋し中外に施して悖らざるの理は、常に道義的なると同時に合理的でなければならぬからである。</p>	<p>〔冒頭〕 日本法理の探究、日本法学の樹立を目指して各種の方法が学者に依って提唱せられたつある。</p> <p>〔末尾〕 而して、かくして道義的にして而かも合理的なる法秩序を形成する構想こそは、今日吾々に課せられた重大任務である大東亜共栄圏の法秩序の構成を考へるに付き正しき科学的基礎をなすものであると私は信じてある。蓋し中外に施して悖らざるの理は、常に道義的なると同時に合理的でなければならぬからである。</p>

末弘および戒能は、それぞれの著作の最後に解説を書いているが、こうした修正・削除について(て)の説明は一切ない。戒能の修正・削除に至っては、それによって文意がほとんど不明になっているが、それでも、修正・削除に関わる説明はない。ただ、残つたのは「科学の道」など「科学」に関する記述である。もし、こうした「戦争」や「植民地支配」への関与に関わる記述の密やかな修正や削除が、「科学」に関する記述を残すことによって正当化されてしまうのであれば、その「科学」とは一体何であったのか改めて問われなければならないことになる。

だが、この点に関しては、次のような考察の切り口もあるだろう。それは、先に触れた末弘法学の全体主義・集団主義への「転換」時期との関連であって、末弘は、本文冒頭の「日本法理」の語を、②『続民法雑記帳』でそのまま維持したのに対して、戒能は、③『末弘著作集』で、これを削除した。つまり、末弘自身は、教職追放の原因となつた日本法理研究会(昭和17・4設立)への参加を、国家主義への肩入れと認識していなかった。すなわち、末弘自身は、大正デモクラシー期から戦時体制期へと移る社会変化の中で、時局迎合的に主義・主張を「転換」したという意識はなかったし、⁽²⁷⁾したがってまた、戦後の時流に合わせて

自己の法思想を「再転換」させたという自覚もなかった。

だが、これに対して、戒能は、「日本法理」の語は差し障りがあると考えた。すなわち、末弘の愛弟子にして最大の擁護者であった戒能が「日本法理」の語を削除した——そのこと自体が、末弘の時局迎合的な「転換」の事実を、図らずも証言したことにならないのか。

(2) 川島武宜編『嘘の効用』

この点は、同じく末弘の高弟であった川島武宜編集の富山房版『嘘の効用(上)(下)』(昭和63・6、平成6・6)についてもいえる。同復刻版の「表題は『嘘の効用』であるが、内容は、末弘のすべてのエッセーから、後述の刊本(Ⅱ)『嘘の効用』(大正12・7)、『法窓閑話』(大正14・8)、『法窓雑話』(昭和5・10)、『法窓漫筆』(昭和8・1)、『法窓雑記』(昭和11・3)の五冊)から選んだものについては原典とも照合し、これらに収録されなかったものからも選んで集めたものであり、詳細な註と略年譜も付され、驚嘆すべき編集作業により編まれたものである²⁸⁾。なお、その下巻は、「Ⅰ 大正10年〜昭和2年」「Ⅱ 昭和3年〜昭和6年」「Ⅲ 昭和7年〜昭和15年」の三期に分けて末弘の著作を収録しており、この時代区分自体非常に興味深い、しかし、太平洋戦争開戦の年である昭和十六年以

降の著作が収められていない点には違和感を覚える。下巻の編集への川島の関与の程度は明らかではないが²⁹⁾、収録文献の取捨選択に際して、一定の配慮が働いた(編者が都合と感じた著作の収録を避けた)のではないかと、この疑念を抱く。

(3) 岩波現代文庫『役人学三則』

以上のほか、末弘の著作の復刻には、佐高信編集の岩波現代文庫『役人学三則』(平成12・2)がある。収録されている著作は、①「役人学三則」のほか、②「役人の頭」、③「嘘の効用」、④「小知恵にとらわれた現代の法律学」、⑤「新たに法学部に入學された諸君へ」、⑥「法学とは何か——特に入門者のために」の計六編であるが、底本は実にまちまちで統一性がなく、少なくとも書誌学的な考察には不向きである。

(4) 慧文社『嘘の効用』『法窓閑話』

なお、慧文社からは、平成二〇年に、末弘の最初のエッセイ『嘘の効用』(大正12・7)と、二番目のエッセイ『法窓閑話』(大正14・8)の初版を底本として、その表記を現代語に改めた改訂版が出版されている(底本の明白な誤植は一部改められ、新漢字・新仮名づかいに改められているが、訂正箇所に関する個別的な注記はない)。

（5） 日本評論社創業一〇〇年記念事業・出版

一方、「日本評論社創業一〇〇年記念事業」として同社が立ち上げた「日評アーカイブズ」からは、平成三〇年三月現在、以下の八点の書籍が復刊されているが――、

- ① 末弘嚴太郎監修・広瀬武文編『統制法令集』
 - ② 末弘嚴太郎『法窓雑話』
 - ③ 末弘嚴太郎『法窓漫筆』
 - ④ 末弘嚴太郎『法窓雜記』
 - ⑤ 末弘嚴太郎『民法雜記帳』
 - ⑥ 末弘嚴太郎『統民法雜記帳』
 - ⑦ 末弘嚴太郎『法学入門』
 - ⑧ 末弘嚴太郎責任編輯『現代法学全集』（全三九巻）
 - ①・④・⑤・⑥・⑧の四点が、初版の初刷を底本として
いるのに対して、②・③の二冊は改訂版、⑦の底本は戒能
通孝編『末弘著作集Ⅰ法学入門』初版（昭和二七年九月二
〇日発行）の一四刷（昭和三九年一月二〇日発行）である
（なお、⑦については、平成二八年に冊子版も刊行された）。
- さらに、同社からは、「日本評論社創業一〇〇年記念出版」として、平成三〇年二月段階で以下の二冊が復刊されているが――、
- ⑨ 末弘嚴太郎『新裝版・法学入門』

⑩ 末弘嚴太郎『新裝版・嘘の効用』

⑨は、上記⑦と異なり、戒能通孝編『末弘著作集（第二版）Ⅰ法学入門』（昭和55・1）の改版、⑩も、同じく戒能編『末弘著作集（第二版）Ⅳ嘘の効用』（昭和55・5）の改版であるところ、その旨の記載が、奥付の限りでしか存在していないのは、読者に不親切である（もつとも、前記（4）慧文社復刻版も、書誌事項となる書名部分や広告では底本が明らかでないので、書籍の現物を確認したうえで購入する人以外、底本が何かを知ることができない）。

――以上を要するに、今日行われている末弘の著作の復刻は、現在の研究者たち（すでに触れたように、彼らは、初出と収録の違いはもとより、刷の違いまで渉猟して末弘法学の変化の軌跡を追尾している）のニーズに応えられる水準にまで到達していない。

四 末弘法学の全貌把握

清水誠も述べるように、「末弘の考えを理解するためには、そのほぼ全著作を読み、その思想の全体について正確に焦点を結んだ映像を描かなければいけないと思う。その全体像を踏まえないと、その価値も欠点も見えてこないの

である」³⁰⁾。

1 清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」

そのため、清水は、「末弘の著作の初版本が次第に希少かつ脆弱になっていくことを考えると、末弘の思想の正確な全体像を後世に伝えるための著作集の刊行をぜひ実現させたいと切に望むのである」として、あくまでも初版を底本とした全集刊行の夢を語る。一方、清水は、全集の収録内容に関してもバイアスをかけず、たとえば「戦前のこの時期（日本法理研究会に關与した時期）にも、末弘は、法律時報に『時評』³²⁾を書き続けた。これは全編を収録したいと思う」としている。³³⁾

「法律時報」掲載の「時評」等については、平成三〇年五月に日本評論社編集部（編）『末弘厳太郎 法律時評・時評・法律時評集（上）（下）』が刊行されたが、しかしながら、清水の夢見た末弘の著作を網羅した初出・初版を底本とする全集の刊行は、今日の出版事情に照らせば、実現が困難である。

2 末弘の年譜・著作目録

となれば、われわれとしては、自力で末弘の著作を渉猟するしか方法はない。その際の必須のツールであるところの、末弘厳太郎の履歴・著作を整理した文献には、筆者の

知る限りでは以下のものがある。

- ① 「労働委員会における末弘博士の足跡」中央労働時報一八二号（昭和26・9）二頁
 - ② 「法律時報」編集部『末弘博士著書論文目録』法時二三卷一 号（昭和26・11）七八頁
 - ③ 松沢一鶴「日本水泳連盟名誉会長・末弘厳太郎先生略歴」水泳（日本水泳連盟機関雑誌）九二号（昭和26・11）三頁
 - ④ 水野紀子「末弘厳太郎先生略年表・主要著作目録」法時六〇 卷一 号（昭和63・10）一一一頁³⁴⁾
 - ⑤ 川島武宜編『嘘の効用（下）』（平成6・6）巻末「末弘厳太郎略年譜」四三七頁、「主要著編書目録」四四七頁
 - ⑥ 吉田勇「末弘講義『法律社会学』の成立経緯と講義内容」資料1「末弘に関する略年表——とくに『法律社会学』講義との関連において」六本佳平∥吉田勇編『末弘厳太郎と日本の法社会学』（平成19・3）一五七頁
- これらのうち、末弘の履歴に関して最も詳細なのは、⑤であるが、石井保雄は、「一九九四（昭和一九）年および四八（昭和二三）（年）の兩年について、一切言及がないのは、他の年次の記述が詳しいだけに不自然である」とする。なお、戦後の末弘に関しては、⑥が最も詳細であり、石井は、⑤と⑥を「併せ読むことにより、時系列に即して

「知ることができる」とする。³⁵⁾

一方、末弘の著作一覧（②・④・⑤）について、石井は「これらにおいては、末弘が参加した対談・座談の類は、法律時報のそれをのぞいて、掲載されていない。また各種新聞紙上でその見解を示したものについても一切、掲載されていない」点を指摘する。³⁶⁾

そこで、本稿末尾〈表1〉では、管見の及ぶ限りすべての末弘の著作及びその復刻を挙示するとともに、末弘の略歴を摘記しておいた。一方、〈表2〉は、末弘法学を直接のテーマとした資料を年代順に並べたものであるが、それ以外にも、民法・法社会学・労働法等の諸分野において、末弘の功績に言及した著作は枚挙に暇がない。

〈表1〉〈表2〉は、かつて末弘について調査した際に作りかけた資料を、石井保雄「労働法学の再出発」（平成29・8）の抜刷を惠贈賜ったことに触発されて仕上げたものである。依然として見落としている著作もあるだろうが、少なくとも従前の年譜・著作目録よりは詳細なデータをご提供できたと考えている。石井教授には、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。³⁷⁾

- (1) 末川博「特集・末弘博士と日本の法学」序説」（本稿末尾〈表2〉昭和26・11）、磯村哲「市民法学」（昭和34・6）^{36）9）}……（所収）『社会科学の展開と構造』（昭和50・3）など。
- (2) たとえば石井保雄「わが国労働法学の生誕」（平成27・4）二九頁注（8）は、磯村哲の理解を、「末弘法学を戦前から戦後にいたる一貫した理論体系として、捉えるものであり、そのことについては、疑問に感じる」とする。
- (3) 石田眞「末弘法学論」（昭和63・10）五六頁。
- (4) 石田眞「末弘労働方法論ノート」（平成1・3）三頁注（4）。
- (5) 石井保雄「わが国労働法学の生誕」（平成27・4）二七〜二八頁。
- (6) 石井保雄「わが国労働法学の生誕」（平成27・4）二七頁。
- (7) 石田眞「末弘法学論」（昭和63・10）五九頁。
- (8) 瀬川信久「末弘徹太郎の民法解釈と法理論」（平成19・3）一八四〜一八五頁。なお、石井保雄「わが国労働法学の生誕」（平成27・4）三二頁注（19）も参照。
- (9) 「座談会」末弘法学と現代——二二世紀の法学を展望する（特集・法律時報七〇年と末弘法学・民主主義法学）」（平成10・11）四〇頁（水林彪）「こうみてくると、末弘の国家・社会観はどのあたりで転換するのかということが気になります。が、ざっと見渡してみても、まとまったものとしては、三四年の『法学入門』（昭和9・4）が大きいと思います。権利義務的に構成された法的社会像から、各人が分をわきまえて、それぞれ社会全体のなかで義務を尽くす

- という国家・社会観への転換です」。
- (10) 石田眞「末弘法学論」(昭和63・10)一六二〜一六三頁。なお、石田眞「末弘法学の軌跡と特質」(平成10・11)一三〜一四頁も同様。
- (11) 石井保雄「わが国労働法学の生誕」(平成27・4)三二一頁注(16)。なお、『法学入門』(昭和9・4)「序」の末弘自身の言によれば、同書の「初めの五話は、もと現代法学全集の中に『法学問答』なる表題のもとに書かれたものであるが、それに特に法学入門者のために必要と思うことがらを第六話として新たに書き添えたものが本書である。現代法学全集に書かれたものの中には、なおこのほか別に二話があったが、これはそこで取扱われていることからの性質上、本書からはひとまずこれを除くことにした」ものである。
- (12) 平井宜雄「判例研究方法論の再検討——法学基礎論覚書・その三(一)〜(三・完)ジュリスト九五六号六一頁、九六〇号四一頁、九六二号一三六頁(平成2・6)7、9)……〔所収〕『判例研究方法論の再検討——統・法学基礎論覚書2』(平井宜雄著作集I) 法律学基礎論の研究」(有斐閣、平成22・12)二六三頁。
- (13) 平井宜雄・前掲注(12)〔所収〕二六八〜二六九頁……なお、〔初出〕では「(一)六三〜六四頁。
- (14) 平井宜雄・前掲注(12)〔所収〕二六九頁……なお、〔初出〕では「(一)六四頁。
- (15) 平井宜雄・前掲注(12)〔所収〕二七四頁注(37)……なお、〔初出〕では「(一)六九頁注24」「本文中で述べたところは」結局、磯村「社会科学の展開と構造」の解釈であり、本稿は『末弘方法論』の解釈についてもこれに全面的に
- 負っていることを意味する」。
- (16) 平井宜雄・前掲注(12)〔所収〕二六八頁注(13)……なお、〔初出〕では「(一)六三頁注(13)。
- (17) 七戸克彦「末弘厳太郎の青春」(平成27・12)一八八頁注(21)。
- (18) 平井宜雄・前掲注(12)該当箇所参照。
- (19) たとえば先にも触れた『法学入門』(昭和9・4)につき、前掲注(11)参照。
- (20) たとえば『嘘の効用』(大正12・3)に収録された諸論稿の冒頭には、初出の執筆経緯や内容に関する末弘自身の説明が掲載されている。
- (21) 「時事雑感」その一・警察権の濫用」改造一一巻二号(昭和4・2)の冒頭箇所など。川島武宜編『嘘の効用(下)』(平成6・6)二四五頁参照。
- (22) 「司法官と社会思想」改造九巻三号(昭和2・3)を、『法窓雑話』(昭和5・10)に収録した際の「六」前半部分の削除など。川島武宜編『嘘の効用(下)』(平成6・6)二一五頁参照。
- (23) たとえば「法律的闘争と実力的闘争」改造九巻一号(昭和2・1)は、『法窓雑話』の初版第一刷(昭和5・10)に取められたが、その後の増刷の際に削除された。なお、削除の時期につき、川島武宜編『嘘の効用(下)』(平成6・6)一九〇頁は、改訂第一版(昭和13・10)での削除を確認しているが、国立国会図書館デジタルコレクション公開資料からは(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndjp/pid/1278616>)すでに「五版(『初版五刷』(昭和11・2)段階で削除されていることが分かる。

- (24) 清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成13・1) 八二頁。
- (25) 石田眞「植民地支配と日本の法社会学」(平成14・7) 一六頁。なお、石田眞「末弘法学論」(昭和63・10) 六三頁も参照。
- (26) 石田眞「植民地支配と日本の法社会学」(平成14・7) 一六頁。
- (27) 清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成13・1) 八五頁も、「この文章〔法律と慣習〕を戦後に出た『続民法雑記帳〕」にみずから副題もそのまま収載したのであるから、末弘には、『日本法理』のチョウチンをもつたという意識はなかったであろう」とする。
- (28) 清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成13・1) 八二頁。
- (29) 「川島は、下巻編集の途中で死去し、完成および略年譜・下巻の註の付加は、向山寛夫と編輯部によってなされている」。清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成13・1) 八二頁。
- (30) 清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成13・1) 八二頁。
- (31) 清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成13・1) 八三頁。
- (32) (引用者注) ……この短評の表題名は、創刊号(一巻一 号、昭和4・12)〜二巻二号(昭和15・2)は「法律時 観」で、一二巻三号(昭和15・3)〜一七巻三〇四号(昭 和20・3||4)が「時評」、戦後復刊の一八巻一号(昭和 21・1)から現在に至るまでが「法律時評」である。
- (33) 清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成13・1) 八五 頁。なお、清水は、この時期に末弘が「法律時報の『時 評』欄」に書いた『日本法理研究会』昭和一五年一月号、『勤労根本法』昭和一八年三月号……後者は当時提案され ていた勤労根本法についての時評であるが、末弘の文章と しては最低のものと思う」としている(八五頁)。それで も「時評」の全編をそのままの形で収録すべきとする清水 の編集方針は、戒能通孝ら末弘の弟子たちの態度と根本的 に異なる。
- (34) なお、この略年表・著作目録は、「法律時報」掲載の七年 前である昭和五六年一〇月二日に東京・麻布烏居坂の国 際文化会館で開催された末弘の没後三十年祭追悼会での配 付資料として、当時東京大学法学部助手であった著者(水 野)により作成されたものである。
- (35) 石井保雄「労働法学の再出発」(平成29・8) 二三〜二四 頁注(3)。
- (36) 石井保雄「労働法学の再出発」(平成29・8) 四七頁注 (10)。
- (37) ところで、清水誠「末弘厳太郎著作集刊行の夢」(平成 13・1) 八五頁は、全集中には「末弘の教職追放に関する 資料を取めたいと思う。……田中耕太郎が、末弘追放のた めに文部大臣になったと取り沙汰されるこの問題の真相を 当時を知らないわれわれ以後の世代のために明らかにして おきたいと思うのである」としていた。
- 末弘の教職追放の件に関しては、石井保雄「労働法学の 再出発」(平成29・8)も、きわめて詳細な考察を加えてい るが(六一頁以下「三 末弘の教職追放とその評価」、教

職追放問題をどのように評価するかは、末弘法学の時代区分あるいは末弘法学の「転換」（石井の用語法によれば「転回」）の問題と、密接に関連している。

戦時体制下の法学者の行動に関しては、穂積重遠にせよ、我妻栄にせよ、大なり小なり時局迎合的な部分があったことを否定できない。にもかかわらず、穂積法学・我妻法学が、戦時体制期に「転換（転回）」し、戦後「再転換（転回）」したと評価されないのは、彼らが教職追放・公職追放を受けなかったからである。

となれば、もし末弘の教職追放が田中耕太郎の策謀による不当処分であり、本来取り消されてしかるべきものであったとすれば、振り返って、末弘の戦時体制期の行動は、時局迎合的な「転換（転回）」と評価するほどのものではなかったことになり、結局、末弘法学は大正デモクラシー期から首尾一貫していたとする理解（＝本稿冒頭で触れた古典的な（A）説）が正しかったことになる。

なお、この問題に関して、石井保雄「労働法学の再出発」（平成29・8）七六頁は、「末弘の戦時中の言動をいかに捉え、理解し、そしてこれのように評価すべきか」という問題と、敗戦直後の教職追放事実とは明確に区別して議論されるべきであろう」と結んでいる。

戦後の教職追放と、戦時体制下の実際の行動は別物であるとの所説は、まったくもって正論ではあるけれども、しかし、実際問題として、もし仮に教職追放の史実について完全に無知の状態で、戦時体制下の末弘の著作を虚心坦懐に熟読したとして、はたして末弘の「転換（転回）」を認定するかどうかについては、返答に窮する（末弘の「転換

（転回）」を認定するなら、穂積重遠や我妻栄についても「転換（転回）」を認定し、戦後彼らは「再転換（転回）」したと評価して、穂積法学・我妻法学の時代区分をするであろう）。

このほか、いささか瑣末な事柄ながら、石井保雄「労働法学の再出発」（平成29・8）八一～八二頁注（93）は、末弘が「撃剣部に所属していたことを考慮すれば、大日本武徳会の『役員』——ただしいかなる地位・役職に就いていたのかは不明——となっていたのは、自然なことであろう」としているが、第一に、末弘の地位は、武徳会「本部」の「理事」であり（なお、就任時期については、後記文献①が昭和一八年五月としているのに対し、②は昭和一九年六月一日としている）、第二に、理事就任の理由は、撃剣（剣道）ではなく水泳である（昭和一七年四月七日日本体育会常務理事・錬成部長・水泳部会長から、昭和一九年四月二〇日理事長に就任したことによる「充て職」と考えられる）。①松沢一鶴「日本水泳連盟名誉会長・末弘厳太郎先生略歴」（昭和26・11）六頁、②坂上康博「武徳会パージの審査実態——審査結果の全体像と本部役員のパージを中心に」一橋大学スポーツ研究三〇巻（平成23・10）「表3 武徳会本部の役員の審査結果」九頁。

〈表1〉 末弘巖太郎略年譜・著作目録

一八八八 (明治21) 0歳	11 30 末弘巖石・よし(芳子)の長男として山口市に生まれる	
一八九四 (明治27) 6歳	4 東京・本郷尋常小学校入学	
一九〇五 (明治38) 17歳	3 東京・開成中学校卒業 業 業 第一高等学校入学	
一九〇八 (明治41) 20歳	9 7 1 第一高等学校卒業 東京帝国大学入学	
一九一〇 (明治43) 22歳	3 1 新渡戸稲造校長排斥演説	9 1 「高水泳部・部歌」(狭霧(はれゆくあかつきの))作詞 「故木下(広次)前(第一高等学校)校長追悼会」(甲辞)「校友会雑誌二〇二号
一九一一 (明治44) 23歳	3 1 徳富蘆花「謀叛論」糾弾演説	5 3 「(雑録)責任能力と酩酊」法協二九卷三号 「(雑録)確定判決と良俗違反(ルードルフ・ダールベルヒ博士所説)」(抄訳)「法協一九卷五号
一九一二 (明治45) (大正1) 24歳	9 7 10 東京帝国大学卒業 東京帝国大学大学院入学	7 「(雑録)過失ナキ不法行為」法協三〇卷七号……「(再録)末弘巖太郎「論議」無過失損害賠償責任論」法時二五卷九号(昭和29・9) 11 12 「(雑録)土地ノ定着物(一)(二・完)」法協三〇卷一一一〇二号
一九一三 (大正2) 25歳		3 「(雑録)成文法ノ解釈ト不文法(ゲーザ・キッス述)」(抄訳)「法協三一巻三号」 6 「水泳部部史」(向陵誌(第一高等学校寄宿寮)) 9 11 「(論議)鉱業権ノ本質(一)」「(三・完)」法協三一巻九一〇一号
一九一四 (大正3) 26歳	7 31 「第一次世界大戦勲賞」 東京帝国大学法科大学助教	2 「占有権ノ侵害ト不法行為」法学志林一六巻二号 3 3 5 「第三者ノ債権侵害ハ不法行為トナルカ(一)(二)」法曹記事二四巻三号、五号 3 5 「債権者難(上)(中)(下)」法学志林一六巻三〇五号

一九一五 (大正4) 27歳	9	長男・巖夫誕生	12	「嗚呼川名兼四郎先生」法協三二卷一一号
一九一六 (大正5) 28歳	1	二男誕生(名不詳・夭折)	3 4 5	「論説」双務契約不履行不能(一)〜(四・完) 法協三四卷三号〜六号 「死因贈与ニ就テ」法学新報二六卷四号 「目的ヲ定メテサレテ処分ヲ許サレタル未成年者ノ財産ト取得シ得ヘキ債務ノ弁済」法学新報二六卷五号
一九一七 (大正6) 29歳	5 2	民法第四講座分担を命じられる 文部省より欧米留学を命じられる	7 6 2	「欽業法判例批評1」欽業権侵害ニ因ル不当利得」法協三五卷二号 「債権各論(第一分冊)」(有斐閣) 「欽業法判例批評2」欽業権ノ公売落札ト登録税」法協三五卷七号 「欽業法判例批評3」欽業法三三二条ノ二第一項ノ適用範圍(共同試掘権者ト優先権)」法協三五卷七号
一九一八 (大正7) 30歳	11 10 19 11	留学に出発 三男・忠夫誕生 (第一次世界大戦終結)	6 4 3	「債権各論(第二分冊)」(有斐閣) 「債権各論(第三分冊)」(有斐閣) 「債権各論(全)」(有斐閣、合冊初版)
一九一九 (大正8) 31歳	1	ドイツ留学中、パリ講和会議出席の全權団から労働問題について諮問を受ける		
一九二〇 (大正9) 32歳	10 9 4 27 10	平和条約実施委員 法学博士 帰国 民法第三講座担任		
一九二一 (大正10)	1 1 1		1	「雑録」仏国に於ける新職業組合法」法協三九卷一号……「所収」改題「仏国新職業組合法」『労働法研究』(大正15・10) 「所有権思想変革の提唱」法律新聞一七八一号 「平和条約の実施の為にする独逸の国内法令に就て」国際法外交雑誌二〇卷一号
	11 7	大日本体育協会主催 第一回水泳大会役員 第一高等学校で「法学通論」を講義 菊地冬子(菊地大麓・三女)と結婚 川名兼四郎死去		

11 16 4	11 4	(原敬暗殺事件) 臨時法制審議会幹事	2 18	民法第四講座分担	1	〔成年年齢の話〕中央法律新報一卷一号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)
					1	〔講演〕住宅問題と新借家法案—日本社会学院年報九卷一号、二号
					1	〔法律と美術〕中央法律新報一卷二号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)
					2	〔借家法案に就て〕(一) (二) (三) 時事新報
					2	〔雜録〕官吏組合権に関する弘国の新法案 法協三九卷二号
					2	〔論説〕住宅問題と新借家法案(一) (二) 法協三九卷二号、三号……〔所収〕「嘘の効用」(大正12・7)
					3	〔子福者に勲章を与へる法律の話〕(一) 中央法律新報一卷三号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)
					3	〔民法改造の根本問題〕(一) (二) 法学志林三卷三号、四号……〔所収〕「嘘の効用」(大正12・7)
					4	〔法律家から見た住宅問題〕法協三九卷四号
					4	〔良い新聞記者を作る法律の話〕中央法律新報一卷四号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)
					5	〔雜録〕中島博士の著書に引用された余の所説に就て 法協三九卷五号
					7	〔弘蘭西労働連盟の動搖〕(一) (二) 国家学会雜誌三五卷七号、八号……〔所収〕「嘘の効用」(大正12・7)
					7	〔論説〕質銀の保護(一) 法協三九卷八号……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10)
					8	〔最近の学説〕法律の人間味—変態心理八卷二号
					8	〔ブルガリアの強制労働法〕中央法律新報一卷八号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)
					8	〔判民大正10年度2〕貸借借—相殺の溯及及び契約解除に及ぼす効力 法協三九卷九号
					9	〔判民大正10年度4〕法人の権利能力並に行爲能力—生命保険会社の取締役が個人名義で振出した約束手形に対し自ら会社を代表し保証を与へた場合に於ける会社の責任 法協三九卷九号
					9	〔陪審法案を読みたる後の感想〕東京日日新聞……〔所収〕「嘘の効用」(大正12・7)、川島編「嘘の効用」(下)〔平成6・6〕
					10	〔物権法(上巻)(有妻園)……(復刊)(一粒社、昭和35・10)
					10	〔判民大正10年度12〕隣地者関係—宅地の地盛りによる相続宅地の侵水—妨害予防請求権、(二)登記なき地役権に対する妨害—妨害除去請求権 法協三九卷一〇号
					10	〔判民大正10年度15〕(一)時効—時効完成に於ける債務の承認の効力、(二)代理—代理権限の範囲に関する意見解釈 法協三九卷一〇号
					10	〔判民大正10年度16〕(一)債権譲渡—譲渡の通知を要せざる旨の特約の効力、(二)抵当権—債権譲渡を債務者に対抗し得ざる讓受人が其債権を担保するに於ける抵当権の実行として爲したる競売申立の効力 法協三九卷一〇号
					10	〔判民大正10年度22〕即時取得—無権利者より立木を買受伐採した者に一九二条を適用し得るか—過失の有無 法協三九卷一〇号
					11	〔判民大正10年度33〕(一)売渡担保—不履行の場合に損害額に關係なく担保物全部を留保し得るや否や、(二)利息制限法—制限外利息の取戻 法協三九卷一〇号
					11	〔判民大正10年度39〕(一)債権譲渡—譲渡の通知を免除する特約の効力、(二)不動産物権変動の對抗要件—民法第七七条の「第三者」に該当せざる者 法協三九卷一〇号
					11	〔判民大正10年度44〕(一)売渡担保—流質禁止規定(第三四九条)の適用を受くるか、(二)不法行為—執達吏をして不当の執行を爲さしめた債権者の責任 法協三九卷一〇号
					11	〔判民大正10年度47〕債務不履行—売主の債務不履行に因る損害賠償の範囲—中間最高価格を請求し得ざる場合 法協三九卷一〇号〔平野義太郎評釈への付記〕
					11	〔判民大正10年度48〕不法行為—(一)善意占有者の果実取取権に対する本権者の侵害、(二)不法行為以後被害物の騰貴したる価格を賠償せしむるの可否—損害賠償額に対する法定利息の算定方法 法協三九卷一〇号
					11	〔家族制度に就いて〕(一) (二) 東亜の光一六卷一、二、二二、二二二

12 2 民法第一講座分担 大日本体育協会常任 理事	12 12	「判民大正10年度53」 売渡抵当—動産の売渡抵当権者から其動産を買受けたる者より現に其動産を占有したる債務者に対する引渡請求権」 法協三九卷一—号 「判民大正10年度58」 立木法の適用無き立木—二種の公示方法の優劣」 法協三九卷一—号
2 6 (ワシントン海軍軍縮条約)	2 2	「判民大正10年度68」 仮登記—將來外国人が土地所有権を得るに至らば之を譲渡する旨の特約の効力と仮登記—其抹消方法」 法協四〇卷一—号 「判民大正10年度71」 不法行為—工場災厄」 民法第七一—五条に所謂「第三者」の意義—「事業ノ執行ニ付」加へたる損害の意義—被害者の過失有無—損害算定方法」 法協四〇卷一—号 「判民大正10年度74」 解除—特定物売買の解除と物権的効力」 法協四〇卷一—号 「判民大正10年度79」 仮登記—甲より乙丙丁に所有権を移転したる旨の仮登記ありたる場合甲より丙丁に向つて同一物を移転したる旨の本登記ありたる場合の効力」 法協四〇卷一—号 「物権法(下巻・第一分冊)(有斐閣) 「判民大正10年度85」 質借借—登記され又は建物保護法の要件を備へた土地質借権の物権性—地主変更の場合、旧地主は質借関係より脱退するか」 法協四〇卷二—号 「判民大正10年度99」(一)和解契約は解除し得るか、(二)登記—虚偽表示を理由とする登記回復は移転登記を以て之を為し得るか、(三)共有者の一人の共有物引渡請求—法協四〇卷二—号 「判民大正10年度105」 地役権—民法施行前に設定された地役権の登記—民法施行法第三七条に所謂「第三者」法協四〇卷一—号
4 10 学内・図書館改良案 立案委員	4	「判民大正10年度114」 意思表示—妻の氏名を借りて手形に署名した者の責任」 法協四〇卷二—号 「判民大正10年度118」 即時取得—盗品の即時取得と其返還請求権」 法協四〇卷三—号 「判民大正10年度211」 仮登記—登記原因無効に因る抹消登記の仮登記は可能なりや」 法協四〇卷三—号 「判民大正10年度132」 取引仲買人にあらざる者が仲買人の名義を借りて為したる売買の効力—其売買を原因として振出したる手形の効力」 法協四〇卷三—号 「過激社会運動取締法案批判」(東京日日新聞……「所収」「嘘の効用」(天正12・7)、別冊法律時報「破壊活動防止法—逐条解説と総批判」(昭和27・8)、戒能編「未弘著作集(第二版)IV嘘の効用」(昭和55・5)、川島編「嘘の効用」(平成6・6)
6 29 東京市会議員(本郷区)次点で落選 法理研究会にて穂積	6 6 6 5 5 5 5 4 4 4	「判民大正10年度」 解除—契約者にあらざる者の「催告」と契約解除」 法協四〇卷四号 「農村法律問題(一)」(四)改造四卷四号、六号、八号、九号 「民法教材判例集(総則之部・第一分冊)(有斐閣、末弘敏太郎編) 「雑録」仏国労働協約法(労働法研究資料其の二)」 法協四〇卷五号……「所収」「労働法研究」(大正15・10) 「判民大正10年度144」 不動産登記—隠居者より不動産を譲受けて未だ登記を受けて未だ登記を受ける者が現に相続人の占有せる其不動産に付て強制競売の申立を登記した者に對抗し得る場合と否と」 法協四〇卷五号 「判民大正10年度148」 質借権に妨害排除請求の効力ありや」 法協四〇卷五号 「過激思想取締案批判」(棚橋小虎記念論集「新社会的秩序」(同人社書店) 「判民大正10年度164」 契約解除の理由を変更するは訴の変更となるか」 法協四〇卷六号 「判民大正10年度166」 抵当権—抵当権附不動産譲受人が競売の爲め不動産を失つた場合の求償権—代位権の有

一九二三 (大正12)		34歳
<p>重遠 Ⅱ 末弘徹太郎 Ⅱ 我妻栄 Ⅱ 中川善之 助 Ⅱ 田中誠 Ⅱ 平野 義太郎 「判例に現れ たる親族会」 報告 〔我妻栄、東京帝大 助教授〕</p>	<p>8 軽井沢夏期大学（第 五回）講義「労働法 制」</p>	<p>11 四男・重夫誕生</p>
<p>3 1 過激社会主義運動取 締法案反対演説会に 登壇 〔陪審法〕</p>	<p>7 16 〔我妻栄、東京帝大 助教授〕</p>	<p>11 四男・重夫誕生</p>
<p>5 8 小作制度調査委員 第六回極東選手権競</p>	<p>7 7 〔我妻栄、東京帝大 助教授〕</p>	<p>11 四男・重夫誕生</p>
<p>5 21 第六回極東選手権競</p>	<p>7 16 〔我妻栄、東京帝大 助教授〕</p>	<p>11 四男・重夫誕生</p>

<p>35歳</p>	<p>12 14 東京帝国大学セツルメント設立総会(会長就任)</p>	<p>「[判民大正11年度65] 意思能力なき幼児の養子縁組と其母の代理承諾」法協四一卷五号 「[評論] 無産者の立場より見たる陪審制度」解放五卷五号……〔所収〕「嘘の効用」(大正12・7)、川島編「嘘の効用」(下)〔平成6・6〕 「[論説] 従業規則の法律的性質—貨銀の保護(二)」法協四一卷六号……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10) 「[判民大正11年度70] 家督相続人廃除の原因としての「虐待」」法協四一卷六号 「嘘の効用」(改造社) 「[判民大正11年度79] 家督相続の缺格者—傷害致死は缺格原因となるか」法協四一卷七号 「誤判賠償の根本原理」改造五卷七号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6) 「智育と体育との調和について」大阪毎日新聞社〔編纂〕「極東オリムピック優勝選手の練習法(陸上競技全国巡回コーチ記念)」(大阪毎日新聞社・東京日日新聞社) 「[論説] 従業規則の制定及び公示—貨銀の保護(三)(四)」法協四一卷八号、九号……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10) 「[判民大正11年度86] 取得時効—筆の土地の一部は独立して取得時効の目的となるか？」法協四一卷八号 「[判民大正11年度93] 消費貸借—現実の授受に代へて銀行預金通帳及印章を借主に交付したときは消費貸借成立するか？」法協四一卷八号 「[判民大正11年度100] 共同遺産相続と賃料債務—相続人一人に対する催告の効力と賃貸借解除」法協四一卷八号 「所謂「文化生活」の経済的觀察」文化生活の基礎三卷八号 「工場法の改正に就て」工場研究五卷八号……〔所収〕「嘘の効用」(大正12・7) 「水泳の新傾向—婦人之友」一七卷八号 「帝都大震災火災系統地図序言」東京帝国大学罹災者情報局調査「大正一二年九月帝都大震災火災系統地図」(大阪毎日新聞社・東京日日新聞社)……〔所収〕福島正夫、川島武宣編「穂積・未弘両先生とセツルメント」(東京大学セツルメント法律相談部、昭和38・4)〔附録・柳島セツルメントに関する資料〕、福島正夫、石田哲一、清水誠編「回想の東京帝大セツルメント」(日本評論社、昭和59・6) 「[判民大正11年度]」序 「[判民大正11年度109] 同時履行の抗弁—売品の引渡ありたりや否やの認定問題—慣行に依る「引渡」」法協四一卷一〇号 「[時評] 震災について感想二つ」改造五卷一〇号……〔所収〕改題「震災についての感想」法窓閑話(大正14・8) 「帝都復興と借地権借家権の保護」改造五卷一〇号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8) 「帝大生救護団の活動に就て」改造五卷一〇号 「震災復興の第二期」大阪毎日新聞 「軍法会議廃止論」改造五卷一〇号……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6) 「帝都大震災火災系統地図(東京帝国大学罹災者情報局調査)」(大阪毎日新聞社・東京日日新聞社)〔序言〕……〔所収〕「穂積・未弘両先生とセツルメント」(東京大学セツルメント法律相談部、昭和38・4)、「回想の東京帝大セツルメント」(日本評論社、昭和59・6)</p>
<p>一九二四 (大正13)</p>	<p>1 〔国際労働機関(ILO)駐日事務所業務開始〕</p>	<p>1 1 「[判民大正11年度16] 買戻—買戻権譲渡の對抗要件」法協四二卷一 「[判民大正11年度12] (一)民法第三九二条一項の地位の発生時期—其以前地位の目的たる抵当権が混同の爲め消滅したる場合救済手段の有無—(二)混同に因る抵当権消滅と抹消登記の要否」法協四二卷一 「小作人と土地所有権」東京朝日新聞……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6) 「戸主権制の不合理」東京日日新聞</p>

	36歳																				

一九二五 (大正14)	15 社会局(内務省外局) 参与	1	「家族制度論——二片の紙片」としての家族制度—大阪毎日新聞……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)
4 22	〔治安維持法〕	4	「判民大正13年度7」推定地上権の對抗要件」法協四三卷一〇号
4 24	大日本水上競技連盟 会長	2	「判民大正13年度10」連帯保証—特定不動産売主の爲にする連帯保証人の責任」法協四三卷四号
5 5	〔普通選挙法〕	2	「判民大正13年度43」(一)共有—共有の性質——(二)共同訴訟—共有者相互間の持分権確認訴訟は必要的共同訴訟なりや」法協四三卷五号
5 5	〔普通選挙法〕	2	「判民大正13年度53」請負—同時履行の抗弁—期日に仕事を完成せざりし請負人は相手方の代金提供なきことを理由として仕事の結果を引渡さざるに付いての責任を免れ得るか?」法協四三卷五号
6 7	〔普通選挙法〕	6	「醇風美俗と親族法の改正」国民新聞……〔所収〕「法窓閑話」(大正14・8)
8 8	〔普通選挙法〕	8	「法窓閑話」(改造社)……〔現代語版〕「法窓閑話」(平成20・6)
9 9	〔普通選挙法〕	9	「判民大正13年度77」不法行為—騒擾罪及公務執行妨害罪の共同不法行為上の責任」法協四三卷九号
10 10	〔普通選挙法〕	10	「労働組合法の制定と契約の自由」帝国大学新聞一三〇号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第一卷)(不二出版、昭和59・4)
12 12	〔普通選挙法〕	12	「労働組合法制定に関する諸問題」改造七卷一〇号……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10)
37 歳	37 歳	10	「判民大正13年度100」登記—必要書類を添附せざる登記申請が不当に受理せられたる場合の救済方法—抗告か訴か?」法協四三卷一一号
一九二六 (大正15)	一九二六 (大正15)	1	「判民大正13年度110」売渡担保—不動産の売渡質—債権者の担保物取毀と債務者の救済手段—担保物所有権か内部的にも債権者に移転したりや否やの準証責任」法協四三卷一一号
1 1	〔労働争議調停法〕	1	「判民大正14年度6」違法なる斤先掘契約により採掘したる石炭の売買は他人の物の売買として有効なりや又は無効なりや」法協四四卷一号
1 1	〔労働争議調停法〕	1	「労働協約と法律」改造八卷一号……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10)
2 2	〔労働争議調停法〕	2	「農村に於ける法律戦と農村の平和」東京日日新聞……〔転載〕農政研究五卷二号(大正15・2)
2 2	〔労働争議調停法〕	2	「農村に於ける法律戦と農村の平和」農政研究五卷二号
2 2	〔労働争議調停法〕	2	根本的に改善せられたる労働組合法案」改造八卷二号……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10)
2 2	〔労働争議調停法〕	2	「労働組合取締法案を評す」(一)〃(六)〔追記〕東京朝日新聞……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10)
3 3	〔労働争議調停法〕	3	〔摘録〕児童と法制」児童研究三〇卷二号
3 3	〔労働争議調停法〕	3	「児童と法制」社会事業九卷一二号
4 4	〔労働争議調停法〕	4	「子弟の職業選択に就て」改造八卷三号……〔所収〕「法窓閑話」(昭和5・10)
6 6	〔労働争議調停法〕	6	「法理研究会記事」帝大セツルメントを通して見たる法律」法協四四卷四号(講演要旨記録・杉之原舜一記)
6 6	〔労働争議調停法〕	6	「民法講話」(上巻)(岩波書店)
6 6	〔労働争議調停法〕	6	「社会科学研究の自由と大学」帝国大学新聞一七〇号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
7 7	〔労働争議調停法〕	7	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
7 7	〔労働争議調停法〕	7	「判民大正14年度54」土地収用法—収用地に対する事業廃止と旧所有者の買受の意思表示」法協四四卷七号
7 7	〔労働争議調停法〕	7	「労働争議調停法解説」改造八卷七号……〔所収〕「労働法研究」(大正15・10)
7 7	〔労働争議調停法〕	7	「毛虫の人口問題」経済往来一卷五号
5 25	〔労働争議調停法〕	5	〔絶えまなき緊張と努力〕日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
5 5	〔労働争議調停法〕	5	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
4 10	〔労働争議調停法〕	4	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
4 10	〔労働争議調停法〕	4	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
4 9	〔労働争議調停法〕	4	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
4 9	〔労働争議調停法〕	4	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
4 10	〔労働争議調停法〕	4	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
5 25	〔労働争議調停法〕	5	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
5 25	〔労働争議調停法〕	5	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
5 25	〔労働争議調停法〕	5	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
5 25	〔労働争議調停法〕	5	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)
5 25	〔労働争議調停法〕	5	「絶えまなき緊張と努力」日本水泳選手に望む」帝国大学新聞一七二号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第二卷)(不二出版、昭和59・4)

昭和1)	38歳	12	一九二七 (昭和2)	5	6 5 4 4 3 3 3 3 2 2 2 2 1 1 1	
<p>9 28 仏語課外講義開講 社会科学同人会設立 末弘も同人となる</p>	<p>〔判民大正14年度64〕登記—未登記不動産の時効取得と登記の要否—法協四五卷八号 〔学校とスポーツと芸術〕文芸春秋四卷八号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔講演〕労働者教育と社会教育—講演パンフレット通信(東京講演会)二号 〔判民大正14年度73〕濼除—増佃競売請求書と到達の要否—相手方の到達妨害—増佃競売は公示送達により得べきか—法協四五卷九号 〔労働法研究〕(改造社) 〔学生事件批判〕—学生検挙事件についての感想(三三)改造八卷一—号……〔所収〕改題「学生検挙事件について」 〔法窓雑話〕(昭和5・10、川島編)「嘘の効用(下)」(平成6・6) 〔上毛モスリン事件と資金保護法の必要〕改造八卷二—号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔学生検挙事件について〕帝国大学新聞一八〇号……〔復刻版〕「帝国大学新聞(第二卷)」(不二出版 昭和59・4) 〔判民大正14年度105〕不法行為—共同不法行為者の一人に対する仮処分要する費用は他の一人に対しても之を請求し得るか—法協四五卷二—号 〔判民大正14年度109〕不法行為—不法行為の目的たる「権利」の意義—湯屋業の老舗は権利なりや—法協四五卷二—号 〔判民大正14年度114〕不法行為—普通水利組合が他人の水利権を害したる場合の責任—損害賠償の訴は司法裁判所の権限に属するか—法協四五卷二—号 〔経済随想〕交通問答—東京朝日新聞</p>	<p>12 法理研究会 末弘「小作法案について」報告</p>	<p>1 〔判民大正15 昭和元年度4〕買戻—必要費有益費の支払を以て買戻の条件とする買戻特約の効力—法協四五卷一—号 〔小作法案綱に対する私の見方〕農業経済研究三卷一—号 〔法律的闘争と実力的闘争—小作法案綱に対する世評について〕改造九卷一—号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 10. 第一版以降削除、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6) 〔小作協約法に関する多少の考察〕社会科学研究一—卷一—号 〔小作法案について〕法協四五卷二—号 〔判民大正15 昭和元年度12〕民法第三八八条の法定地上権—土地抵当権設定後建築せられたる建物が競売となりたる場合競売人は法定地上権を主張し得るか—法協四五卷二—号 〔電柱問答〕—経済往来二卷二—号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔一〕の論議「社会経済体系・第五卷」(日本評論社) 〔労働協約法概論—大宅社〕(編)「社会問題講座(第二卷)」(新潮社) 〔司法官と社会思想—暴力行為処罰法其他に関する大審院最近の判決について〕改造九卷三—号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10、川島編)「嘘の効用(下)」(平成6・6) 〔特別説物〕小作法問答—文芸春秋五卷三—号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔耕地争奪戦と小作法案綱〕エコノミスト五卷三—号 〔判民大正15 昭和元年度27〕消滅時効—差押に着手したるも無財産の為め執行不能に終りたる場合に中断の効果ありや—法協四五卷四号 〔相続問答—経済往来二卷四号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔論議〕交通に対する無理解と交通教育の必要—道路の改良九卷五号 〔判民大正15 昭和元年度42〕即時取得—即時取得の目的となりたる盗贓品について故買罪成立すべきか—民法第一九二条と第一九三条との関係—法協四五卷六号</p>	<p>3 〔昭和金融恐慌発生〕 3 25 〔平野義太郎助教授 3 26 〔我妻栄 東京帝大 教授〕</p>	<p>2 22 社会科学同人会(於 ・小石川偕楽園) 2 法理研究会、末弘報 告(続)</p>	<p>5 吉野作造編集担当代 表「明治文化全集」 の「校訂問題後援 者」に名を連ねる</p>

<p>8 1 〔セツルメントハウス、柳島消費組合を開説〕</p>	<p>6 〔労働組合の分裂と松岡氏遭難事件〕経済往来二巻六号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>7 〔判民大正15・昭和元年度44〕競売法——抵当権の譲渡と競売手続の続行〕法協四五巻七号</p> <p>7 〔講演〕民衆と法律〕法曹公論二巻七号</p> <p>7 〔文明は明治に由来す〕吉野作造編輯担当代表「明治文化全集」(日本評論社)推薦文</p> <p>8 〔判民大正15・昭和元年度57〕連帯債務者の一人の爲めに保証した者が代位弁済を爲したるときは負担部分なき他の連帯債務者に対して求償権を行ひ得るか〕法協四五巻八号</p> <p>8 〔判民大正15・昭和元年度74〕民法第三九二条第二項後段による後順位抵当権者の代位権は先順位抵当権か一部の弁済を受けたるに過ぎざる場合にも尚存在するか〕法協四五巻八号</p> <p>9 〔民法講話(下巻)〕(岩波書店)</p> <p>9 〔健保問答〕改造九巻九号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>10 〔判民大正15・昭和元年度53〕不法行為に於ける損害決定方法——不法行為に因る損害賠償と民法第四一六条——不法行為に因る使用収益の喪失に対する損害賠償の請求——不法行為に因る物の滅失毀損に対する損害額算定時期——不法行為以後に於ける物の騰貴価額に相当する損害賠償の請求〕法協四五巻一〇号</p> <p>11 〔判民大正15・昭和元年度79〕町村の一部たる区の権利能力と行為能力〕法協四五巻一〇号</p> <p>11 〔判民大正15・昭和元年度88〕府県道の爲にする土地取用と補償金額決定不服の訴の相手方——府県が府県知事か〕法協四五巻一〇号</p> <p>11 〔判民大正15・昭和元年度99〕登記官吏が嘱託に依り登記すべからざる事項の登記を爲したる場合の救済方法——抗告の許否〕法協四五巻一〇号</p> <p>12 〔判民大正15・昭和元年度105〕当座貸越契約に於ける極度超過の貸付と保証人の責任——特別の意思表示なき限り相当範囲の金額についてのみ責任あり〕法協四五巻一〇号</p> <p>12 〔判民大正15・昭和元年度120〕漁業組合理事長が有効なる総会決議に基かずして爲したる不動産売却の効力——民法第五四条の適用ありや否や〕法協四五巻一〇号</p> <p>12 〔自作農創設か小作立法か〕経済往来二巻二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p>	<p>一九二八 (昭和3)</p> <p>12 22 九州帝国大学法文学部講師</p>	<p>1 〔労働法概論〕「社会経済体系」第四巻(日本評論社)</p> <p>1 〔法人の国籍について〕松波(二郎)先生還暦祝賀論文集(有斐閣)……〔所収〕「民法雑考」(昭和7・4)</p> <p>1 〔判民大正15・昭和元年度126〕取得時効の要件たる「無過失」——僭称相続人の爲したる不動産相続登記を有効と誤信したる者の保護——登記簿の記載の推測の効力〕法協四六巻一〇号</p> <p>1 〔妻妾問答〕文芸春秋六巻一〇号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>1 〔隨筆〕森有礼の当り年〕文芸春秋六巻一〇号</p> <p>2 〔警察権の濫用〕経済往来三巻一〇号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6)</p> <p>2 〔昭和6・8〕現代法学全集〕日本評論社、未弘殿太郎責任編輯</p> <p>2 〔昭和5・8〕法学問答——現代法学全集〕第一、五巻、第三〇、三二巻〕日本評論社……〔改訂版〕「法学入門」(昭和9・4)</p> <p>2 〔鳩山秀夫〕講述「物権法」(国文社、非売品)〔補講〕(二三頁以下)分担執筆</p> <p>2 〔判民昭和2年度6〕鉱業権に対する強制執行——不動産に対する強制執行の規定を適用すべきか〕法協四六巻一〇号</p> <p>2 〔判民昭和2年度10〕民訴第三五五条の過料決定に対しては抗告を爲し得るか〕法協四六巻一〇号</p> <p>2 〔法律より見たる休銀問題〕改造一〇巻二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>2 〔役人サンチカリズム〕経済往来三巻二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6)</p>
--------------------------------------	--	---	---

<p>40歳</p>	<p>1929(昭和4)</p>
<p>7 19 社会政策審議会委員</p>	<p>3 法理研究会 末弘「民法より観たる家と世帯」報告</p>
<p>4 21 法制審議会委員行賞 (銀杯一個)</p> <p>5 18 東京商工会議所商事法規改正準備会主席</p>	<p>9 11 国際水上競技大会・協議準備委員長</p>
<p>9 8 8 5 4 4 3 3 2 1 1 11 10 10 8 8 7 6 6 5 5 4 3</p> <p>「選挙と司法官の責任」経済往来三卷三号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>「選挙と言論の自由」経済往来三卷四号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>「団結権を死守せよ」野田の争議について」改造一〇卷五号</p> <p>「入学難就職難」経済往来三卷五号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>「学年変更の提唱」帝国大学新聞二五三号……〔複製版〕「帝国大学新聞」(第三卷)「不二出版 昭和59・6」</p> <p>「判民昭和2年度44」妻が被告たる場合に其訴訟引受に夫の許可を要するか」法協四六卷六号</p> <p>〔論説〕「道路工事と公衆の迷惑」道路の改良一〇卷六号</p> <p>「暴行と法律」経済往来三卷六号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>「最低賃金問題」国際労働会議と最近の海員争議について」大阪毎日新聞……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>〔判民昭和2年度52〕相続入廃除」民法第九七五条第二項に所謂「正当ノ事由」の意義」法協四六卷七号</p> <p>〔判民昭和4・3〕「債権総論」現代法学全集・第五〇六卷、第八〇二卷」日本評論社</p> <p>〔判民昭和2年度58〕河川法」井路の敷地所有者に對価を支払ひて之に悪水を放流し得る私権関係は其井路に河川法が準用せらるるによつて消滅するか」法協四六卷八号</p> <p>〔判民昭和2年度70〕仮差押による競売の結果競売人に帰したる稲立毛に對する小作人の不法領得は窃盜となるか」差押へられたる稲立毛の所有関係占有関係」法協四六卷八号</p> <p>〔判民昭和2年度72〕船舶売買に於ける履行遅延に因る損害賠償額の算定方法」法協四六卷一〇号</p> <p>〔判民昭和2年度91〕支払猶予令による猶予期間中遅延利息の発生は停止せらるるか」法協四六卷一〇号</p> <p>〔判民昭和2年度108〕供給契約に於ける供給者の地位の承継」供給代金の為めに設定せられたる根抵当」法協四六卷一〇号</p> <p>〔論説〕「転質について」(上)(下)」法協四六卷一〇号、一一号……〔所収〕「民法雑考」(昭和7・4)</p> <p>〔論説〕「民法雑考」第一——法令違反行為の法律の効力」法協四七卷一号……〔所収〕「民法雑考」(昭和7・4)</p> <p>〔論説〕「民法雑考」第二——住所に関する意思説と単一説」法協四七卷三号……〔所収〕「民法雑考」(昭和7・4)</p> <p>〔論説〕「民法雑考」第三——警察権の濫用、その二・「温情主義」の没落」改造二卷二二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>〔論説〕「民法雑考」第四——市会決議の効力と市会の決議」法協四七卷三号</p> <p>〔論説〕「民法雑考」第五——私法関係の当事者としての家団」(一)(二)」法協四七卷四号、一一号……〔所収〕「民法雑考」(昭和7・4)</p> <p>〔論説〕「民法雑考」第六——山本宣治氏兇死事件」法律家の立場より」改造二卷四号……〔所収〕「山本宣治氏兇死事件に関連して」</p> <p>〔論説〕「民法雑考」第七——「法窓雑話」(昭和5・10)</p> <p>〔判民昭和3年度49〕必要的共同訴訟——組合契約の存在又は不存在の確認訴訟は固有の必要的共同訴訟なりや」法協四七卷八号</p> <p>〔判民昭和3年度66〕不法行為——競売開始後抵当山林所有者の爲したる立木売却採採と競売人に対する責任」民法第七〇九条に所謂「権利」法協四七卷八号</p> <p>〔官吏の更迭と行政の能率』改造一一卷九号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)</p>	

41歳

<p>4 25 4 22 4 3 31 3</p>	<p>(ニユーヨーク証券取引所「ブラック・サズデー」——世界恐慌始まる) 法理研究会、末弘「法律適用の理論に就いて」報告 東京市社会事業常設委員 民法第三部を平野義太郎助教授に譲り、民法第一部を担当 〔ロンドン〕海軍軍縮条約 〔統帥権干犯問題〕</p>	<p>10 24 取引所「ブラック・サズデー」——世界恐慌始まる)</p>
<p>5 5 5 5 5 5 4 4 4 4 3 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1 11 11 11 11 11 11 10 10</p>	<p>〔如何なる小作法を制定すべきか〕改造一巻一〇号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔判民昭和3年度81〕北海道国有未開地処分したる「理由」が不当なときは取消を求め得るか」法協四七巻一〇号 〔判民昭和4年度91〕北海道国有未開地処分したる第八二条に依る弁償金額を決定する標準時期」法協四七巻一〇号 「スポーツと武道精神」堀谷教授の言説に對して」帝国大学新聞二五三号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第三卷)(不二出版、昭和59・6) 〔法律時報〕(日本評論社、末弘殿太郎責任編輯) 発刊……〔発刊の辞〕 〔法律時報〕一・早いばかりが裁判官の能ではない、二・簡易裁判所の必要、三・冤罪者国家賠償法の制定、四・正当防衛権の拡張計画、五・口語判決文是非」法時一巻一〇号 〔判民昭和3年度100〕抵当権の目的たる土地を取用する場合の損失補償額——其裁決に對しては土地所有者一人のみより増額請求の訴を起し得るか」法協四七巻一〇号 〔俸給問題の教訓——官吏の団結権的行動に對して〕改造一一巻二二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6) 〔青年団運動に就て〕朝鮮公論一三巻二二号 〔判民昭和4年度5〕所有権と抵当権との混同——所有権と第二番抵当権とが混同したる場合に民法第一七九条但書の適用ありや」法協四八巻一〇号 〔法律時報〕一・家賃値下問題と借家法の改正、二・労働組合法の制定と資本家の反対、三・疑獄事件と檢察制度の独立」法時二巻一〇号 〔新刊批評〕「小作に関する判例集」と「小作証書実例集」法時二巻一〇号 〔失業問題の常識と対策〕失業の必然」文化生活八巻一〇号 〔判民昭和4年度12〕一棟の建物を区分したるときは区分登記を為さざるも其区分せられたる部分のみの所有権を移転し得るか」法協四八巻二二号 〔法律時報〕一・取賄罪に関する雑感、二・労働爭議調停法改正の必要、三・日本労働総同盟の労働立法要求」法時二巻二二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和11・3) 〔新刊批評〕孫田秀春氏著「労働法通義」を読む」法時二巻二二号 〔時事雑感〕法学者の書齋より」改造一二巻二二号……〔所収〕「時事雑感」(昭和5・10) 〔総選挙を前にして大衆に訴ふ〕末弘殿太郎・清瀬一郎・宮崎龍介・佐々弘雄・阿部真之助・植原悦二郎・山川均・中西伊之助・武藤山治・河野密・花井卓藏・堺利彦・関口泰・赤松克麿・長谷川如是閑・細迫兼光・永井柳太郎〕改造一二巻二二号 〔法律時報〕一・法律と人、二・証人の旅費日当、三・裁判官の責任回避?、(四)労働法関係の諸問題」法時二巻三三号 〔時評〕製糸工場に於ける賃銀不払問題」改造一二巻三三号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔判民昭和4年度19〕根抵当——被担保債権の更改と抵当権の同一性——競売の効力」法協四八巻四号 〔法律時報〕一・共産党事件に関する大審院判決、二・小会派に発言の機会を与へよ、三・新聞記者の法律常識」法時二巻四号 〔種類売買に於ける瑕疵担保について〕「山田(三良)教授還暦祝賀論文集」(有斐閣)……〔所収〕「民法雑考」(昭和7・4) 〔法律適用の理論に就て〕法協四八巻五号 〔農林法規集〕(千倉書房、末弘殿太郎)野間海造共編 〔論説〕温情主義と労働立法」法時二巻五二六号</p>	<p>〔如何なる小作法を制定すべきか〕改造一巻一〇号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔判民昭和3年度81〕北海道国有未開地処分したる「理由」が不当なときは取消を求め得るか」法協四七巻一〇号 〔判民昭和4年度91〕北海道国有未開地処分したる第八二条に依る弁償金額を決定する標準時期」法協四七巻一〇号 「スポーツと武道精神」堀谷教授の言説に對して」帝国大学新聞二五三号……〔復刻版〕「帝国大学新聞」(第三卷)(不二出版、昭和59・6) 〔法律時報〕(日本評論社、末弘殿太郎責任編輯) 発刊……〔発刊の辞〕 〔法律時報〕一・早いばかりが裁判官の能ではない、二・簡易裁判所の必要、三・冤罪者国家賠償法の制定、四・正当防衛権の拡張計画、五・口語判決文是非」法時一巻一〇号 〔判民昭和3年度100〕抵当権の目的たる土地を取用する場合の損失補償額——其裁決に對しては土地所有者一人のみより増額請求の訴を起し得るか」法協四七巻一〇号 〔俸給問題の教訓——官吏の団結権的行動に對して〕改造一一巻二二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6) 〔青年団運動に就て〕朝鮮公論一三巻二二号 〔判民昭和4年度5〕所有権と抵当権との混同——所有権と第二番抵当権とが混同したる場合に民法第一七九条但書の適用ありや」法協四八巻一〇号 〔法律時報〕一・家賃値下問題と借家法の改正、二・労働組合法の制定と資本家の反対、三・疑獄事件と檢察制度の独立」法時二巻一〇号 〔新刊批評〕「小作に関する判例集」と「小作証書実例集」法時二巻一〇号 〔失業問題の常識と対策〕失業の必然」文化生活八巻一〇号 〔判民昭和4年度12〕一棟の建物を区分したるときは区分登記を為さざるも其区分せられたる部分のみの所有権を移転し得るか」法協四八巻二二号 〔法律時報〕一・取賄罪に関する雑感、二・労働爭議調停法改正の必要、三・日本労働総同盟の労働立法要求」法時二巻二二号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和11・3) 〔新刊批評〕孫田秀春氏著「労働法通義」を読む」法時二巻二二号 〔時事雑感〕法学者の書齋より」改造一二巻二二号……〔所収〕「時事雑感」(昭和5・10) 〔総選挙を前にして大衆に訴ふ〕末弘殿太郎・清瀬一郎・宮崎龍介・佐々弘雄・阿部真之助・植原悦二郎・山川均・中西伊之助・武藤山治・河野密・花井卓藏・堺利彦・関口泰・赤松克麿・長谷川如是閑・細迫兼光・永井柳太郎〕改造一二巻二二号 〔法律時報〕一・法律と人、二・証人の旅費日当、三・裁判官の責任回避?、(四)労働法関係の諸問題」法時二巻三三号 〔時評〕製糸工場に於ける賃銀不払問題」改造一二巻三三号……〔所収〕「法窓雑話」(昭和5・10) 〔判民昭和4年度19〕根抵当——被担保債権の更改と抵当権の同一性——競売の効力」法協四八巻四号 〔法律時報〕一・共産党事件に関する大審院判決、二・小会派に発言の機会を与へよ、三・新聞記者の法律常識」法時二巻四号 〔種類売買に於ける瑕疵担保について〕「山田(三良)教授還暦祝賀論文集」(有斐閣)……〔所収〕「民法雑考」(昭和7・4) 〔法律適用の理論に就て〕法協四八巻五号 〔農林法規集〕(千倉書房、末弘殿太郎)野間海造共編 〔論説〕温情主義と労働立法」法時二巻五二六号</p>

<p>42歳</p>	<p>7 11</p> <p>〔平野義太郎、共産党シンパ事件で東太を依頼免官〕</p>	<p>5 6</p> <p>〔法律時観〕一・大審院の貞操観、二・操業短縮と最低賃銀法、三・赤子を背負ひたる投票者一 法時二卷五〇六号 〔判民昭和4年度26〕小学校代用教員の不法行為と市町村の責任一 法協四八卷七号 〔法律時観〕一・労働争議調停法の実用、二・定期職工と解雇手当、三・速に救護法を実施せよ一 法時二卷七号 〔新刊批評〕我妻教授の「民法総則」一 法時二卷七号 〔失業問題討論会（安達謙蔵・安部磯雄・高橋彌一郎）末弘徹太郎・井上準之助・阿部賢一〕那須皓一〔司会〕山本実彦一 改造二卷七号 〔論説〕児童保護問題と法律一 法時二卷八号 〔法律時観〕一・庄川事件と水法制定の必要、二・資本家の労働組合法任設計画一 法時二卷八号 〔海の随筆〕水泳人の夢一 文芸春秋八卷八号 〔説苑〕吾等の責務一 水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）創刊号 〔法律時観〕一・交通機関と公衆の安全、二・汽船差押事件と強制執行法改正の必要、三・小学校教員の法律的地位一 法時二卷九号……〔所収〕「法憲漫筆」（昭和11・3） 〔法憲雑話（日本評論社）〕 〔判民昭和4年度33〕債務不履行に因る損害賠償の範囲一 民法第四一六条に所謂「特別ノ事情」の意義一 法協四八卷一〇号 〔法律時観〕一・拘禁処分の濫用、二・都会生活と噪音防止法、三・労働争議と警察官、四・巡査か警吏か一 法時二卷一〇号 〔シズンを終るに際して感想二三〕水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）一 卷一〇号 〔法律時観〕一・労働争議調停法改正問題、二・交通労働者の勝利一 法時二卷一〇号 〔論説〕これでも差支ないでせうか一 警察署の留置場について、渡辺司法大臣への公開状一 法時二卷一〇号……〔所収〕「法憲漫筆」（昭和8・1）、川島編「嘘の効用（下）」（平成6・6） 〔権太の友へ送る手紙―見物印象記に代へて〕改造二卷一〇号……〔所収〕「法憲漫筆」（昭和8・1） 〔判民昭和4年度38〕慣行上の流水使用権の妨害と水利妨害罪の成立一 法協四八卷一〇号 〔判民昭和4年度40〕慣行上の灌漑用水権と普通水利組合の設置―組合員は第三者に対して右権利の確認を求め得るか？一 法協四八卷一一号 〔法律時観〕一・裁判官の威厳と弁護士責任、二・裁判官の手不足、三・社会立法の停顿一 法時二卷一一号 〔論説〕昭和五年民法学界の回顧一 法時二卷一一号 〔一九三〇年の水泳界を回顧して〕水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）三号</p>
<p>一九三一 （昭和6）</p>	<p>9</p> <p>講義名「労働法制」から「労働法」になる</p>	<p>2 2</p> <p>〔現内閣と社会政策〕労働組合法案其他について（一）（二）（三）東京日日新聞……〔所収〕内務省社会局労働部編「労働組合法案に関する資料」（二）（昭和7・1）、「法憲漫筆」（昭和8・1）</p> <p>1 1</p> <p>〔司法の権威とアモクラシ―法廷侮辱罪新設の議に接して〕改造一三卷一〇号……〔所収〕「法憲漫筆」（昭和8・1）、川島編「嘘の効用（下）」（平成6・6）</p> <p>1 1</p> <p>〔法律時観〕一・帝國議會の能率、二・農業団体の整理一 法時三卷二号</p> <p>1 1</p> <p>〔法律時観〕一・身元保証人の敷金、二・資本家及び地主の政府、三・労働者災害扶助責任保険法案と商工省の反対一 法時三卷一〇号</p> <p>1 1</p> <p>〔法律時観〕一・帝國議會の能率、二・農業団体の整理一 法時三卷二号</p> <p>1 1</p> <p>〔法律時観〕一・帝國議會の能率、二・農業団体の整理一 法時三卷二号</p> <p>1 1</p> <p>〔法律時観〕一・帝國議會の能率、二・農業団体の整理一 法時三卷二号</p> <p>1 1</p> <p>〔法律時観〕一・帝國議會の能率、二・農業団体の整理一 法時三卷二号</p>

4 10
臨時ローマ字調査会
臨時委員

9 18
〔柳条湖事件——滿
州事変勃発〕

3	〔判民昭和4年度86〕 信託目的の表示なき手形の被裏書人と手形債権の行使——信託法第三条の趣旨〕 法協四九卷三〇号
3	〔法律時観〕 一・共済組合法律制定の必要、二・大審院判例と新聞紙、三・陪審制の不人気〕 法時三卷三〇号
3	〔法窓漫筆〕 經濟往來六卷三〇号(八号)……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1)
3	〔法律時観〕 一・議會々期を延長すべし、二・入営者職業保險法案、三・違警罪即決例及び行政執行法の改正、四・社会政策と經濟恐慌、五・区裁判所の事務取扱停止〕 法時三卷四号
4	〔街頭交通雜感〕 運転手の立場から——經濟評論誌サラリーマン四卷四号
4	〔法律時観〕 法曹大会開催の提唱〕 法時三卷五号
5	〔新刊批評〕 労働法関係の近著三三——「工場法の扶助註釈」・「日本労働組合法研究」・「労働法論」〕 法時三卷五号
5	〔学年改定の提唱〕 帝国大学新聞三八五号……〔復刻版〕「帝国大学新聞(第五卷)」(不二出版、昭和59・6)
6	〔判民昭和5年度5〕 制限超過利息の控除と消費貸借の成立〕 法協四九卷六号
6	〔判民昭和5年度19〕 普通水利組合は公法人なりや——組合会議員は公務員か〕 法協四九卷六号
6	〔法律時観〕 一・司法行政の根本的整理、二・法律雜誌を整理せよ〕 法時三卷六号
6	〔法治と暴力〕 改造二卷六号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1、第一版以降削除、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6)、(再録)末弘殿太郎「戒能通孝」暴力立法の暴力性〕 法時三〇卷二号、昭和33・2)
7	〔判民昭和5年度32〕 畜産組合は公法人か——畜産組合總會決議無効は司法裁判所に訴求し得るか〕 法協四九卷七号
7	〔法律時観〕 一・国家試験の試験科目、二・判事減俸問題〕 法時三卷七号……〔所収〕「法窓雜記」(昭和11・3)
7	〔新刊批評〕 協調会農村課編「小作立法に関する重要問題」〕 法時三卷七号
7	〔判例新話〕 經濟往來六卷七号
8	〔論説〕 庶民金融の法律問題〕 法時三卷八号
8	〔法律時観〕 一・六路園事件、二・労働協約の効力に関する新判例〕 法時三卷八号
8	〔役人学三則〕 改造二卷八号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1)、佐高編「役人学三則」(平成12・2)
8	〔全世界注視の下に日米対抗を開く〕 水泳(日本水上競技連盟機関雜誌) 七号
9	〔論説〕 判例を通して見た人身売買〕 法時三卷九号
9	〔法律時観〕 一・届出前の選挙運動に関する大審院判決、二・違警罪即決例中改正法律の施行、三・遅々たる法典改正事業〕 法時三卷九号
9	〔労働協約立法に関する多少の考察〕 社会政策時報二三号
9	〔共産党公開裁判是非(勿論大に公開すべし)〕 中央公論四六卷九号……〔所収〕 改題「共産党公開すべし」〕 法窓漫筆」(昭和8・1)、川島編「嘘の効用(下)」(平成6・6)
10	〔昔の水泳と今の水泳〕 文芸春秋九卷九号
10	〔判例より見た人身売買〕 廓清二卷一〇号
10	〔法律時観〕 一・不正競業防止法案、二・「破産秘話」、三・民法を全体的に改正すべし〕 法時三卷一〇号
10	〔スポーツ狂時代の展望——スポーツ雑感〕 中央公論四六卷一〇号……〔所収〕 改題「スポーツ雑考」〕 法窓漫筆」(昭和8・1)
11	〔法律時観〕 一・速に小作法を制定せよ、二・改正違警罪即決例と警察当局〕 法時三卷一〇号
11	〔ゴルフ漫談〕 改造二卷一〇号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1)
11	〔失業保險の必要と可能〕 社会福利一五卷一〇号
11	〔社会問題〕 文部省(編纂)「最新公民資料精説」(帝国公民教育協会)
12	〔法律時観〕 一・大審院の事実審理を廃止すべし、二・職業紹介法実施十年、三・早慶野球戦放送と著作権問題〕 法時三卷一一号

一九三二
（昭和7）

1	31	〔訴訟当事者として的人格なき社団財団〕「加藤（正治）先生還暦祝賀論文集（有妻閣）……」（所収）「民法雑考」（昭和7・4）
1	31	〔判民昭和5年度51〕建物の改築と借地法第一条——地主に無断にて建物を改築するときは借地契約を解除し得との特約の効力—法協五〇巻一号
1	31	〔判例私見〕法曹会雑誌一〇巻一号
1	31	〔論説〕商店法の制定について—法時四巻一号
1	31	〔法律時観〕農業保険法を制定すべし—法時四巻一号
1	31	〔失業保険の必要と可能性〕改造—四巻二号……（所収）「法窓漫筆」（昭和8・1）、川島編「嘘の効用（下）」（平成6・6）
1	31	〔1〕法人妄語—文芸春秋一〇巻一号、二号……（所収）「法窓漫筆」（昭和8・1）
2	31	〔2〕論説—民法雑考第四—無効行為の転換について—法協五〇巻二号……（所収）「民法雑考」（昭和7・4）
2	31	〔論説〕法学教育改革私案—法時四巻二号……（所収）川島編「嘘の効用（上）」（昭和63・6）
2	31	〔法律時観〕一・政変による行政官吏の大更迭、二・司法の政党化を防げ—法時四巻二号
2	31	〔一九三二年を迎へて—水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）一〇号
3	31	〔論説〕小作法案其他に関する質問に答へて—全国各地方小作官・調停主任判事の回答—読後感—束—法時四巻三号
3	31	〔法律時観〕一・無投票当選制度の是非、二・司法大臣の立候補、三・長谷川警視總監の実践的教訓—法時四巻三号
3	31	〔總監問答—中央公論四七巻三三……（所収）「法窓漫筆」（昭和8・1）
4	31	〔民法雑考—（日本評論社）
4	31	〔判民昭和5年度54〕買戻特約附売買による売渡抵当——賃借人の賃借物所有権取得と賃貸借の終了——買戻の効力—法協五〇巻四号
4	31	〔法律時観〕一・学士院の授賞取消事件、二・暗殺事件と治安維持法—法時四巻四号
4	31	〔暴力問答—改造—四巻四号……（所収）「法窓漫筆」（昭和8・1。第二版以降削除）
5	31	〔判民昭和5年度70〕違法の租税賦課徴収と不当利得の成否—法協五〇巻五号
5	31	〔判民昭和5年度82〕耕地整理組合の処分に対して司法裁判所に訴するの能否—法協五〇巻五号
5	31	〔判民昭和5年度89〕第三者の爲めにする契約の物権的効力発生時期—法協五〇巻五号
5	31	〔法律時観〕一・外国法研究所設立の提唱、二・再び学士院の授賞取消事件について——松本博士への公開状の形で—法時四巻五号
5	31	〔計画経済と労働—経済往来七巻五号……（所収）「法窓漫筆」（昭和8・1）、川島編「嘘の効用（下）」（平成6・6）
6	31	〔判民昭和5年度92〕臨時保佐人の同意なき準禁治産者の行為の効力—法協五〇巻六号
6	31	〔判民昭和5年度96〕民法第一二一条但書に所謂「現二利益ノ存スル限度」の意義—法協五〇巻六号
6	31	〔判民昭和5年度107〕選挙事務長が選挙運動の爲め買入れたる物品に対し候補者に代金支払義務ありや—法協五〇巻六号
6	31	〔法律時観〕一・脱税事件の告発について、二・磯のラジオ、三・浜口氏暗殺事件の判決について—法時四巻六号
6	31	〔中産階級のお母さん方へ——子女の教育と職業選択—婦人公論—七巻六号……（所収）「法窓漫筆」（昭和8・1）
6	31	〔法窓雑記—南音—一卷一（末弘徹太郎述・逸道人訳）
6	31	〔水泳時計—スポーツと勝敗—水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）—二二号
6	31	〔法窓雑記（一）……（四）改造—四巻六号……（所収）「法窓漫筆」（昭和8・1）、戒能編「末弘著作集」（第二版）IV嘘の効用（昭和55・6）、川島編「嘘の効用（上）」（昭和63・6）
7	31	〔ゼツメント—「岩波講座・教育科学（第一〇冊）」（岩波書店）

<p>44歳</p>	<p>11 12 〔東京地裁判事・尾崎陸ら逮捕―司法官赤化事件の発端〕</p>	<p>7 7 〔資料及紹介〕石田博士著「物權法論」法協五〇巻七号 〔法律時観〕一・裁判所構成法案改正案等の提議、二・検事を刑事部長へ、三・大審院判例集の改善、四・小山司法大臣「法律時観」四巻七号 〔法律時観〕一・刑事補償法実施の成績、二・農村問題と産業組合法の改正、三・農村救済と小作法」法時四巻八号 〔著作権問答〕中央公論四七巻八号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1) 〔スポーツ時評〕文芸春秋一〇巻八号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1) 〔スポーツ時評〕水泳(日本水上競技連盟機関雑誌)一三号 〔農村自力更生策としての教育改革論〕経済往来秋季増刊「革新日本の基本原理」 〔判民昭和6年度13〕民法第八七条の取消権は相続の目的となるか」法協五〇巻九号 〔法律時観〕一・賃金保護法を制定せよ、二・少額債務調停法」法時四巻九号 〔水泳日本はなぜ強いのか〕中央公論四七巻九号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1) 〔水泳王国の建設と日本英法〕帝国大学新聞四四三号……〔復刻版〕「帝国大学新聞(第六巻)」(不二出版、昭和59・8) 〔法律時観〕一・農村負債整理問題と臨時議會」法時四巻一〇号 〔著作権問答〕について 広津和郎氏への答へ」中央公論四七巻一〇号 〔農村自力更生策としての教育改革〕経済往来七巻一〇号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和8・1)、川島編「嘘の効用」下(平成6・6)</p>
<p>12 24 体育運動審議会委員</p>	<p>1 18 「法窓漫筆」,「法の階級制主張・暴力行為肯定」の理由で発禁処分</p>	<p>12 12 12 11 11 11 10 10 10 10 9 9 9 9 8 8 8 8 7 7 〔法窓漫筆〕(日本評論社) 〔法律時観〕一・檢察事務の独立に対する民衆の疑念、二・社会立法の睡眠」法時五巻一 号 〔近頃想うことも〕「新潮三〇巻一 号 〔法律時観〕一・競売制度の徹底的修正を望む、二・利息制限法の改正について、三・弁護士法の改正」法時五巻二 号 〔「新刊批評」〕平田慶吉氏著「損害賠償責任論」・大平久氏著「法律相談」法時五巻二 号 〔「法律時観」〕一・近來の名判決、二・何が憲政の常道か」法時五巻三 号 〔「解釈法学に於ける法原論について」〕法学協会五十年記念論文集(第二部)(法学協会……〔所収〕「民法雑誌 帳」(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2民法雑誌帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版)II民法 雑誌帳(上)」(昭和55・2) 〔「法律時観」〕庄川事件の判決」法時五巻四号 4 4 〔「法窓漫筆」〕経済往来八巻五号、一三三号……〔所収〕「法窓漫筆」(昭和11・3)</p>
<p>一九三三 (昭和8)</p>	<p>3 27 〔國際連盟脱退詔書〕</p>	<p>4 4 〔「法窓漫筆」〕</p>

45歳	930 東京帝国大学法学部 長	526	〔文部省、滝川幸辰 京都帝大教授を休職 処分——滝川事件〕
10	〔判民昭和6年度28〕売買代金の利息と支払猶予令——種類物売買と瑕疵担保」法協五一巻五号	5	〔判民昭和6年度28〕売買代金の利息と支払猶予令——種類物売買と瑕疵担保」法協五一巻五号
12	〔法律時観〕ローマ法投票とハイフンの問題」法時五巻五号……〔所収〕「法窓雑記」(昭和11・3)	5	〔法律時観〕ローマ法投票とハイフンの問題」法時五巻五号……〔所収〕「法窓雑記」(昭和11・3)
12	〔新刊批評〕穂積博士の「親族法」を読む」法時五巻五号	5	〔新刊批評〕穂積博士の「親族法」を読む」法時五巻五号
11	〔新刊批評〕秘書証書による遺言に於て受遺者は証人となり得るか」法協五一巻六号	5	〔新刊批評〕秘書証書による遺言に於て受遺者は証人となり得るか」法協五一巻六号
11	〔判民昭和6年度43〕秘密証書による遺言に於て受遺者は証人となり得るか」法協五一巻六号	5	〔判民昭和6年度43〕秘密証書による遺言に於て受遺者は証人となり得るか」法協五一巻六号
11	〔判民昭和6年度45〕実用新案法第二二条第二項の「利害関係人」の意義」法協五一巻六号	5	〔判民昭和6年度45〕実用新案法第二二条第二項の「利害関係人」の意義」法協五一巻六号
11	〔判民昭和6年度53〕耕地整理組合総会の招集手続又は表決に関する不服に付ては司法裁判所に出訴し得るか」法協五一巻六号	5	〔判民昭和6年度53〕耕地整理組合総会の招集手続又は表決に関する不服に付ては司法裁判所に出訴し得るか」法協五一巻六号
10	〔法律時観〕一・罪名不統一問題、二・費用を伴はざる法律制度、三・私鉄疑獄事件判決に対する疑ひ」法時五巻六号	6	〔法律時観〕一・罪名不統一問題、二・費用を伴はざる法律制度、三・私鉄疑獄事件判決に対する疑ひ」法時五巻六号
10	〔法学の存在理由——京大問題と「自由」(一)〜(三)——東京朝日新聞	6	〔法学の存在理由——京大問題と「自由」(一)〜(三)——東京朝日新聞
10	〔民法に於ける婦人——婦女新聞一七二二号——末弘徹太郎述、文責記者……〔復刻版〕「婦女新聞」第五一卷(二六九	6	〔民法に於ける婦人——婦女新聞一七二二号——末弘徹太郎述、文責記者……〔復刻版〕「婦女新聞」第五一卷(二六九
9	九)一七二四号)。(不二出版、昭和59・9)	7	九)一七二四号)。(不二出版、昭和59・9)
9	〔論説〕適法行為による「不法行為」」法時五巻七号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集	7	〔論説〕適法行為による「不法行為」」法時五巻七号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集
9	3民法雑記帳(下)。(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集」(第二版)III民法雑記帳(下)。(昭和55・3)	7	3民法雑記帳(下)。(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集」(第二版)III民法雑記帳(下)。(昭和55・3)
9	〔法律時観〕一・政府と比例選挙制、二・中華民国法制研究会の仕事と礼讃」法時五巻七号	7	〔法律時観〕一・政府と比例選挙制、二・中華民国法制研究会の仕事と礼讃」法時五巻七号
9	〔新刊批評〕長沼宏有氏の「親族法論」を読む」法時五巻七号	7	〔新刊批評〕長沼宏有氏の「親族法論」を読む」法時五巻七号
9	〔裁判問答〕小川前秩相の無罪判決を讀みて」改造一五巻七号	7	〔裁判問答〕小川前秩相の無罪判決を讀みて」改造一五巻七号
9	〔判民昭和6年度61〕民法第二九五条は建物保護法第一条の保護を受ける賃借権にも適用ありや」法協五一巻八号	8	〔判民昭和6年度61〕民法第二九五条は建物保護法第一条の保護を受ける賃借権にも適用ありや」法協五一巻八号
9	〔判民昭和6年度78〕相続は占有の新権原なりや——寺院境内地の買得者と取得時効」法協五一巻八号	8	〔判民昭和6年度78〕相続は占有の新権原なりや——寺院境内地の買得者と取得時効」法協五一巻八号
9	〔法律時観〕無尽業法を徹底的に改正せよ」法時五巻八号……〔所収〕「法窓雑記」(昭和11・3)	8	〔法律時観〕無尽業法を徹底的に改正せよ」法時五巻八号……〔所収〕「法窓雑記」(昭和11・3)
9	〔新刊批評〕我妻教授の「民法総則」を読む」法時五巻八号	8	〔新刊批評〕我妻教授の「民法総則」を読む」法時五巻八号
9	〔著作権は差押へ得るか〕中央公論四八巻八号……〔所収〕「法窓雑記」(昭和11・3)	8	〔著作権は差押へ得るか〕中央公論四八巻八号……〔所収〕「法窓雑記」(昭和11・3)
9	〔論説〕著作権と出版権」法時五巻九号	9	〔論説〕著作権と出版権」法時五巻九号
9	〔法律時観〕一・裁判官は弁明しない、二・三省検察当局打合せの問題」法時五巻九号……〔所収〕「法窓雑記」(昭	9	〔法律時観〕一・裁判官は弁明しない、二・三省検察当局打合せの問題」法時五巻九号……〔所収〕「法窓雑記」(昭
9	和11・3)	9	和11・3)
10	〔法律時観〕自動車強制保険法の制定を望む」法時五巻一〇号	10	〔法律時観〕自動車強制保険法の制定を望む」法時五巻一〇号
10	〔昭和八年度選挙権大会に際して〕水泳(日本水上競技連盟機関雑誌)二〇号	10	〔昭和八年度選挙権大会に際して〕水泳(日本水上競技連盟機関雑誌)二〇号
10	〔判民昭和6年度90〕抵当権——消滅したる抵当権の登記を他の抵当権の登記として利用するの能否」法協五一巻	10	〔判民昭和6年度90〕抵当権——消滅したる抵当権の登記を他の抵当権の登記として利用するの能否」法協五一巻
10	一一号	10	一一号
11	〔判民昭和6年度23〕施業森林組合は其地域内の石灰石の採取を為し得るか」法協五一巻一一号	11	〔判民昭和6年度23〕施業森林組合は其地域内の石灰石の採取を為し得るか」法協五一巻一一号
11	〔判民昭和6年度28〕管称相続人より買取りたる土地に公立小学校が建設せられたる場合相続人は尚其明渡を請	11	〔判民昭和6年度28〕管称相続人より買取りたる土地に公立小学校が建設せられたる場合相続人は尚其明渡を請
11	求し得るか」法協五一巻一一号	11	求し得るか」法協五一巻一一号
11	〔判民昭和6年度34〕地先水面専用漁業権に対する強制競売と行政官庁の認可」法協五一巻一一号	11	〔判民昭和6年度34〕地先水面専用漁業権に対する強制競売と行政官庁の認可」法協五一巻一一号
11	〔法律時観〕非常時と社会立法」法時五巻一一号	11	〔法律時観〕非常時と社会立法」法時五巻一一号
12	〔法律時観〕一・小作法制定の必要、二・官立法科大学果して廃止すべきか」法時五巻一二号	12	〔法律時観〕一・小作法制定の必要、二・官立法科大学果して廃止すべきか」法時五巻一二号
12	〔林橋橋一問答〕中央公論四八巻一二号	12	〔林橋橋一問答〕中央公論四八巻一二号
12	〔学生とスポーツと緑会〕緑会雑誌五号	12	〔学生とスポーツと緑会〕緑会雑誌五号
12	〔神宮大水上競技の使命〕水泳(日本水上競技連盟機関雑誌)二二号	12	〔神宮大水上競技の使命〕水泳(日本水上競技連盟機関雑誌)二二号

11 28 不起訴決定
12 8 総長候補者選挙執行協議員

一九三五
(昭和10)

2 15 国体擁護連盟・益田一悦ら、末弘の辞職勧告文を提出
2 18 貴族院で菊池武夫が美濃部達吉を糾弾するともに(天皇機関説事件)、末弘の著作を問題視
4 9 (美濃部著書)「麥黍憲法精義」(有斐閣)・「憲法撮要」(有斐閣)・「憲法の基本主義」(日本評論社) 発禁処分

11 「法律時観」(一) 特許法施行五十年、(二) 法科大学の使命、(三) 特別の研究所 法時六卷一 一号
12 「昭和12・3」法律辞書(岩波書店、全五巻、末弘徹太郎、田中耕太郎責任編輯)
12 「法律辞典・第一巻」(ア)ケ、(岩波書店)「序」末弘徹太郎、田中耕太郎共著
12 「上土権」「解雇手当」「家族制度」「仮住所」「共済組合」「居所」「芸妓」「現住地」「法律辞典(第一巻)」(岩波書店)
12 「判民昭和7年度」自動車運転助手の行為と使用者の責任 法協五二巻二二号
12 「判民昭和7年度(170)」耕地整理組合は公法人なりや——組合の債権者の転付命令に依つて組合の組合員に対する組合費請求権を取得し之を司法裁判所に訴求し得るか 法協五二巻二二号
12 「判民昭和7年度(18)」組合の1員脱退に際し総組合員の合意によつて組合財産中可分債権を其尙残存組合員の共有となしたる場合と債権譲渡に關する民法第四六七条の適用の有無 法協五二巻二二号
12 「法律時観」(一) 我国の法律雑誌、(二) 全国的学会、(三) 損害賠償制度 (四) 自動車災害 法時六卷二 一、二号
12 「依法不依人依智不依識」緑会雜誌六号

1 「法律時観」(一) 小作法と農業保険法、(二) 漁業労働者保護規則、(三) 鹿麝、(四) 母子扶助法 法時七卷一 一号
1 「岐路に立つ我労働法」中央公論五〇巻一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
6 「社会時評」中央公論五〇巻一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
1 「昭和11・4」労働法講話(第一講)〜(第一〇講) 経済往来一〇巻一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
2 「法律時観」(一) 学位令の改正、(二) 帝人事件の裁判長 法時七卷二 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
3 「民法雑記帳」(一) はしがき、第一・代理権授与行為の性質について 法時七卷三 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
3 「民法雑記帳」(二) 末弘著作集2 民法雑記帳(上) 昭和28・10、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
3 「法律時観」(一) 小作法制定の必要、(二) 公証人の不正行為 法時七卷三 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
4 「職業世話人の告白」改造 七卷三 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
4 「民法雑記帳」(一) 改造 七卷三 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
4 「民法雑記帳」(二) 末弘著作集2 民法雑記帳(上) 昭和28・10、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)」(昭和55・2)
4 「民法雑記帳」試験に於ける不正行為 法時七卷四 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
5 「民法雑記帳」第二・人格概念の中毒(中) 法時七卷五 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
5 「民法雑記帳」第三・民法の独自性 法時七卷六 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
5 「民法雑記帳」第一・人格概念の中毒(下)、第三・民法の独自性 法時七卷六 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
5 「民法雑記帳」(上) 昭和28・10、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)」(昭和55・2)
5 「法律時観」差押え制限法に現はれる立法の傾向 法時七卷五 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
6 「工場法」小作調停法「小作法」「債権者代位権」「債権平等の原則」「債務と責任」「自然債務」「質権」「自動車一就業規則」「就業制限」「住所」「娼妓」「職業紹介法」「世帯」「人的責任・物的責任」末弘徹太郎、田中耕太郎責任編輯「法律辞典・第二巻(コ)シ」(岩波書店)
6 「民法雑記帳」(一) 改造 七卷三 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
6 「民法雑記帳」(二) 末弘著作集2 民法雑記帳(上) 昭和28・10、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(昭和15・4)」(昭和55・2)

<p>一九三六 (昭和11)</p>		
<p>47歳</p>	<p>9 15 日本学生水上競技連 盟創立(初代会長) 法学部長再選</p>	
		<p>6 「法律時観」(一)軍需インフレと労働法、(二)国家試験委員の自重を望む」法時七卷六号 6 「昭和19・11」法律年鑑(昭和10年版)「昭和十八年版」(日本評論社、未弘蔵太郎責任編輯) 7 「判民昭和10年度23」無尽契約の効力」認許せられたる約款の趣旨に反する無尽契約」法協五三卷七号 7 「民法雑記帳5」第四・目的ある権利と目的なき権利」法時七卷七号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2」民法雑記帳(上)「昭和28・10」、戒能編「未弘著作集」(第二版)II民法雑記帳(上)「昭和55・2」</p>
		<p>7 「法律時観」(一)林大審院長の訓示、(二)「小作紛争官」法時七卷七号 7 「所謂非常時と労働法」中央公論五〇巻七号……〔所収〕改題「非常時と労働法」法憲雜記「昭和11・3」 7 「座談会」文章を語る夕」(茅野蕭々「未弘蔵太郎」後藤末雄「辰野隆」市河三善「谷崎潤一郎」〔編集部〕室伏高信)経済往来一〇巻七号 7 「昭和11・7」法律相談」中央公論五〇巻七号「五一」巻七号 8 「民法雑記帳6」第五・妨害排除請求権の問題」法時七卷八号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2」民法雑記帳(上)「昭和28・10」、戒能編「未弘著作集」(第二版)II民法雑記帳(上)「昭和55・2」</p>
		<p>8 「法律時観」(一)小作法制定か小作人弾圧か、(二)学説の新規性」法時七卷八号 9 「民法雑記帳7」第六・無効の時効」法時七卷九号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2」民法雑記帳(上)「昭和28・10」、戒能編「未弘著作集」(第二版)II民法雑記帳(上)「昭和55・2」</p>
		<p>9 「法律時観」(一)怪文書取扱法案、(二)自然村の復興」法時七卷九号……〔所収〕「法憲雜記」(昭和11・3) 9 「退職手当と退職積立年金法案」中央公論五〇巻九号……〔所収〕「法憲雜記」(昭和11・3) 9 「座談会」幸田露伴先生を囲んで」(幸田露伴「徳田秋声」和辻哲郎「未弘蔵太郎」辰野隆「谷崎潤一郎」〔編集部〕室伏高信)経済往来一〇巻九号 10 「民法雑記帳8」第七・不法行為と第四一六条」法時七卷一〇号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集3」民法雑記帳(下)「昭和28・11」、戒能編「未弘著作集」(第二版)III民法雑記帳(下)「昭和55・3」</p>
		<p>10 「法律時観」下級官吏と法学的素養」法時七卷一〇号……〔所収〕「法憲雜記」(昭和11・3) 10 「昭和12・6」現代法令全集(第一巻)「(第一八巻)追録」(日本評論社、未弘蔵太郎責任編輯) 11 「民法雑記帳9」第八・私法学説としての国家法人説」法時七卷一一号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2」民法雑記帳(上)「昭和28・10」、戒能編「未弘著作集」(第二版)II民法雑記帳(上)「昭和55・2」</p>

一九三七 (昭和12)	48 歳	12 17	10 24	9 11	9 1	8 8	6 20	4 7	2 26	2 21	2 21
乙国民社会主義につ	アメリカ経由で帰国	12 17	10 24	9 11	9 1	8 8	6 20	4 7	2 26	2 21	2 21
法理研究会「末弘」独 乙国民社会主義につ	アメリカ経由で帰国	12 17	10 24	9 11	9 1	8 8	6 20	4 7	2 26	2 21	2 21

2 10
いて」報告
水上競技連盟・東京
オリンピック準備委
員会会長

4 18
〔田中耕太郎、法学
部長に就任〕

- 2 〔判民昭和8年度1〕 村会書記は村吏員なりや——日当金請求事件の管轄〔法協未登載〕「判例民事法（昭和8年度）（有妻蘭）
2 〔判民昭和8年度24〕 不当利得と因果関係〔法協未登載〕「判例民事法（昭和8年度）（有妻蘭）
2 〔法律時観〕（一）檢察当局に対する民衆の疑惑を一掃すべし、（二）尾去沢事件、（三）前埼玉県会計課長の事件」
法時九卷二号
〔婦朝の挨拶に代へて〕新法学全集月報「新法学」一〇号
3 〔判民昭和11年度17〕 隠居—隠居者の債務と新戸主の債務の関係〔法協五五卷三号〕
3 〔法理研究会記事〕 独逸国民社会主義について〔法協五五卷三号〕
3 〔法律時観〕（一）農業政策の貧困、（二）輸出統制税法と低賃銀、（三）拷問事件と法の威信、（四）拷問事件を機会に檢察当局に対する民衆の疑惑を一掃すべし、法時九卷三号〔匿名記事〕
3 〔法律相談〕 一・不動産の贈与を引渡後移転登記なきを理由として取消出来るか、三・養子の縁組前の子と養親との関係〕法時九卷二二号
3 〔新刊批評〕 平田広吉博士著「鉱業法要義」法時九卷三号
3 〔海外乞丐考（一）〕（四）東京朝日新聞
3 ナチ国策の成功—国民体位の向上〔朝日新聞社〕
4 〔判民昭和11年度136〕 不法行為—民法第七二五条に所謂使用者の範囲〔法協五五卷四号〕
4 〔法律時観〕（一）司法官の官制を一新すべし、（二）工業監督制度の根本的改革を望む、（三）既成政党の自己否定（四）法学教育改革の急務〕法時九卷四号〔匿名記事〕
4 〔特集〕法学教育をめぐって—新に法学部に入学された諸君に〕法時九卷四号……〔所収〕川島編「嘘の効用（上）」（昭和63・6）、佐高編「役人学三則」（平成12・2）
4 〔法律相談〕 四・婿養子の代襲相続人と養子との関係〕法時九卷四号
4 〔昭和13・7—相談応接室（法律）〕東京朝日新聞
5 〔新法学辞典を推す〕新法学全集月報「新法学」二二号
5 〔責任編輯者の言葉〕新法学全集月報「新法学」二二号
5 〔法律時観〕（一）第七〇議会の解散、（二）社会立法社会政策を充実すべし、（三）窓口行政事務の改善、（四）三藩博士を悼む、（五）檢挙と褒賞〕法時九卷五号〔匿名記事〕
5 〔論説〕第七〇議会の立法概観〕法時九卷五号
5 〔第七〇議会の立法をめぐる座談会（司会）未弘殿太郎〕持水義夫—寺田省—河村秀文—穂積重遠—大内兵衛—松隈秀雄〕法時九卷五号
5 〔法律相談〕 八・土地売買の契約と登記、九・二〇年前の贈与契約、一〇・未検査苹果と鉄道運送、一一・社会事業団体の法人化と不動産取得税〕法時九卷五号
5 〔起てよ若人（オリンピックピック派遣選手応援歌）〕未弘殿太郎作詞、中山晋平作曲、徳山隼独唱、日本ビクター管弦楽団伴奏、ビクター）
6 〔法律時観〕（一）総選挙と林首相、（二）予審判事と証人、（三）少年愛護委員と少年法、（四）社会立法、（五）恐るべき保険犯罪〕法時九卷六号〔匿名記事〕
6 〔論説〕新商店法案に就て〕法時九卷六号〔未弘殿太郎—戒能通孝共著〕
6 〔法律相談〕 一二・不動産の譲渡と其の登記—担当権附山林に於ける立木売買〕法時九卷六号
6 〔新刊批評〕 後藤清・退職積立金及退職手当法論と沼越正巳・退職積立金及退職手当法積義〕法時九卷六号
6 〔国民体力向上座談会（一）〕（二四・完）東京朝日新聞

<p>一九三八 (昭和13)</p>	<p>49歳</p>
<p>17 大日本体育協会専務理事</p> <p>23 (東京帝国大学セツルメント解散)</p> <p>25 文部省学校体育運動参与員</p> <p>28 東京オリリンピック組</p>	<p>12 大学制度審査委員会委員</p>
<p>1 大日本体育協会専務理事</p> <p>1 大日本体育協会専務理事</p> <p>1 大日本体育協会専務理事</p> <p>1 大日本体育協会専務理事</p> <p>2 〔家団論〕穂積重遠『中川善之助責任編輯「家族制度全集・法律篇（第四卷）」（河出書房） 〔裁判昭和12年度76〕不当利得―窃盗より買受けた物を他人に転売した者の利得返還義務の範囲―法協五六卷一〇号 〔法律時観（一）〕法律家の使命、（二）被疑者の名譽、（三）農地調整法案、（四）戦死者と内縁の妻―法時一〇巻一〇号〔匿名記事〕 〔民法雑記帳17〕第一六・時効を援用し得る「当事者」―法時一〇巻一〇号……〔所収〕「民法雑記帳（昭和15・4、戒能編）末弘著作集2民法雑記帳（上）（昭和28・10）、戒能編」末弘著作集（第二版）II民法雑記帳（上）（昭和55・2） 〔法律時観（一）〕帝国議会第五〇年、（二）社会政策の拡充を望む、（三）国際労働機関脱退の問題、（四）法学教育とフランク問題―法時一〇巻一〇号〔匿名記事〕 〔民法雑記帳18〕第一七・不法行為としての殺人に関する梅博士の所説―法時一〇巻二〇号……〔所収〕「民法雑記帳（昭和15・4、戒能編）末弘著作集3民法雑記帳（下）（昭和28・11）、戒能編」末弘著作集（第二版）III民法雑記帳（下）（昭和55・3）</p>	<p>77 〔盧溝橋事件―日中戦争始まる〕</p> <p>7 〔法律時観（一）〕人氣、（二）市長の選出方法、（三）呉市々々議員選挙に関する行政裁判所の判決、（四）所謂法科万能問題、（五）高文試験委員に望む―法時九卷七号〔匿名記事〕 〔法律相談〕一四・旧幕時代から存続する総有家屋の法律関係、一五・遺言の方式と其の効果―法時九卷七号 〔裁判昭和12年度23〕無権利者より賃借せる小作人が栽培してゐる稲苗を申請の地主が目的的に損壊したる場合と不法行為の成立―法協五五卷八号 〔法律時観（一）〕司法省調査部に望む、（二）高等試験に対する希望、（三）学士院への希望―法時九卷八号〔匿名記事〕 〔法律相談〕一七・地主の所有権を争ふ第三者が自力的に直接小作人の耕作を妨害した事件―仮処分―業務妨害罪と毀棄罪、一八・先代が買受けたが未登記のままにして置いた隣接地の所屬に付て隣地者との間に生じた争―土地の一部と取得時効―法時九卷八号 〔新刊批評〕小林巳智次著「農業法研究」―法時九卷八号 〔法律時観（一）〕議会の効率化を計れ、（二）国民健康保険法案の流産と内閣の責任、（三）統後の熟識を組織化するべし―法時九卷九号〔匿名記事〕 〔論説〕満州国民法（総則）を説む―法時九卷九号 〔入学難と試験地獄（一）〕（三）東京朝日新聞 〔自動車の上で考へた違法問題〕新法学全集月報「新法学」一七号 〔法律時観（一）〕事変と労働法、（二）司法部の人事刷新、（三）遵法週間、（四）穂積博士の弁論―法時九卷一〇号〔匿名記事〕……〔所収〕川島編「嘘の効用（下）」（平成6・6） 〔論説〕満州国民法（物権）を説む―法時九卷一〇号 〔裁判昭和12年度50〕競落に因る所有権取得登記と其の対抗力―法協五五卷一一号 〔法律時観（一）〕法的強制と自発的協力、（二）国際的智的協力の重要性、（三）国際的智的協力と国内組織―法時九卷一一号〔匿名記事〕……〔所収〕川島編「嘘の効用（下）」（平成6・6） 〔論説〕満州国民法（債権）を説む―法時九卷一一号 〔法律時観（一）〕昭和一二年を送る、（二）鉱業災害と鉱業法改正の必要、（三）無産政党の後退と社会政策の必要、（四）官吏制度の改革、（五）戦争と国際法、（六）諸政策大に断行すべし―法時九卷一二号〔匿名記事〕 〔新刊批評〕穂積重遠・中川善之助責任編輯「家族制度全集」―法時九卷一二号（末弘徹太郎『平野義太郎共著……〔法律篇〕書評・末弘・史論編』書評・平野）</p>

織委員会構築委員会
委員

- 3 「法源としての学説」牧野(英一)教授選歴祝賀「法理論集」(有斐閣)……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(下)」(昭和55・2)
- 3 「法律時観」(一)司法権の威信を確立すべし、(二)民法的部分的改正、(三)司法科試験を独立せしむべし」法時一〇巻三号〔匿名記事〕
- 3 「民法雑記帳19」第一八・無過失賠償責任と責任分散制度、第一九・相隣関係に於ける「損害」と「償金」、第二〇・損害賠償の賦割私」法時一〇巻三号……〔所収〕「民法雑記帳(昭和15・4)」、(第一八所収)戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)」(昭和55・3)、「再録」未弘殿太郎(一論説)無過失損害賠償責任論」法時二五巻九号(昭和29・9)、「第一九所収」戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
- 4 「判民昭和12年度118」民法第一〇一条の法人への適用——村経営の公益質屋の質物の善意取得」法協五六巻四号
- 4 「法律時観」(一)自治制五〇周年を迎ふ、(二)自治団体の分化、(三)行政自治より産業自治へ、(四)新法学者諸君へ」法時一〇巻四号〔匿名記事〕……〔四〕転載「新法学全集月報」新法学二二二号(昭和13・4)、「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
- 4 「法律時観」(一)司法制度改革の速行を望む、(二)法学教育の将来、(三)外国法規の系統的蒐集、(四)法学入門者諸君へ」法時一〇巻五号〔匿名記事〕
- 5 「民法雑記帳21」第二三・不動産の加工と地下の所有権」法時一〇巻五号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(下)」(昭和55・2)
- 6 「法律時観」(一)高等試験制度の改革と法科方能の弊、(二)高等試験委員諸君へ」法時一〇巻六号〔匿名記事〕
- 6 「民法雑記帳22」第二四・債権法の身分法への適用」法時一〇巻六号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)」(昭和55・3)
- 6 「高等試験の改正について」(一)〃(三)「東京朝日新聞
- 6 「感心した旅行公德」(安部磯雄・末弘殿太郎・蛭川新・中村研一・本多静六・小寺融吉・芦田均・長谷川万治郎・呉文柄・紀平正美)旅一五巻六号
- 6 「飯田さんの追憶」水泳(日本水上競技連盟機関雑誌)五六号(飯田光太郎氏追悼号)
- 7 「法律時観」(一)議會制度審議会、(二)民法第四〇年、(三)弁護士協会の合同を望む」法時一〇巻七号〔匿名記事〕
- 7 「民法雑記帳23」第二五・信託法外の信託」法時一〇巻七号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)」(昭和55・3)
- 7 「法律時観」(一)法制と遵法精神、(二)特に司法官の要請に意を用ふべし」法時一〇巻八号〔匿名記事〕
- 8 「民法雑記帳24」第二六・占有権の効力特に果実取権について」法時一〇巻八号……〔所収〕「民法雑記帳」(昭和15・4)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
- 8 「国民皆泳と世界記録」(一)〃(五・完)「東京朝日新聞」(8・19講演記録)
- 9 「学習雜感」新法学全集月報「新法学」二八号
- 9 「法律時観」(一)朝令暮改亦可なり、(二)統制と自治的制裁、(三)司法制度改革と弁護士制度の根本的革新」法

一九三九 (昭和14)	50歳	10 5	11 7	12 20
<p>1 27 〔平賀東大総長、河合栄治郎・土方成美の休職を荒木貞夫文相に上申〕平賀爾学〔田中耕太郎、学部長辞職を申し出、教授会承認〕</p>	<p>〔平賀謙、東京帝大総長就任〕</p>	<p>〔河合栄治郎〕「フアツリズム批判」〔時局と自由主義〕「社会政策原理」〔第二学生生活〕「いづれも日本評論社」〔発禁処分〕厚生省保険院保険制度調査会委員</p>	<p>〔読書〕小泉信三氏著「アメリカ紀行」〔東京朝日新聞</p>	<p>〔法律時観〕（一）昭和一四年を迎ふ、（二）家事調停法の制定を望む〔法律時一 一巻一号〕〔匿名記事〕</p>
<p>4 4 3 3 3 2 2 1 1 1 1</p>	<p>12 12 12 12 11 11 11</p>	<p>10 10 9 9</p>	<p>11 11 11</p>	<p>12 12 12 12 11 11 11</p>
<p>〔法律時観〕（一）昭和一四年を迎ふ、（二）家事調停法の制定を望む〔法律時一 一巻一号〕〔匿名記事〕</p> <p>〔民法雑記帳29〕第三一、附従契約と行為能力〔法律時一 一巻一号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅲ 民法雑記帳（下）」（昭和55・3）</p> <p>〔我国労働政策今後の動向に関する断想〕「社会政策時報二〇〇号</p> <p>〔教育余談〕文芸春秋一七巻一号</p> <p>〔日本体育道の建設（上）（中）（下）〕読売新聞</p> <p>〔法律時観〕（一）法科大学の再建、（二）無任所大臣の問題〔法律時一 一巻二号〕〔匿名記事〕</p> <p>〔民法雑記帳30〕第三三、債務不履行に因る契約解除と損害賠償〔法律時一 一巻二号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅲ 民法雑記帳（下）」（昭和55・3）</p> <p>〔法律時観〕（一）手続の価値、（二）人事調停法の精神、（三）調停委員の人选、（四）金銭債務臨時調停法と少額裁判所〔法律時一 一巻三号〕〔匿名記事〕</p> <p>〔民法雑記帳31〕第三三、身分法の特異性と人事調停〔法律時一 一巻三号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集2 民法雑記帳（上）」（昭和28・10）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅱ 民法雑記帳（上）」（昭和55・2）</p> <p>〔体育の義務と体育の生活化〕水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）六三号</p> <p>〔判民昭和13年度12〕商品の混同を生ぜしむるの虞ある商標の意義〔法協五七巻四号</p> <p>〔法律時観〕（一）新法学生諸君へ、（二）法律案提出の遅延〔法律時一 一巻四号〕〔匿名記事〕</p>	<p>〔国民皆泳と世界記録〕水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）五九号</p>	<p>時一〇巻九号〔匿名記事〕</p> <p>〔民法雑記帳25〕第二七、共有物の分割と分割の訴〔法律時一〇巻九号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集2 民法雑記帳（上）」（昭和28・10）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅱ 民法雑記帳（上）」（昭和55・2）</p> <p>〔読書〕小泉信三氏著「アメリカ紀行」〔東京朝日新聞</p> <p>〔法律時観〕支那に於ける法的慣行調査の必要〔法律時一〇巻一〇号〕〔匿名記事〕</p> <p>〔民法雑記帳26〕第二八、所有者担当に関する多少の考察〔法律時一〇巻一〇号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集2 民法雑記帳（上）」（昭和28・10）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅱ 民法雑記帳（上）」（昭和55・2）</p> <p>〔法律時観〕（一）高等試験制度の根本的改革を求む、（二）行政裁判所的人的構成を改める必要はないのか〔法律時一〇巻一一号〕〔匿名記事〕</p> <p>〔論議〕安定原理の労働政策と労働法〔法律時一〇巻一一号</p> <p>〔民法雑記帳27〕第二九、親子関係確認の訴〔法律時一〇巻一一号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集2 民法雑記帳（上）」（昭和28・10）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅱ 民法雑記帳（上）」（昭和55・2）</p> <p>〔統制法令集〕（日本評論社、末弘徹太郎監修・広瀬武文編</p> <p>〔法律時観〕（一）昭和一三年を送る、（二）社会保険の体系的実現を望む、（三）国家総動員法の全面的発動を前にして、（四）試験制度と試験方法、（五）婦人弁護士〔法律時一〇巻一二号〕〔匿名記事〕</p> <p>〔民法雑記帳28〕第三〇、予防法学としての民法学〔法律時一〇巻一二号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集2 民法雑記帳（上）」（昭和28・10）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅱ 民法雑記帳（上）」（昭和55・2）</p>	<p>〔論議〕安定原理の労働政策と労働法〔法律時一〇巻一一号</p> <p>〔民法雑記帳27〕第二九、親子関係確認の訴〔法律時一〇巻一一号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集2 民法雑記帳（上）」（昭和28・10）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅱ 民法雑記帳（上）」（昭和55・2）</p> <p>〔統制法令集〕（日本評論社、末弘徹太郎監修・広瀬武文編</p> <p>〔法律時観〕（一）昭和一三年を送る、（二）社会保険の体系的実現を望む、（三）国家総動員法の全面的発動を前にして、（四）試験制度と試験方法、（五）婦人弁護士〔法律時一〇巻一二号〕〔匿名記事〕</p> <p>〔民法雑記帳28〕第三〇、予防法学としての民法学〔法律時一〇巻一二号……（所収）「民法雑記帳」昭和15・4、戒能編「未弘著作集2 民法雑記帳（上）」（昭和28・10）、戒能編「未弘著作集（第二版）Ⅱ 民法雑記帳（上）」（昭和55・2）</p>	<p>〔国民皆泳と世界記録〕水泳（日本水上競技連盟機関雑誌）五九号</p>

一九四〇 (昭和15)	51歳		11 13 学内・学部制度委員 会委員	1 1	〔法律時観〕(一) 皇紀二六〇〇年を迎ふ、(二) 統制強化の対策—他律より自律へ〕法時二卷一号〔匿名記事〕 〔民法雑記帳40〕第四二・技術の貧困〕法時二卷一号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著
				12	〔法律時観〕(一) 皇紀二六〇〇年を迎ふ、(二) 統制強化の対策—他律より自律へ〕法時二卷一号〔匿名記事〕 〔民法雑記帳39〕第四一・行政的解釈の法源性〕法時一卷二号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集2民法雑記帳(上)〕〔昭和28・10〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・2〕 〔懸賞論文短評〕緑々雑誌一―号
				12 12	〔法律時観〕(一) 日本語学振興と日本法学、(二) 支那慣行調査の開始を喜ぶ〕法時一卷二号〔匿名記事〕 〔民法雑記帳39〕第四一・行政的解釈の法源性〕法時一卷二号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集2民法雑記帳(上)〕〔昭和28・10〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・2〕
				11	〔民法雑記帳38〕第四〇・日本法学の課題〕法時一卷一号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集2民法雑記帳(上)〕〔昭和28・10〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(上)〕〔昭和55・2〕 〔法律時観〕(一) 内閣総理大臣の権限強化、(二) 経済警察の強化問題、(三) 地代家賃統制令と借地借家調停法、(四) 高文試験に於ける答案審査方法に就いて〕法時一卷一号……〔匿名記事〕
				11 11 11 10	〔責任編輯者の言葉〕新法学全集月報「新法学」三九号 〔法律時観〕(一) 内閣総理大臣の権限強化、(二) 経済警察の強化問題、(三) 地代家賃統制令と借地借家調停法、(四) 高文試験に於ける答案審査方法に就いて〕法時一卷一号……〔匿名記事〕 〔民法雑記帳37〕第三九・同時存在の原則に対する疑ひ〕法時一卷一〇号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4〕、戒能編〔末弘著作集2民法雑記帳(上)〕〔昭和28・10〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・2〕 法律時報編輯部編「逐条解説国家総動員法—附、物価停止関係等法令解説」〔序〕……〔増補版〕12月
				10	〔民法雑記帳37〕第三九・同時存在の原則に対する疑ひ〕法時一卷一〇号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4〕、戒能編〔末弘著作集2民法雑記帳(上)〕〔昭和28・10〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・2〕
				10 10 9	〔工業所有権法〕新法学全集月報「新法学」三九号 〔法律時観〕(一) 警官難、(二) 内縁の妻と準扶助料、(三) 時局と婦人労働者〕法時一卷九号〔匿名記事〕 〔工業所有権法〕新法学全集月報「新法学」三九号 〔法律時観〕(一) 司法記念日を迎ふるに当りて、(二) 地代家賃統制令の実施について〕法時一卷一〇号〔匿名記事〕
				8 8	〔民法雑記帳36〕第三八・雇傭と民法第五四一条〕法時一卷八号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集3民法雑記帳(下)〕〔昭和28・11〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・3〕 〔法律時観〕(一) 私法研究所の新設を祝す、(二) 国民徴用令の実施に当りて〕法時一卷八号〔匿名記事〕
				8	〔民法雑記帳35〕第三七・三の団体型〕法時一卷七号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集3民法雑記帳(下)〕〔昭和28・11〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・3〕 〔平民昭和14年度18〕営業開始前に於ける商標権の譲渡—商標法第二二条一項の意義—周知標章使用者の権利〕法協五七巻八号 〔法律時観〕(一) 民法改正事業の再進行、(二) 朝鮮の民事令改正、(三) 国家試験に対するの疑ひ〕法時二卷七号〔匿名記事〕
				7 7	〔民法雑記帳34〕第三六・委任難考〕法時一卷六号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集3民法雑記帳(下)〕〔昭和28・11〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・3〕 〔法律時観〕(一) 民法改正事業の再進行、(二) 朝鮮の民事令改正、(三) 国家試験に対するの疑ひ〕法時二卷七号〔匿名記事〕
				6 5	〔法律時観〕(一) 統制諸法令は適時に改廃せざるべからず、(二) 再び法的慣行調査の問題について〕法時二卷六号〔匿名記事〕 〔練習十則〕水泳〔日本水上競技連盟機関雑誌〕六四号
				5 5	〔民法雑記帳33〕第三五・物権的請求権理論の再検討〕法時二卷五号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集2民法雑記帳(上)〕〔昭和28・10〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅱ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・2〕 〔法律時観〕(一) 経済警察と自治的制裁〕〔昭和28・11〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・3〕
				4	〔民法雑記帳32〕第三四・無償契約難考〕法時一卷四号……〔所収〕民法雑記帳〔昭和15・4、戒能編〕末弘著作集3民法雑記帳(下)〕〔昭和28・11〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・3〕 〔法律時観〕(一) 経済警察と自治的制裁〕〔昭和28・11〕、戒能編〔末弘著作集(第二版)Ⅲ民法雑記帳(下)〕〔昭和55・3〕

4	11	東亜競技大会準備委員 員会事務局長	2	2	作集2 民法雑記帳（上）（昭和28・10）、戒能編「末弘著作集（第二版）II 民法雑記帳（上）」（昭和55・2） 〔法律時規〕 調停前置主義 法時二卷二号（匿名記事） 〔民法雑記帳41〕 第四三・被害者としての家 法時二卷二号……〔所収〕「民法雑記帳」（昭和15・4）、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「末弘著作集（第二版）III 民法雑記帳（下）」（昭和55・3） 〔時評〕（一）産業組合の問題、（二）法令実施の結果を當時調査すべし 法時二卷三号 〔試験随想〕 試験の話 帝国大学新聞八〇四号……〔復刻版〕「帝国大学新聞（第四卷）（不二出版、昭和59・12） 〔民法雑記帳42〕 44 不法行為法の再構成（一）（中）（下） 法時二卷三号、四号、五号……〔所収〕「統民法雑記帳（昭和24・8）、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「末弘著作集（第二版）III 民法雑記帳（下）」（昭和55・3） 〔民法雑記帳（日本評論社） 〔時評〕（一）新法学生を迎ふるに当りて——法学志望者減少の傾向 法時二卷四号 〔時事雑感〕（一）為政者の弱気、（二）精神運動、（三）物質三分精神七分の訓 改造二卷四号……〔所収〕川島編「嘘の効用（下）」（平成6・6） 〔追憶〕水泳（日本水上競技連盟機関雜誌）七号（故石本已四雄氏追憶号） 〔判民昭和14年度90〕 記名株式の保護預と銀行の責任——民法第七一五条の「被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害」の意義 法協五八巻五号 〔時評〕（一）制度の形式的整備と施設の実質的不備、（二）文官試験制度の改革、（三）報国債券と実施上の注意 法時二卷五号 〔民法雑記帳45〕 第四五・殺人と賠償額決定方法 法時二卷六号……〔所収〕「統民法雑記帳」（昭和24・8）、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「末弘著作集（第二版）III 民法雑記帳（下）」（昭和55・3） 〔時評〕（一）改正刑法仮案の発表、（二）法学教育と試験制度 法時二卷六号 〔民法雑記帳46〕 第四六・不法行為と「法なければ罪なし」の原則 法時二卷七号……〔所収〕「統民法雑記帳」（昭和24・8）、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「末弘著作集（第二版）III 民法雑記帳（下）」（昭和55・3） 〔時評〕（一）産報運動と労働組合、（二）社会保険の拡充を希望す、（三）府県単位の統制方式に対する疑ひ 法時二卷七号 〔民法雑記帳47〕 第四七・家団の不法行為 法時二卷八号……〔所収〕「統民法雑記帳」（昭和24・8）、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「末弘著作集（第二版）III 民法雑記帳（下）」（昭和55・3） 〔時評〕（一）教育制度より寧ろ教育精神、（二）学生と政治運動 法時二卷八号 〔民法雑記帳48〕 第四八・団体責任の原理（上）（下） 法時二卷九号……〔所収〕「統民法雑記帳」（昭和24・8）、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「末弘著作集（第二版）III 民法雑記帳（下）」（昭和55・3） 〔時評〕（一）直観的教育と論理的教育、（二）入営者職業保障法と従業者雇入制限令 法時二卷九号 〔民法雑記帳49〕 第四八・団体責任の原理（下）、第四九・裁判規範としての身分法と組織規範としての身分法 法時二卷一〇号……〔所収〕「統民法雑記帳」（昭和24・8）、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳（下）」（昭和28・11）、戒能編「末弘著作集（第二版）III 民法雑記帳（下）」（昭和55・3） 〔時評〕（表題なし） 法時二卷一〇号 〔座談会〕 大政翼賛運動——青年の使命を語る（一）（七・完） 東京朝日新聞 〔時評〕（一）日本法理研究会、（二）議会制度の革新について 法時二卷一一号
10	12	（大政翼賛会発足） 体育功労者表彰	10	9	
10	10		10	8	
10	10		9	8	
8	20	中国・華北農村調査 に出発	8	7	
7	18	中央社会事業委員会 委員	7	6	
5	21	工業所有権制度調査 委員会委員	6	5	
4	11		5	4	

一九四一
(昭和16)

2

日本法理研究会「日本身分法理研究要綱」原案起草

3
10

(治安維持法全改)

12 12 12 12 11

「明るい国民生活(日独座談会①)④」東京朝日新聞
「新体制と体育運動」(大政翼賛会宣伝部・大政翼賛叢書・第七輯)
「民法雑記帳50」第五〇・Ochan Handの原則」法時一二巻二号……〔所収〕「続民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和55・3)
〔時評〕(一)「社会保険制度の体系的完備を望む、(二)工業所有権制度の改正に付いて」法時二巻二二号
〔調査方針等に関する覚書〕東亜研究所第六調査会学術部委員会「滿洲北中支農村視察状況」附録……〔収録〕「中国農村慣行調査(第一巻)」(岩波書店、昭和27・12)

〔支那に於ける法的慣行の調査〕法協五九巻一号「平野義太郎と共同執筆」
「農村更生運動の基調」産業組合四二二号
「民法雑記帳51」第五一・考方の順進」法時一三巻一号……〔所収〕「続民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

〔時評〕(一)「地頭政治思想を払拭すべし、(二)朝令暮改も亦可なり」法時一三巻一号
〔判民昭和9年度110〕売渡担保「買戻約款附充買の形式に依る売渡担保」〔法協未登載〕「判例民法」(昭和9年度)(有妻閣)

〔判民昭和9年度119〕身元保証「信用保険を附せられたる被用者の為めに身元保証を為したる者の責任範囲」〔法協未登載〕「判例民法」(昭和9年度)(有妻閣)

〔判民昭和9年度166〕家督相続順位「民法第八三六条第二項に依りて嫡出子たる身分を取得したる私生子相互間の相続順位は認知の先後に依りて定まる」〔法協未登載〕「判例民法」(昭和9年度)(有妻閣)

〔判民昭和9年度17〕水先人組合の法律的性質「民法上の組合にして其決議に対する無効確認の訴は司法裁判所の管轄に属する」〔法協未登載〕「判例民法」(昭和9年度)(有妻閣)

〔民法雑記帳52〕第五二・判例の法源性」と判例の研究(上)」法時一三巻二号……〔所収〕「続民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

〔時評〕(一)「予算制度を根本的に改革すべし、(二)国家総動員法の改正と臨時措置法、(三)官吏制度の改革と法科大学の教育」法時一三巻二号

〔民法雑記帳53〕第五三・判例の法源性」と判例の研究(下)」法時一三巻三号……〔所収〕「続民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

〔時評〕(一)立法の体系、(二)試験制度と試験方法、(三)法学志望者の減少」法時一三巻三号

〔法窓雑感〕改造」三巻五号

〔予防法学的見地よりする身分法改正問題の一考察(上)』法時一三巻二号、四号

〔時評〕(一)「統制法令の周知を計るべし、(二)外国語濫用の弊を一掃すべし」法時一三巻四号

〔佐々木先輩について想ひ出づること』も「先輩佐々木保蔵氏追悼号」(高弥生会)

〔判民昭和15年度11〕商標「商標の類似性」法協五九巻五号

〔民法雑記帳54〕第五四・再びOchan Handの原則について、第五五・法定の型と実在の事実」法時一三巻五号……〔所収〕「続民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「未弘著作集(第二版) III民法雑記帳(下)」(昭和55・3)、(第五五所収)戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

<p>53歳</p>	<p>66 高等試験臨時委員会委員</p> <p>98 学内・特設防護団法学部団代理団長</p> <p>114 大日本学徒体育振興会設立小委員会委員</p> <p>128 〔大正洋戦争始まる〕</p> <p>1212 厚生省保険院専門委員</p>	<p>5 〔時評〕(一) 協力と批判、(二) 隣組の法制化、(三) 府県領国主義の弊 法時 三卷五号</p> <p>6 〔民法雑記帳55〕 第五五・任意の記載事項の法律の性質 第五六・団体財産と信託法理 法時 三卷六号……〔所収〕</p> <p>6 〔統民法雑記帳〕(昭和24・8)、(第五五所収) 戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集(第二版) Ⅲ民法雑記帳(下)」(昭和55・3)、(第五六所収) 戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)</p> <p>6 〔時評〕(一) 官界革新の要諦、(二) 工場公害紛議 法時 三卷六号</p> <p>6 〔民法雑記帳56〕 第五七・実在としての法人と技術としての法人 法時 三卷七号……〔所収〕</p> <p>6 〔統民法雑記帳〕(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)</p> <p>7 〔時評〕(一) 判例批評の態度、(二) 特許法改正の根本問題 法時 三卷七号</p> <p>7 〔時評〕(一) エアリックの「成文法と生きた法律」 法時 三卷八号</p> <p>7 〔時評〕(一) 法学教育と教授法、(二) 法令の名称を簡易化するべし 法時 三卷八号</p> <p>7 〔国民皆泳の歌〕 末弘徹太郎作詞、日本音楽学校作曲、日本水上競技連盟</p> <p>8 〔民法雑記帳57〕 59 第五八・公法人私法人の区別(上)(中)(下) 法時 三卷八号 九号、一〇号……〔所収〕</p> <p>8 〔統民法雑記帳〕(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)</p> <p>8 〔時評〕(一) 法律学の科学化、(二) 官吏と責任 法時 三卷九号</p> <p>8 〔時評〕(一) 法人法研究の新たな展開を望む、(二) 在学引き延ばしの弊と高等試験 法時 三卷一〇号</p> <p>8 〔統制経済法の法律社会的考察〕 法時 三卷一〇号</p> <p>9 〔民法雑記帳60〕 第五九・理論と立法者の意思 法時 三卷一〇号……〔所収〕</p> <p>9 〔統民法雑記帳〕(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)</p> <p>10 〔時評〕 遵法精神昂揚の道 法時 三卷一〇号</p> <p>10 〔旅行論談・旅行の計画化(太宰施門・田中耕太郎・杉田直樹・杉本正幸・川路柳虹・末弘徹太郎) 旅一八卷一〇号</p> <p>10 〔民法雑記帳61〕 第六〇・立木の売買と民法第一九二条 法時 三卷一〇号……〔所収〕</p> <p>10 〔統民法雑記帳〕(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) Ⅱ民法雑記帳(上)」(昭和55・2)</p> <p>11 〔時評〕(一) 入営者職業保険法の精神を尊重すべし、(二) 行政機構改革上の一問題、(三) 穂積博士の法学通論 法時 三卷一〇号</p> <p>11 〔調査研究と憶測〕 東亜研究所第六調査委員会・學術部委員会編「支那慣行調査彙報」……〔収録〕</p> <p>11 〔中国農村慣行調査(第一卷)〕(岩波書店、昭和27・12)</p>
<p>一九四二(昭和17)</p>	<p>39 東京帝国大学法学部</p>	<p>1 〔時評〕(一) 異民族に接するの用意、(二) 無警告開戦者は誰か 法時 四卷一〇号</p> <p>1 〔科学技術の振興と其外的条件〕 中央公論五七卷一〇号</p> <p>1 〔国家の要請に応へよ〕 帝国大学新聞八八三号……〔複製版〕 帝国大学新聞(第一六卷) (二) 出版、昭和60・2</p> <p>1 〔民法雑記帳62〕 63 第六一・名義貸与者の責任(上)(下) 法時 四卷一〇号、二〇号……〔所収〕</p> <p>1 〔統民法雑記帳〕(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集(第二版) Ⅲ民法雑記帳(下)」(昭和55・3)</p> <p>2 〔時評〕(一) 遵法精神と情実の弊、(二) 外国法の教育と外国法研究所 法時 四卷二〇号</p> <p>2 〔民法雑記帳64〕 第六二・定義規定の解釈方法——天然果実の意義について 法時 四卷三〇号……〔所収〕</p> <p>2 〔統民法</p>

長、報告隊法学部隊
部長、特設防護団法学
部団長、全学生会中央
審議員
労働法講義が通年の
選科目となる
大日本体育会発足
(水泳部会長)
日本法理研究会設立

7 1
学内・南方科学研究
会参与

11 1
厚生省勤労局参与

12 11 11 10 10 10 9 9 9 9 9 8 8 7 7 6 6 6 5 5 4 4 3

「雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

「時評」(一) 高等学校教育と大学法学部の教育、(二) 進正と戸籍の記載」法時一四卷三号

「民法学生時代の回顧——特に川名兼四郎教授について」東京帝国大学学術大観(法学部・経済学部)「東京帝国大学」学)

「時評」(一) 翻訳統制の必要、(二)「戸籍の洗濯」法時一四卷四号

「民法雑記帳65」第六三・法定果実」法時一四卷五号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

「時評」(一) 高等試験と試験問題、(二) 制度か人か」法時一四卷五号

「判民昭和16年度83」特定株券の質借と其取消に因る返済義務——現物返還か価格返還か」法協六〇卷六号

「民法雑記帳66」第六四・株式配当金と法定果実、第六五・人格なき社団財団の法人化(上)」法時一四卷六号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)、(第六四所収)戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)、(第六五所収)戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「未弘著作集(第二版)III民法雑記帳(下)」(昭和55・3)

「時評」(一) 管理と責任、(二) 翼賛政治会の創立と大政翼賛会の改組、(三) 蘭印慣習法の研究」(四) さ、やかにる提案」法時一四卷六号

「民法雑記帳67」第六五・人格なき社団財団の法人化(下)」法時一四卷七号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)

戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

「時評」(一) 敵性工業所有権の問題、(二) 大学教育と就職」法時一四卷七号

「民法雑記帳68」第六六・債務不履行と刑事制裁」法時一四卷八号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

「時評」(一) 高等試験と大学教育、(二) 行政簡素化と行政効率の問題」法時一四卷八号

「水泳日本」の基礎」日伊協会会報二号

「民法雑記帳69」第六七・母の懲戒権」法時一四卷九号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「未弘著作集(第二版)III民法雑記帳(下)」(昭和55・3)

「時評」 高等学校二年制と法学教育」法時一四卷九号

「南沢一夕話」体育の生活化(未弘蔵太郎・羽仁吉一・羽仁もと子) 婦人友友三六卷九号

「緑会を生かす道」緑会雑誌一四号

「民法雑記帳70」第六八・一般信託法形成の必要と其方法」法時一四卷一〇号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集3民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「未弘著作集(第二版)III民法雑記帳(下)」(昭和55・3)

「時評」法学入門者諸君へ」法時一四卷一〇号

「文化評論」大学と体育」帝国大学新聞九一七号……(復刻版「帝国大学新聞(第一六卷)」(不)二出版、昭和60・2)

「民法雑記帳71」第六九・法源としての条理」法時一四卷一〇号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

「時評」(一) 役徳根性を絶滅すべし、(二) 学恩を忘るるもの、(三) こに無駄あり」法時一四卷一〇号

「民法雑記帳72」第七〇・死亡の認定」法時一四卷一〇号……(所収)「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集(第二版)II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

一九四三 (昭和18)	
12	〔時評〕(一) 法に依る行政と行政の能率、(二) 統制会の問題 法時一四卷一、二号
1	〔民法雑記帳73〕第七一・法人相対性の原理 法時一五卷一号……〔所収〕『統民法雑記帳』(昭和24・8、戒能編「未弘著作集」2民法雑記帳(上)) (昭和28・10)、戒能編「未弘著作集」(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
2	〔時評〕(一) 悪質の闇を厳罰することに躊躇すること勿れ、(二) 戦争と無体財産権 法時一五卷一号
1	〔民法雑記帳74〕第七二・機関関係の理論的考察 法時一五卷二号……〔所収〕『統民法雑記帳』(昭和24・8、戒能編「未弘著作集」2民法雑記帳(上)) (昭和28・10)、戒能編「未弘著作集」(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
2	〔時評〕 他山の石 法時一五卷二号
2	〔体育増強の手段——体育種目の整理について(上)(下)——東京朝日新聞「判民昭和17年度49」民法第五六一一条の解除権——他人の権利の買主が直接他人より権利を取得し売主をして履行不能に陥らしめたる場合にも第五六一一条の解除権ありや」法協六一卷三号
3	〔時評〕(一) 大学院問題をめぐりて、(二) 勤労根本法、(三) 高等教育とフランス語 法時一五卷三号
3	〔民法雑記帳75〕76〕第七三・事実たる慣習(上)(下) 法時一五卷三号、四号……〔所収〕『統民法雑記帳』(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集」2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集」(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
4	〔時評〕(一) 学制改革と大学、(二) 学校教育の肅正 法時一五卷四号
5	〔時評〕 法学及び法学教育の刷新 法時一五卷五号
5	〔体育〕 入営前の体鍛を要望する／二事業の実施に当って 帝国大学新聞九四七号……〔復刻版〕『帝国大学新聞(第一六卷)』(不二出版、昭和60・2)
5	〔民法雑記帳77〕79〕第七四・消極的契約利益(上)(中)(下) 法時一五卷五号、六号、七号……〔所収〕『統民法雑記帳』(昭和24・8、戒能編「未弘著作集」3民法雑記帳(下)) (昭和28・11)、戒能編「未弘著作集」(第二版) III民法雑記帳(下)」(昭和55・3)
6	〔時評〕 調停と法律相談 法時一五卷六号
6	〔増産のなやみ〕 婦人之友三七卷六号
7	〔水泳読本〕(清水書房、東京国民学校水泳連盟編)「序文 指導者並びに一般父兄に」
7	〔時評〕 高校大学連絡問題 法時一五卷七号
7	〔民法雑記帳80〕第七五・「家督相続」特権ニ属スル権利——家団財産の研究(其の一) 法時一五卷八号……〔所収〕『統民法雑記帳』(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集」2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集」(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
8	〔時評〕(一) 法学は果して不急の学なりや、(二) 大学と教育 法時一五卷八号
9	〔民法雑記帳81〕第七六・家族世襲財産——家団財産の研究(其の二) 法時一五卷九号……〔所収〕『統民法雑記帳』(昭和24・8)、戒能編「未弘著作集」2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集」(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)
9	〔時評〕(一) 科学の研究動員と特許法の問題、(二) 軍事援護学会の創立 法時一五卷九号
9	〔戦争と学生〕 緑会雑誌一五号
9	〔時評〕 国内体制強化策と大学教育 法時一五卷一〇号
11	〔法律と慣習——日本法理探求の方法に關する一考察 法時一五卷一十一号……〔所収〕『統民法雑記帳』(昭和24・8)、〔中国農村慣行調査(第一卷)——岩波書店、昭和27・12)、戒能編「未弘著作集」2民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「未弘著作集」(第二版) II民法雑記帳(上)」(昭和55・2)

56歳		一九四四 (昭和19)	55歳
10	三男・忠夫、台湾沖 航空戦で戦死		11 12 〔東大出陣壮行 会(於・安田講室)〕
11			12
11			12
10			12
10			11
9			
9			
8			
8			
8			
7			
6			
5			
4			
3			
3			
2			
2			
1			
1			
11			
10			
10			
9			
9			
8			
8			
8			
7			
6			
5			
4			
3			
3			
2			
2			
1			
1			
11			
12			
12			
12			
11			

一九四五 (昭和20)	57歳	一九四六 (昭和21)
12 11 翼賛壮年団(翼賛) 参与	12 12 10 10 10 1 8 15 (終戦) 7 12 委員 技術院所属内閣行政 委員	1 29 (鳩山秀夫死去)
12 12 「民法雑記帳89」土地の種類(下)——土地法雑考(其五) 法時一六卷二二号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(上)」(昭和55・2) 〔時評〕調査戦線の統一を望む 法時一六卷二二号	10 9 「戦争と体育」(大日本体育会・体育叢書第一輯) 「高校三年制を復活せよ・下」教授要目の撤廃/外国語教育拡充と体育改善」大学新聞四一号……〔復刻版〕「帝國大学新聞(第一七巻)」(不二出版、昭和60・2)	1 1 「立法学に関する多少の考察」労働組合立法法に連関して」法協一八巻一号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集(第二版) III 民法雑記帳(下)」(昭和55・3)、(再録)「民事立法学」法時五三巻一四号臨時増刊(昭和56・12) 〔法律時評〕憲法改正問題管見 法時一八巻二号 〔労働組合の指針〕末弘博士を囲む座談会(一)～(八) 読売新聞 〔労働組合〕(交通協力会・新時代叢書) 〔経営管理の合法性と其限界〕読売新聞 〔法律時評〕憲法改正随想 法時一八巻二号 〔労働組合法解説〕法時一八巻二号 〔労働法の根本精神(特集・労働組合法)〕法律新報七二六号 〔経営管理の合法性と其限界(上) (下) 毎日新聞……(再録) 日本労働協会雑誌二二巻五号(昭和55・5) 〔法律時評〕(一)官界刷新の要諦、(二)政治の民主化と民間研究所 法時一八巻三三号 〔争議行為としての生産管理〕その合法性と限界 法時一八巻三三号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1) 〔座談会〕新しき政治を語る(末弘徹太郎 杉森孝次郎 東畑精一 羽仁吉一 羽仁もと子) 婦人之友四〇巻二二号 〔法律時評〕憲法改正案の司法規定について 法時一八巻四号
2 24 学術研究会議人文科学 関係研究動員委員 会委員 2 28 司法官試験及弁護士 試験銓衡委員会委員 3 9 法学部長任期満了退 任 7 12 技術院所属内閣行政 委員	12 12 10 27 11 22 委員 東大セツルメント再 興準備委員会	1 29 (鳩山秀夫死去)
1 「民法雑記帳90」法律関係と道義則(上) 法時一七巻二二号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(上)」(昭和55・2) 〔時評〕法学教育者の反省 法時一七巻一号 「民法雑記帳91」法律関係と道義則(中) 法時一七巻二二号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(上)」(昭和55・2) 〔時評〕根こそぎ動員 の前に予め考へて欲しい事共 法時一七巻二二号 「産報指導要項」(大日本体育会編纂 国民図書刊行会) 〔時評〕授業停止と教育 法時一七巻三二四号	10 9 「戦争と体育」(大日本体育会・体育叢書第一輯) 「高校三年制を復活せよ・下」教授要目の撤廃/外国語教育拡充と体育改善」大学新聞四一号……〔復刻版〕「帝國大学新聞(第一七巻)」(不二出版、昭和60・2)	1 1 「立法学に関する多少の考察」労働組合立法法に連関して」法協一八巻一号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集(第二版) III 民法雑記帳(下)」(昭和55・3)、(再録)「民事立法学」法時五三巻一四号臨時増刊(昭和56・12) 〔法律時評〕憲法改正問題管見 法時一八巻二号 〔労働組合の指針〕末弘博士を囲む座談会(一)～(八) 読売新聞 〔労働組合〕(交通協力会・新時代叢書) 〔経営管理の合法性と其限界〕読売新聞 〔法律時評〕憲法改正随想 法時一八巻二号 〔労働組合法解説〕法時一八巻二号 〔労働法の根本精神(特集・労働組合法)〕法律新報七二六号 〔経営管理の合法性と其限界(上) (下) 毎日新聞……(再録) 日本労働協会雑誌二二巻五号(昭和55・5) 〔法律時評〕(一)官界刷新の要諦、(二)政治の民主化と民間研究所 法時一八巻三三号 〔争議行為としての生産管理〕その合法性と限界 法時一八巻三三号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1) 〔座談会〕新しき政治を語る(末弘徹太郎 杉森孝次郎 東畑精一 羽仁吉一 羽仁もと子) 婦人之友四〇巻二二号 〔法律時評〕憲法改正案の司法規定について 法時一八巻四号
3 1 中央労働委員会発足 (公益委員・会長代 理)・東京都地方労 働委員会会長	12 12 10 27 11 22 委員 東大セツルメント再 興準備委員会	1 29 (鳩山秀夫死去)
1 「民法雑記帳89」土地の種類(下)——土地法雑考(其五) 法時一六卷二二号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(上)」(昭和55・2) 〔時評〕調査戦線の統一を望む 法時一六卷二二号	10 9 「戦争と体育」(大日本体育会・体育叢書第一輯) 「高校三年制を復活せよ・下」教授要目の撤廃/外国語教育拡充と体育改善」大学新聞四一号……〔復刻版〕「帝國大学新聞(第一七巻)」(不二出版、昭和60・2)	1 1 「立法学に関する多少の考察」労働組合立法法に連関して」法協一八巻一号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集(第二版) III 民法雑記帳(下)」(昭和55・3)、(再録)「民事立法学」法時五三巻一四号臨時増刊(昭和56・12) 〔法律時評〕憲法改正問題管見 法時一八巻二号 〔労働組合の指針〕末弘博士を囲む座談会(一)～(八) 読売新聞 〔労働組合〕(交通協力会・新時代叢書) 〔経営管理の合法性と其限界〕読売新聞 〔法律時評〕憲法改正随想 法時一八巻二号 〔労働組合法解説〕法時一八巻二号 〔労働法の根本精神(特集・労働組合法)〕法律新報七二六号 〔経営管理の合法性と其限界(上) (下) 毎日新聞……(再録) 日本労働協会雑誌二二巻五号(昭和55・5) 〔法律時評〕(一)官界刷新の要諦、(二)政治の民主化と民間研究所 法時一八巻三三号 〔争議行為としての生産管理〕その合法性と限界 法時一八巻三三号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1) 〔座談会〕新しき政治を語る(末弘徹太郎 杉森孝次郎 東畑精一 羽仁吉一 羽仁もと子) 婦人之友四〇巻二二号 〔法律時評〕憲法改正案の司法規定について 法時一八巻四号
4 1 高等官廃官により文	12 12 10 27 11 22 委員 東大セツルメント再 興準備委員会	1 29 (鳩山秀夫死去)
1 「民法雑記帳89」土地の種類(下)——土地法雑考(其五) 法時一六卷二二号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集2 民法雑記帳(上)」(昭和28・10)、戒能編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(上)」(昭和55・2) 〔時評〕調査戦線の統一を望む 法時一六卷二二号	10 9 「戦争と体育」(大日本体育会・体育叢書第一輯) 「高校三年制を復活せよ・下」教授要目の撤廃/外国語教育拡充と体育改善」大学新聞四一号……〔復刻版〕「帝國大学新聞(第一七巻)」(不二出版、昭和60・2)	1 1 「立法学に関する多少の考察」労働組合立法法に連関して」法協一八巻一号……〔所収〕「統民法雑記帳」(昭和24・8)、戒能編「末弘著作集3 民法雑記帳(下)」(昭和28・11)、戒能編「末弘著作集(第二版) III 民法雑記帳(下)」(昭和55・3)、(再録)「民事立法学」法時五三巻一四号臨時増刊(昭和56・12) 〔法律時評〕憲法改正問題管見 法時一八巻二号 〔労働組合の指針〕末弘博士を囲む座談会(一)～(八) 読売新聞 〔労働組合〕(交通協力会・新時代叢書) 〔経営管理の合法性と其限界〕読売新聞 〔法律時評〕憲法改正随想 法時一八巻二号 〔労働組合法解説〕法時一八巻二号 〔労働法の根本精神(特集・労働組合法)〕法律新報七二六号 〔経営管理の合法性と其限界(上) (下) 毎日新聞……(再録) 日本労働協会雑誌二二巻五号(昭和55・5) 〔法律時評〕(一)官界刷新の要諦、(二)政治の民主化と民間研究所 法時一八巻三三号 〔争議行為としての生産管理〕その合法性と限界 法時一八巻三三号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1) 〔座談会〕新しき政治を語る(末弘徹太郎 杉森孝次郎 東畑精一 羽仁吉一 羽仁もと子) 婦人之友四〇巻二二号 〔法律時評〕憲法改正案の司法規定について 法時一八巻四号

<p>一九四七 (昭和22)</p>	<p>58 歳</p>	<p>11 7 11 10 4 9 30 9 27 8 14 8 14 5 22 4 24 4 18</p> <p>院廃止、最高裁判所 法施行により、大審 〔日本国憲法・裁判所 (労働基準法) 5 3 4 7 3 1 帝国大学新聞主催「中 労委員として学生諸 君に」と題する講演 (於「東京帝国大学」)</p>	<p>部教官(二級)教授 船員中央労働委員会 会長 法学部長(我妻栄) に碎表提出 〔田中耕太郎、東大退 官、文部大臣就任〕</p>
<p>5 5 5 5 4 4 3 3 3 3 2 2 1 1 1 1 1 1</p> <p>〔法律時評〕「(一)人事調停と人事相談、(二)労働組合と政治運動」法時一九卷五号……(二・所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔労働法雑記帳1〕「(一)労働法の概念(一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳2〕「(一)労働法の概念(二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳3〕「(一)労働法の概念(三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳4〕「(一)労働法の概念(四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳5〕「(一)労働法の概念(五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳6〕「(一)労働法の概念(六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳7〕「(一)労働法の概念(七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳8〕「(一)労働法の概念(八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳9〕「(一)労働法の概念(九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳10〕「(一)労働法の概念(十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳11〕「(一)労働法の概念(十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳12〕「(一)労働法の概念(十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳13〕「(一)労働法の概念(十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳14〕「(一)労働法の概念(十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳15〕「(一)労働法の概念(十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳16〕「(一)労働法の概念(十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳17〕「(一)労働法の概念(十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳18〕「(一)労働法の概念(十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳19〕「(一)労働法の概念(十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳20〕「(一)労働法の概念(二十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳21〕「(一)労働法の概念(二十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳22〕「(一)労働法の概念(二十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳23〕「(一)労働法の概念(二十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳24〕「(一)労働法の概念(二十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳25〕「(一)労働法の概念(二十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳26〕「(一)労働法の概念(二十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳27〕「(一)労働法の概念(二十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳28〕「(一)労働法の概念(二十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳29〕「(一)労働法の概念(二十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳30〕「(一)労働法の概念(三十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳31〕「(一)労働法の概念(三十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳32〕「(一)労働法の概念(三十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳33〕「(一)労働法の概念(三十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳34〕「(一)労働法の概念(三十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳35〕「(一)労働法の概念(三十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳36〕「(一)労働法の概念(三十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳37〕「(一)労働法の概念(三十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳38〕「(一)労働法の概念(三十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳39〕「(一)労働法の概念(三十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳40〕「(一)労働法の概念(四十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳41〕「(一)労働法の概念(四十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳42〕「(一)労働法の概念(四十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳43〕「(一)労働法の概念(四十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳44〕「(一)労働法の概念(四十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳45〕「(一)労働法の概念(四十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳46〕「(一)労働法の概念(四十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳47〕「(一)労働法の概念(四十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳48〕「(一)労働法の概念(四十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳49〕「(一)労働法の概念(四十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳50〕「(一)労働法の概念(五十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳51〕「(一)労働法の概念(五十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳52〕「(一)労働法の概念(五十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳53〕「(一)労働法の概念(五十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳54〕「(一)労働法の概念(五十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳55〕「(一)労働法の概念(五十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳56〕「(一)労働法の概念(五十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳57〕「(一)労働法の概念(五十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳58〕「(一)労働法の概念(五十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳59〕「(一)労働法の概念(五十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳60〕「(一)労働法の概念(六十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳61〕「(一)労働法の概念(六十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳62〕「(一)労働法の概念(六十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳63〕「(一)労働法の概念(六十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳64〕「(一)労働法の概念(六十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳65〕「(一)労働法の概念(六十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳66〕「(一)労働法の概念(六十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳67〕「(一)労働法の概念(六十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳68〕「(一)労働法の概念(六十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳69〕「(一)労働法の概念(六十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳70〕「(一)労働法の概念(七十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳71〕「(一)労働法の概念(七十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳72〕「(一)労働法の概念(七十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳73〕「(一)労働法の概念(七十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳74〕「(一)労働法の概念(七十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳75〕「(一)労働法の概念(七十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳76〕「(一)労働法の概念(七十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳77〕「(一)労働法の概念(七十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳78〕「(一)労働法の概念(七十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳79〕「(一)労働法の概念(七十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳80〕「(一)労働法の概念(八十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳81〕「(一)労働法の概念(八十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳82〕「(一)労働法の概念(八十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳83〕「(一)労働法の概念(八十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳84〕「(一)労働法の概念(八十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳85〕「(一)労働法の概念(八十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳86〕「(一)労働法の概念(八十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳87〕「(一)労働法の概念(八十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳88〕「(一)労働法の概念(八十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳89〕「(一)労働法の概念(八十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳90〕「(一)労働法の概念(九十)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳91〕「(一)労働法の概念(九十一)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳92〕「(一)労働法の概念(九十二)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳93〕「(一)労働法の概念(九十三)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳94〕「(一)労働法の概念(九十四)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳95〕「(一)労働法の概念(九十五)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳96〕「(一)労働法の概念(九十六)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳97〕「(一)労働法の概念(九十七)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳98〕「(一)労働法の概念(九十八)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳99〕「(一)労働法の概念(九十九)」法時一九卷一号</p> <p>〔労働法雑記帳100〕「(一)労働法の概念(百)」法時一九卷一号</p>	<p>4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 6 6 7 7 7 7 8 8</p> <p>〔対談〕時局縦横談——最近の労働問題と憲法草案批判(末弘厳太郎・徳田球一) 社会評論三卷二号</p> <p>〔新憲法草案と基本権〕法律新報七二八号(四)五月号 特集・憲法改正特大号</p> <p>〔労働組合法解説(日本評論社)〕</p> <p>〔教授〕辞任の辞「帝国大学新聞九八四号……(复刻版)」「帝国大学新聞(第一七卷)」「(不二出版、昭和60・2)」</p> <p>〔法律時評〕(一)新高文試験制度、(二)総選挙雑感 法時一八卷五号</p> <p>〔法律時評〕(一)法文の口語化、(二)公聴会、(三)農地制度改革と農民運動 法時一八卷六号</p> <p>〔昭和22・12月判例〕法律新報社 未弘厳太郎・小野清一郎編 一輯一号〜二輯七号</p> <p>〔法律時評〕政府の生産管理対策 法時一八卷七号</p> <p>〔日本再建と労働組合の使命〕労働評論一巻一号……(所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔法律時評〕政府の社会秩序保持に関する声明と労働争議 法時一八卷八号……(所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔法律時評〕(一)更始一新すべし、(二)新憲法と民法改正 法時一八卷九号</p> <p>〔労働時評〕中央公論六一卷九号……(所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔法律時評〕法学教育の革新 法時一八卷一〇号</p> <p>〔労働時評〕「政府は労働問題を軽く見過ぎてはいないか、(二)良き労働協約の普及を図るべし」法時一八卷一〇号……(所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔法律時評〕(一)議員提出の法律案、(二)団体交渉の精神 法時一八卷二二号……(二・所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔労働基準法案の起草に当って〕厚生時報一巻三号</p> <p>〔労働運動の回顧と展望〕朝日新聞……(所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔法律時評〕「(一)最近の労働問題について(財団法人・日本交通公社)」</p> <p>〔法律時評〕(一)議会と弥次、(二)労働組合法第一一条と現行の刑事手続 法時一九卷二号</p> <p>〔法律時評〕立法事務局設置の提唱 法時一九卷三号</p> <p>〔論議〕労働関係調整法解説 法時一九卷三号</p> <p>〔法律時評〕二・一・ストの教えるもの 法時一九卷四号……(所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔労働法雑記帳2〕第一・労働法の概念(二) 法時一九卷四号</p> <p>〔座談会〕新憲法と国政の運用(宮沢俊義・末弘厳太郎・我妻栄・向坂逸郎・鈴木安蔵) 改造二八卷五号</p> <p>〔労働問答〕改造二八卷五号……(所収)「労働組合」(昭和24・1)</p> <p>〔法律時評〕(一)人事調停と人事相談、(二)労働組合と政治運動 法時一九卷五号……(二・所収)「労働組合」(昭和24・1)</p>		

<p>設置)</p> <p>9 1 〔労働省設置〕</p> <p>9 12 〔公職追放令に基づく公務適格判定〕</p> <p>9 30 〔東京帝国大学、東京大学に改称〕</p> <p>10 21 〔国家公務員法〕</p> <p>10 23 中央労働委員会会長</p> <p>12 6 日本法社会学会創立總會（末弘の記念講演中止）</p>	<p>一九四八 （昭和23）</p> <p>2 15 〔司法省廃止、法務庁設置〕</p> <p>3 8 〔安井郁、教職追放〕</p> <p>3 31 中央教職員適格審査会 末弘の教職追放を答申</p> <p>5 1 〔軽犯罪法〕</p>	<p>7 7 〔法律時評〕労働法・裁判所・弁護士 法時一九卷六号……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>7 7 〔法律時評〕「勤労の権利」と完全雇傭 法時一九卷七号……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>7 7 〔座談会〕転機に立つ労働運動（末弘徹太郎＝原虎一＝細谷松太）労働評論二卷七号</p> <p>7 7 〔法律時評〕（一）司法警察の独立を喜ぶ、（二）地方自治の確立と国の行政 法時一九卷八号</p> <p>8 8 〔クロースド・ショップの問題〕改造二八卷八号……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>8 8 〔法律時評〕（一）経済実相報告書、（二）民主政治と暴力 法時一九卷九号</p> <p>8 8 〔論説〕労働基準法序説 法時一九卷九号</p> <p>8 8 11 〔労働組合の在り方〕（一）（四）労働評論二卷八号……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>8 8 23・5 〔労働問答〕（一）（八）労働評論二卷八号……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>9 9 〔法律時評〕（一）家督相続廃止と共同相続、（二）使用者の労働協約違反と労組の態度 法時一九卷一〇号……〔二・所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>9 9 〔座談会〕労働基準法をどう運用する（上）（中）（下）（末弘徹太郎＝吉武恵一＝原虎一＝江口見登留＝野田信夫＝大野木克彦）読売新聞</p> <p>10 10 〔労働関係調整法解説〕（日本評論社）</p> <p>10 10 〔法律時評〕（一）先ず学会を整備すべし、（二）漱石商標問題 法時一九卷一一号</p> <p>10 10 〔労働法のはなし〕（一）洋社、末弘徹太郎述・政治経済研究所編</p> <p>11 11 〔法律時評〕（一）新警察制度、（二）新法令と民衆、（三）法学者と外国文献 法時一九卷一二号</p> <p>11 11 23・3 〔労働協約〕（一）（五）労働評論二卷一……二二号、三卷一……三三……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>12 12 〔法律時評〕山猫問答 法時一九卷一三……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>12 12 〔労働問題の常識〕（厚生省労政局主催講演会）……〔要旨〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p>	<p>1 1 〔法律時評〕（一）学位論文の審査方法について、（二）田中和夫氏「英米法の基礎」法時二〇卷一 〔労働組合の現状と将来〕〔昭和22・11・8政治経済研究所創立一周年記念講演〕政経資料月報二卷一……〔所収〕「労組問答」〔政治経済研究所・政経叢書5、昭和24・1〕</p> <p>2 2 〔労働基準法の根本精神〕労働協会編「労働基準法運営の実際」〔毎日新聞社〕</p> <p>2 2 〔法律時評〕（一）労働問題と民事裁判、（二）財政的裏付けのない文教政策 法時二〇卷一……〔一・所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>3 3 〔法律時評〕（一）選挙公営の急速な実現を望む、（二）仮処分制度の改革を望む 法時二〇卷三 〔座談会〕労組当面の諸問題を語る（末弘徹太郎＝山川均＝光村甚助＝小堀甚二＝加藤閔男＝柳本美雄＝小倉三次）前進八号</p> <p>3 3 8 〔労働基準法解説〕（一）（六・完）法時二〇卷三……八号</p> <p>4 4 〔法律時評〕（一）労働問題雑感——良き組合員たる前に先ず良き教員たれ、（二）労働組合の行政干与、（三）教員組合と教育の自由 法時二〇卷四……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>4 4 〔わが国労働運動の現段階〕労働評論三卷三……四号</p> <p>5 5 4 〔昭和24・12・六法全書〕法文社、末弘徹太郎＝小野清一郎共同責任監修</p> <p>5 5 〔労働運動と労働組合法〕天興社・使用者のための労働問題講座・第一冊</p> <p>5 5 〔法律時評〕（一）近頃教育につき感ずることども、（二）争議問答 法時二〇卷五……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p> <p>6 6 〔法律時評〕（一）労働法改悪問題、（二）仮処分と労働組合の反抗、（三）法令の文体 法時二〇卷六……〔所収〕「労組問答」〔昭和24・1〕</p>
--	--	---	--

<p>7 1 (刑事訴訟法)</p> <p>11 30 (国家公務員法改正)</p> <p>12 13 (横田喜三郎、東大法学部長就任)</p> <p>60歳</p>	<p>7 「法律時評」労働組合の行為の正当性—労働法改悪問題に関連して」法時二〇巻七号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1)</p> <p>8 「労働法規集」(国際出版、末弘徹太郎監修・政治経済研究所編)</p> <p>8 「法律時評」(一) 軽犯罪法と労働運動 (二) 邪道」法時二〇巻八号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1)</p> <p>8 「論説」生産管理雑考」法時二〇巻八号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1)</p> <p>8 「法律時評」公務員法改正問題」法時二〇巻九号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1)</p> <p>9 「法律時評」公務員法改正問題雑感」法時二〇巻一〇号……〔所収〕「労組問答」(昭和24・1)</p> <p>10 「法律時評」(一) 新刑事訴訟法と法律扶助、(二) 著作権と相続税、(三) 労働法第三七条を改正すべし」法時二〇巻一一号</p> <p>11 「法律時評」(一) 法務総裁の人選、(二) 文献の科学的整理」法時二〇巻一二号</p> <p>12 「座談会 日本法学の回顧と展望」(石本雅男、磯田進、鶴飼信成、戒能通孝、川島武宜、辻清明、平野義太郎、穂積重遠、牧野英一、宮沢俊義、我妻栄)〔司会〕末弘徹太郎」法時二〇巻一二号……〔所収〕「日本の法学—回顧と展望」(昭和25・10)</p>
<p>1 1 末弘先生選歴祝賀記念会(於・日本工業倶楽部)</p> <p>2 25 船員中央労働委員会会長退任</p> <p>4 2 東京都地方労働委員会会長退任</p> <p>5 1 (新制東京大学創立)</p> <p>5 31 (労働組合法)</p> <p>6 1 郵政審議会委員(初代会長)</p> <p>7 18</p>	<p>1 「労組問答」(政治経済研究所・政経叢書5)</p> <p>1 「法律時評」(一) 東京裁判、(二) 政治の自主性、(三) 白白に関する最高裁判所の判決」法時二二巻一号</p> <p>2 「法律時評」(一) 政治の自主性を守れ (二) 仮処分の危険性」法時二二巻二号</p> <p>3 「労働問題全書刊行の辞」(労働問題全書) 全巻共通」(労働問題全書) 第四巻(賃金の理論と算式) (高山書院、末弘徹太郎監修・政治経済研究所編)</p> <p>3 「法律時評」(一) 最高裁判所裁判官の国民審査 (二) 人身売買問題、(三) 総選挙の結果と選挙法の改正」法時二二巻二号</p> <p>3 「座談会 家事審判と新民法」(大浜英子、末弘徹太郎、川島武宜、穂積重遠、佐伯俊三、和田嘉子) 法時二二巻二号</p> <p>4 「法律時評」(一) 警察の民主化、(二) 公務員法問答」法時二二巻四号</p> <p>4 「座談会 法学はいかにあるべきか」統一本法学の回顧と展望」(磯田進、鶴飼信成、戒能通孝、川島武宜) 辻清明、仁井田隆、平野義太郎、末弘徹太郎」法時二二巻四号……〔所収〕「日本の法学—回顧と展望」(昭和25・10)</p> <p>5 「法律時評」(一) 比喩、(二) 穂積博士の最高裁判所入りを喜ぶ、(三) 反響」法時二二巻五号</p> <p>5 「わが国労働組合運動の歩み」実務手帳三巻六号</p> <p>5 「労働問題全書・第五巻(産業社会化と労働組合の経営参加)」(高山書院、末弘徹太郎監修・政治経済研究所編)</p> <p>5 「法律時評」労働裁判所と紛争処理手続」法時二二巻六号</p> <p>6 「講演録」民主的な労働組合運動」講演時報五九三号</p> <p>7 「法律時評」(一) 国会の国政調査権と司法権の権威、(二) 誤解」法時二二巻七号</p> <p>7 「改正労働組合法を巡って」エコノミスト二七巻一九号</p> <p>7 「労働問題全書・第三巻(労働争議)」(高山書院、末弘徹太郎監修・政治経済研究所編)</p> <p>8 「続民法雑記帳」(日本評論社)</p> <p>8 「法律時評」(一) 闇に葬り去るべからず、(二) 報道の自由と証言拒否権、(三) 遵法問答」法時二二巻八号</p> <p>8 「改正労働法と労働協約」政経情勢月報七〇八号</p> <p>8 「鼎談」改正労働組合法をめぐる諸問題(末弘徹太郎、中山伊知郎、桂泉) 労働問題研究三四号</p> <p>9 「鼎談」最近の労働運動と日本経済の再建(末弘徹太郎、中山伊知郎、桂泉) 労働問題研究三五号</p>
<p>一九四九 (昭和24)</p>	<p>9 8 8 8 8 7 7 6 6 5 5 5 4 4 4 3 3 3 2 1 1</p>

		一九五〇 (昭和25)		61歳	
10	27	12	30	12	12
立第一回大会 〔日本労働法学会創 立第一回大会〕		直腸癌のため国立東 京第一病院に入院 癌切除手術		日本水泳連盟名誉会 長 アメリカ労働事情祝 祭に出発	
10	9	12	12	11	10
〔法律時評〕労働組合の定義」法時二卷九号 〔座談会〕公共の福祉と基本的人権（鶴飼信成〓熊谷武〓末弘厳太郎〓辻清明〓野村平爾〓山之内一郎）法時二 卷九号 〔法律時評〕（一）民主主義は果して絶望か、（二）住宅政策と法制」法時二二卷一〇号 〔労働問題全書・第二巻（労働協約の理論と実態）（高山書院、末弘厳太郎監修・政治経済研究所編 〔法律時評〕（一）立法の六かき、（二）法令の文体」法時二二卷一〇号 〔新労働組合法の解説（毎日新聞社） 〔社会労働問題辞典（実業之日本社、末弘厳太郎〓藤林敬三〓大河内一男監修） 〔法律時評〕（一）最高裁判所の誤判事件、（二）湯川博士の受賞」法時二二卷一二号		〔法律時評〕新法学問答」法時二二卷一〇号 〔末弘厳太郎渡米第一信〓パ号に乗った浦島」毎日新聞 〔信念貫く、自由の葉。〓これを手引きに労働勉強」毎日新聞 〔時評に代えて〕パトリック号にて」法時二二卷一二号 〔アトランタの労働事情〓組合の入会に宣誓〓日本の〓この労組〓と違う」毎日新聞 〔デトロイトの〓週間〓印象に残る市参事会〓若き組合指導者に胸うたる」毎日新聞 〔時評に代えて〕渡米第二信」法時二二卷一三号 〔昭和28・2一ボケット六法全書（法文社、末弘厳太郎〓小野清一郎〓中川善之助共編） 〔時評にかえて〕渡米第三信〓シカゴにて」法時二二卷四号 〔法律時評〕（一）石炭争議の強制調停、（二）労働法学」法時二二卷五号 〔アメリカより帰って〕中央公論六五卷五号 〔ヒヤリング）アメリカの労働事情」日本評論二五卷五号 〔日本労働組合運動史（日本労働組合運動史刊行会）……（決定版）日本労働組合運動史（決定版）〓中央公論社、 昭和29・6、日本労働組合運動史刊行会編 〔法律学体系・第二部・法学理論篇（日本評論社、末弘厳太郎〓末川博編集委員） 〔法律時評〕（一）脱線した講話論議、（二）労働関係学」法時二二卷六号 〔座談会〕アメリカにおける労働法の現状（末弘厳太郎〓浅井清信〓吾妻光俊〓野村平爾〓三藤正）法時二二卷六号 〔講演〕労働委員会制度に関する所感（アメリカ視察から帰って）労委資料月報（中央労働委員会事務局）二二 号別冊……〔所取〕中央労働委員会事務局編〓労委十年の歩みを語る（中央労働委員会、昭和31・3） 〔対談〕米英見聞あれこれ（末弘厳太郎〓岩永信吉）経営者四卷六号 〔法律時評〕（一）法令の周知方について為政者の考慮を望む、（二）読書余録」法時二二卷七号 〔最近のアメリカ労働事情（一）（二）海上労働三卷七号、八号 〔法律時評〕（一）国会の国政調査権、（二）読後余録（二）」法時二二卷八号 〔労働組合運動の回顧と展望（二）中央公論六五卷八号 〔アメリカより帰って〕東商四一〇号 〔法律時評〕（一）学校と裁判、（二）寧ろ制度を根本的に改革すべし〓公務員給与との改訂問題に関連して、（三） 読書余録（三）」法時二二卷九号 〔アメリカの労働関係雑感）政経調査月報一八号 〔座談会〕法社会学の基本問題（浅井清信〓石本雅男〓磯村哲〓加藤新平〓末弘厳太郎〓細野武男〓宮内裕）〓日 本の法学〓回顧と展望（還暦記念・座談会）（日本評論社）			

<p>11 15 選歴記念論文集(一) 団 結権の研究(日本 評論社) 刊行 12 20 退院</p>	<p>10 10 10 「明日の労働問題—中山伊知郎・末弘蔵太郎対談—(日本製版)……(所収)」「中山伊知郎全集・第一八集(対談・対話集)」、講談社、昭和48・7) 「法律時評」(一) 教員と政治運動、(二) 読書余録(四)「法時二二卷一〇号」 「団体交渉の規模について」石炭評論一巻五号</p>
<p>一九五一 (昭和26)</p>	<p>2 「法律時評」(一) 講和の後に来るもの、(二) 刑事裁判と事実認定、(三) 学校当局の懲戒権と裁判所(四) おこ とわりとお願ひ」法時二三卷二号 「断腸の記—癌の早期発見の必要について」文芸春秋二九卷四号……(所収)「断腸前後—遺稿と日記」(昭和 27・1)</p>
<p>4 末弘労働問題研究所 (のち末弘研究所) 着工</p>	<p>4 4 「法律時評」(一) 木内檢事の問題、(二) 公務員給与のきめ方、(三) 地方選挙と政党」法時二三卷四号 「法学入門」(日本評論新社、昭和27・9)、「末弘著作集(第二版) I 法学入門」(日本評論社、昭和55・1)、川島編 「嘘の効用・上」(昭和63・6)、佐高編「役人学三則」(平成12・2) 「法律時評」(一) 法廷侮辱罪の問題、(二) 議員提出法案、(三) 労働法懇談会」法時二三卷五号 「スポーツ苦言」(一) 法廷幹部逮捕事件—言論の自由と警察権の問題、(二) 交通事故について」法時二三卷六号 「私の小学校時代」日清戦争のころ」婦人之友四五卷六号 「法律時評」裁判所侮辱制裁法案」法時二三卷七号 「労働組合に関する当面の諸問題」中央公論六六卷七号</p>
<p>7 18 政治経済研究所理事 長兼所長退任 7月下旬 癌再発(肝臓・ 胃ほかに転移)</p>	<p>7 7 6 6 5 5 「法律時評」(一) 総評幹部逮捕事件—言論の自由と警察権の問題、(二) 交通事故について」法時二三卷六号 「私の小学校時代」日清戦争のころ」婦人之友四五卷六号 「法律時評」裁判所侮辱制裁法案」法時二三卷七号 「労働組合に関する当面の諸問題」中央公論六六卷七号</p>
<p>8 23 国立東京第一病院に 再入院 9 1 退院し自宅療養 9 9 (サンフランシスコ 条約調印)</p>	<p>9 9 10 「労働法の解釈と法的伝統」労働法(労働法学会) 一号 「論説」労働法学の課題」討論労働法」一号</p>
<p>9 11 東京大学名誉教授・ 正三位勲一等瑞宝章 位一級追陞 中央委会館ホールに て葬儀(神式)、染 井墓地に埋葬</p>	<p>9 11 「労働法の解釈と法的伝統」労働法(労働法学会) 一号 「論説」労働法学の課題」討論労働法」一号</p>
<p>9 15 14 中央委会館ホールに て葬儀(神式)、染 井墓地に埋葬</p>	<p>9 15 14 「労働法の解釈と法的伝統」労働法(労働法学会) 一号 「論説」労働法学の課題」討論労働法」一号</p>

一九五二 (昭和27)		11	「法律時評」法律社会学の目的（遺稿）法時二三卷一号……（所収）「私の法社会学」断腸前後——遺稿と日記（昭和27・1）
		12	「断腸後記」内憂外患 文芸春秋二九卷一号……（所収）「断腸前後」遺稿と日記（昭和27・1）
		11	「私の信条」世界七二号……（所収）「断腸前後」遺稿と日記（昭和27・1）
		11	「労働と体育（遺稿）」中央公論六六卷一、二号（戒能通孝「あとがき」）……（所収）「断腸前後」遺稿と日記（昭和27・1）
		1	「労資問題の将来（末弘徹太郎―藤原銀次郎対談）」（大日本雄弁会講談社）
		1	「法律小辞典」（ダイヤモンド社、末弘徹太郎編、戒能通孝「序」）
		1	「断腸前後」遺稿と日記（一粒社、戒能通孝「序」）
		1	「過激社会運動取締法案批判」（破壊活動防止法）逐条解説と総批判」別冊法律時報（東京日日新聞（大正11・3）再録）
		9	戒能通孝編「末弘著作集1 法学入門」（日本評論新社、戒能通孝「あとがき」）……（一四刷（昭和38・1）復刻版）
		9	末弘徹太郎「法学入門」（平成28・9）
		9	「法律時評にかえて」労働組合立法論」法時二四卷九号（「労働法研究」（大正15・10）「はしがき」転載、戒能通孝「あとがき」）
		11	「音響、煤煙等の災害と法律」法時二四卷一号（法時六卷一〇号（昭和9・10）の再録）
一九五三 (昭和28)		6	「労働組合立法に関する意見書（末弘案）」季刊労働法八号
		9	「論議」無過失損害賠償責任論」法時二五卷九号（過失ナキ不法行為」法協三〇卷七号（明治45・7）改題・再録、戒能通孝「あとがき」）
		10	戒能通孝編「末弘著作集2 民法雑記帳（上巻）」（日本評論新社、戒能通孝「あとがき」）
		11	戒能通孝編「末弘著作集3 民法雑記帳（下巻）」（日本評論新社、戒能通孝「あとがき」）
一九五四 (昭和29)		3	戒能通孝改訂「民法講話・上巻」（岩波書店）
		4	「小知识にとらわれた現代の法律学」法時二六卷四号「特集」法学の新しい研究と教育のために」（「嘘の効用」大正12・7）より転載）
		7	戒能通孝改訂「民法講話・中巻」（岩波書店）
		10	戒能通孝改訂「民法講話・下巻」（岩波書店）
		10	戒能通孝編「末弘著作集6 嘘の効用（評論・随筆Ⅰ）」（日本評論新社、戒能通孝「あとがき」）
		3	戒能通孝編「末弘著作集7 役人学三則（評論・随筆Ⅱ）」（日本評論新社、戒能通孝「末弘先生と現在」）
一九五五 (昭和30)		3	
一九五六 (昭和31)		3	「労働委員会制度に関する所感」昭和25年5月19日講演」中央労働委員会事務局編「労委十年の歩みを語る」（中央労働委員会）「第八章」（労委資料月報）二号（昭和25・6）再録）
一九五八 (昭和33)		2	末弘徹太郎「戒能通孝「暴力立法の暴力性」法時三〇卷二号（「法治と暴力」改造）三卷六号（昭和6・6）改題・再録）

一九六七 (昭和42)	5 4 午後1時12分 妻・冬子、死去	
一九七三 (昭和48)	4 8 (我妻栄、死去)	
一九七四 (昭和49)	3 1 (田中耕太郎、死去)	8 「旧労働組合法の制定—労働組合立法に関する意見書(末弘徹太郎、昭和20・10・31)——資料・労働基本権制限・剝奪立法の成立過程(アメリカ初期対日労働政策と旧労働組合法・旧労働関係調整法の成立)」。労働法律旬報九六三号
一九七五 (昭和50)	3 22 (戒能通孝、死去)	
一九七六 (昭和51)		11 「本研究所の意図するもの」政経研究二二号(政治経済研究所創立三〇周年記念号、政経資料月報一卷一号(昭和22・1)の再録)
一九七七 (昭和52)		7 近藤康男編集「明治大正農政経済名著集(一六)末弘徹太郎「農村法律問題」」。農山漁村文化協会、渡辺洋三「解題」
一九八〇 (昭和55)	2 8 (平野義太郎、死去)	1 戒能通孝編「末弘著作集(第二版) I 法学入門」(日本評論社、戒能通孝「あとがき」) 2 戒能通孝編「末弘著作集(第二版) II 民法雑記帳(上)」(日本評論社、戒能通孝「あとがき」) 3 戒能通孝編「末弘著作集(第二版) III 民法雑記帳(下)」(日本評論社、戒能通孝「あとがき」) 4 戒能通孝編「末弘著作集(第二版) IV 嘘の効用」(日本評論社、戒能通孝「あとがき」) 5 戒能通孝編「末弘著作集(第二版) V 役人学三則」(日本評論社、戒能通孝「末弘先生と現在」) 5 「資料」末弘徹太郎「経営管理の合法性と其限界(上)(下)」(竹前栄治「GHQ労働課の人と政策」4「タコ部屋」) 5 解放と労働パージョー・L・ベッカー准尉にきく」日本労働協会雑誌二二巻五号……(初出)毎日新聞(昭和21・2)
一九八一 (昭和56)	10 22 四男・重夫、没後三十年祭追悼会を開催(於・国際文化会館)	12 「立法学に関する多少の考察—労働組合法に関連して」『民事立法学』法時五三巻一四号臨時増刊(法時六四巻一号(昭和21・1)の再録)
一九八二 (昭和57)		12 向山寛夫「(資料)末弘徹太郎教授(述)「労働法」(昭和七年度東京帝国大学講義)」。国学院法学二〇巻三号
一九八四 (昭和59)		9 向山寛夫「(資料)末弘徹太郎「労働法序説」」。国学院法学二二巻二号
一九八八 (昭和63)		6 川島武宜編「嘘の効用(上)」(富山房百科文庫40、川島武宜「解題」)

一九九二 （平成4）	521 〔川島武宜、死去〕		
一九九四 （平成6）		6	川島武宜編「嘘の効用（下）」（富山房百科文庫45）
一九九七 （平成9）		3	五十嵐清「末弘徹太郎の最後の民法講義」札幌法学八巻二号
二〇〇〇 （平成12）		2	佐高信編「役人学三則」（岩波現代文庫、佐高信「『役人病』に対する解毒剤」）
二〇〇七 （平成19）		3	「末弘徹太郎講義『法律社会学』（一九四九年）六本佳平∥吉田勇編『末弘徹太郎と日本の法社会学』（東京大学出版会）
二〇〇八 （平成20）		6 5	「嘘の効用」（慧文社、大正一二年版復刊版） 「法窓閑話」（慧文社、大正一四年版復刊版）
二〇一一 （平成24）		6	「オーディオブック」末弘徹太郎法学随筆選・第一巻（「新たに法学部へ入学された諸君へ」）「法学とは何か——特に入門者のために」「嘘の効用」「小知恵にとらわれた現代法律学」「役人の頭」「役人学三則」〕（響林社・しみじみ朗読文庫）
二〇一三 （平成25）		12	「オーディオブック」末弘徹太郎法学随筆選①・②（①「新たに法学部へ入学された諸君へ」）「法学とは何か——特に入門者のために」「役人の頭」「役人学三則」・②「嘘の効用」「小知恵にとらわれた現代法律学」〕（響林社・しみじみ朗読文庫）
二〇一六 （平成28）		2	末弘徹太郎「法学入門（末弘著作集Ⅰ）」（日本評論社）……戒能編「末弘著作集Ⅰ法学入門」（昭和27・9）第一四刷（昭和38・1）の復刻
二〇一八 （平成30）	11 〔日本評論社創業一〇〇年〕	2 2 2	末弘徹太郎「新装版・法学入門」（日本評論社創業一〇〇年記念出版）……戒能編「末弘著作集（第二版）Ⅰ法学入門」（昭和55・1）の改版 末弘徹太郎「新装版・嘘の効用」（日本評論社創業一〇〇年記念出版）……戒能編「末弘著作集（第二版）Ⅳ嘘の効用」（昭和55・5）の改版 日本評論社編集部（編）「末弘徹太郎 法律時観・時評・法律時評集（上）（下）」

〈表2〉 末弘厳太郎研究論文目録 (①民法、②法社会学、③労働法、④その他)

頁	年	題名
一九五一 (昭和26)		
③	9	吉阪俊蔵「末弘さんを憶う」日労研資料四卷三八号
③	9	鮎沢殿「末弘先生と講和後の日本」日労研資料四卷三八号
③	9	吉阪俊蔵「末弘さんの手紙」日労研資料四卷三九号
③	9	「末弘厳太郎博士追悼特集・末弘先生を偲ぶ」中央労働時報一八二号……「労働委員会における末弘博士の足跡」、「弔辞」(中山伊知郎・武藤武雄・三鬼隆、島上善五郎「末弘先生を偲ぶ」、細川潤一郎「末弘先生の思い出」、鮎沢殿「末弘先生を偲ぶ」、岡田完二郎「末弘さんを憶う」、桂桑「ひとこと」、藤林敏三「末弘先生を偲ぶ」、熊沢貞夫「末弘先生を偲ぶ」、川端下一二三「末弘先生を偲ぶ」、藤田進「末弘先生を偲ぶ」、中島徹三「人間」末弘の横顔、未延二二三「末弘先生を偲んで」、熊本虎三「末弘先生を偲ぶ」、佐藤正義「末弘先生を偲ぶ」、吉田資治「末弘氏の思い出」、中山伊知郎「実事求是」
①	10	我妻栄「弔辞」法時二三卷一〇号……〔所収〕「末弘厳太郎先生告別式弔詞」(民法と五十年・その2 随想拾遺(上)) (有斐閣、昭和51・7)
④	10	南原繁「末弘博士を弔す」法時二三卷一〇号……〔所収〕「末弘厳太郎博士」告別式における弔辞「文化と国家・下」(東京大学出版会・UP選書14、昭和43・6)、〔南原繁著作集・第七卷 文化と国家〕(岩波書店、昭和48・2)、〔新装版〕「文化と国家」(東京大学出版会、平成19・3)
③	10	中山伊知郎「末弘厳太郎先生」法時二三卷一〇号
②	10	石井照久「末弘厳太郎先生を偲ぶ」労働時報四卷一〇号
③	10	平野義太郎「社会科学者・末弘厳太郎」法時二三卷一〇号
②	11	「末弘博士と日本の法字」法時二三卷一〇号……末川博「序説」、我妻栄「民法学における想出と回顧」、潮見俊隆「民法文献解題」、野村平爾「労働法学における遺産」、川島武宜「法学理論——社会学的法律学と法社会学」
③	11	「労働運動への功績」法時二三卷一〇号……鮎沢殿「末弘先生と労働組合運動」、吉田資治「末弘厳太郎氏を憶う」、矢加部勝美「中労委の末弘氏」
②	11	「足跡をかえりみて——先輩・同僚・後輩の見た末弘博士の人間像」法時二三卷一〇号……大内兵衛「彼は不世出の才であった」、宮沢俊義「科学的な見方を教えられて」、福島正夫「噴泉」、山中康雄「偉大な未完成」、大住達雄「先生と私」、小野清一郎「博士の足跡」、杉之原舜一「弟子になつてはいけない」、鶴飼信成「最後まで深い感銘」、松岡三郎「一身専属の特技」、仁井田陞「末弘先生の不連続線」、藤森鈎「理論と実践の統一」、後藤清「実行力と幅の広さ」、高柳賢三「おもい出」、石本雅男「広い視野の先達」、中川善之助「債権各論」について
④	11	岩井芳次郎「末弘先生の御病状」法時二三卷一〇号
①	11	鮎沢殿「川島武宜」平野義太郎「末弘冬子」三藤正「我妻栄」渡部一高「戒能通孝」(座談会)人間・末弘厳太郎を語る」法時二三卷一〇号
④	11	〔法律時報〕編集部「末弘博士著書論文目録」法時二三卷一〇号
③	11	川田寿「末弘先生の追憶」労働教育二卷一〇号
③	11	海野晋吉「末弘さんの思い出」官業労働五卷一〇号
④	11	田畑政治「末弘先生の死を悼む」水泳(日本水泳連盟機関雑誌)九二二号
④	11	松沢一鶴「日本水泳連盟名誉会長・末弘厳太郎先生略歴」水泳(日本水泳連盟機関雑誌)九二二号
③	11	吾妻光俊「末弘先生の学風(末弘先生を悼む)」討論労働法二号「末弘会長追悼号」
③	12	細谷松太「末弘先生の思い出(末弘先生を悼む)」討論労働法二号「末弘会長追悼号」

<p>一九五二 (昭和27)</p>	<p>④ ③ ③</p>	<p>12 12 12</p>	<p>賀来才二郎「教えを受けた五年間（末弘先生を悼む）」討論労働法二号「末弘会長追悼号」 馬淵威雄「中労委の末弘先生（末弘先生を悼む）」討論労働法二号「末弘会長追悼号」 *（遺稿）労働と体育」中央公論六六卷二二号</p>
<p>一九五三 (昭和28)</p>	<p>② ① ④ ③ ②</p>	<p>9 9 9 9 9</p>	<p>石井照久「末弘先生の思い出（末弘徹太郎博士の三回忌を迎えて）」討論労働法二〇号 三藤正二「仕事があった」（末弘徹太郎博士の三回忌を迎えて）」討論労働法二〇号 川田寿「労働関係と末弘先生（末弘徹太郎博士の三回忌を迎えて）」討論労働法二〇号 馬淵威雄「末弘先生の横顔（末弘徹太郎博士の三回忌を迎えて）」討論労働法二〇号 末弘徹太郎「無過失損害賠償責任論」法時二五卷九号「特集・国家賠償法」（過失ナキ不法行為）法協三〇巻七号（明治45・7）改題・再録……戒能通孝「あとがき」</p>
<p>一九五四 (昭和29)</p>	<p>④ ④ ④ ④ ②</p>	<p>1 1 1 1 1</p>	<p>平野義太郎「野村平爾」江家義男「鶴飼信成」辻清明「戒能通孝」座談会 日本法学の検討 法律時報二五周年記念号（二六卷一 号） 磯村哲「富山康吉」潮見俊隆「藤田若雄」下山瑛治「宮内裕」長谷川正安「座談会」これからの法律学と法学者」法律時報二五周年紀 念号（二六卷一 号） 牧野英一「我妻栄」宮沢俊義「鶴飼信成」戒能通孝」彦坂竹男「桑江常善」座談会 法律時報の二十五年」法律時報二五周年記念号 （二六卷一 号） 川島武宜「米栖三郎」加藤一郎「潮見俊隆」座談会 法解釈学の「科学性」（特集・法学の新しい研究と教育のために）法時二六卷四号 末弘徹太郎「小知恵にとらわれた現代の法律学」法時二六卷四号「特集・法学の新しい研究と教育のために」（嘘の効用）（大正12・7 より転載）</p>
<p>一九五五 (昭和30)</p>	<p>① ② ③</p>	<p>3</p>	<p>戒能通孝「末弘先生と現在」戒能通孝編「末弘著作集7 役人学三則（評論・随筆II）」（日本評論新社）</p>
<p>一九五三 (昭和28)</p>	<p>② ① ④ ③ ②</p>	<p>12 11 9 9 9</p>	<p>福島正夫「中国農村慣行調査について」図書四一 有泉亨「立法学に関する二・三の考察」末弘先生の諸説に即して」法時二四卷九号 孫田秀春「末弘さんのこと」官公労働六卷九号 末弘重夫「父徹太郎を語る」討論労働法一〇号……（所収）「明治大正農政経済名著集・第一六巻」『月報』（昭和52・7） 末弘徹太郎「音響、煤煙等の災害と法律」法時二四卷一〇号（昭和9・10）の再録 中国農村慣行調査刊行会編「中国農村慣行調査・第一巻」第六卷（岩波書店）</p>
<p>一九五二 (昭和27)</p>	<p>③ ③ ① ③</p>	<p>1 1 1</p>	<p>有泉亨「末弘先生」季刊労働法一卷二号 川田寿「末弘先生と都労委」季刊労働法一卷二号 末弘徹太郎「藤原銀次郎対談「労資問題の将来」（大日本雄弁会講談社）……中山伊知郎「対談記録所感——序文に代えて」、藤原銀次郎 「あとがき」 田村徳治「生きた法律」及び法律社会学の吟味」法と政治七卷二号 磯田進「平野義太郎」戒能通孝」仁井田陞「川島武宜」福島正夫「座談会」穂積法学・末弘法学の分析と批判」法社会学二号 「破壊活動防止法」逐条解説と総批判」別冊法律時報（東京日日新聞（大正11・3）再録） 法時二四卷九号「特集・労働法」……末弘徹太郎「法律時評にかえて」労働組合立法論（大正15・10）「はしがき」転載、戒能通孝「あ とがき」</p>

一九五六 (昭和31)	③	3	中央労働委員会事務局編「労委十年の歩みを語る」(中央労働委員会)
一九五七 (昭和32)	②	2	野村(平爾)研究室「末弘博士の労働法理論——戦後労働法理論のスタート・ライン(特集・戦後労働法学の展開)」法時二八巻九号 福島正夫「中国農村慣行調査と法社会学——末弘厳太郎博士の法社会学理論を中心として」(中国農村慣行研究会、プリント版)…… (所収)「福島正夫著作集・第六巻(比較法)」(勤草書房 平成7・8)
一九五八 (昭和33)	④②②	2 3 9 10	末弘厳太郎「戒能通孝」(暴力立法の暴力性)法時三〇巻二号(前半部分は末弘厳太郎「法治と暴力」改造一三巻六号(昭和6・6)再録) 福島正夫「岡松参太郎博士の台湾慣行調査と華北農村慣行調査における末弘厳太郎博士」(東洋文化二五号) 美濃部民子「鳩山千代子」末弘冬子「我妻栄」宮沢俊義(座談会)美濃部 鳩山・末弘三先生を語る」(書齋の窓五九号、六〇号)
一九五九 (昭和34)	②③	1	孫田秀春「労働法の開拓者たち——労働法四十年の思い出(実業之日本社)
一九六〇 (昭和35)	①②③	6 9 12	昭和36・9 磯村哲「市民法学——社会学の展開と構造(上)(中)(下) 鶴飼信成」福島正夫「川島武宜」辻清明責任編集「講座日本近代法・発達史・第七巻・第九卷・第一〇巻」(勤草書房)……(所収)「社会学の展開と構造(昭和50・3)」 利谷信義「家団論に関する覚書——成立の契機と性格」(社会科学研究一 一巻三号)
一九六一 (昭和36)	①④	1	片岡昇「日本の法学を創った人々6(9) 末弘厳太郎(労働法)」法七五三三 戒能通孝「日本の法学を創った人々7(10)・終 末弘厳太郎(民法・法社会学)」法七五五号……(所収)「戒能通孝著作集VII」(日本評論社 昭和52・3)
一九六二 (昭和37)	④	3	横田正俊「末弘厳太郎先生と私」ジュリ二七号
一九六三 (昭和38)	②③	2 3	川島武宜「末弘厳太郎先生の法学理論」法七七一号……(再録)法七二五二号(昭和51・4)。(所収)「川島武宜著作集・第一巻(法社会学I生ける法と国家法)」(岩波書店、昭和57・1) 横田正俊「末弘厳太郎先生を語る——法学教室(第一期) 三号」
一九六四 (昭和39)	①②	4 7 9	船員中央労働委員会事務局「各船員地方労働委員会事務局共編「船員労働委員会十五年史」(船員中央労働委員会事務局) 福島正夫「川島武宜編「穂積・末弘両先生とセツルメント」(東京大学セツルメント法律相談部「第一部・穂積・末弘両先生を偲ぶ会」から(平野義太郎氏・馬島側氏・石島治志氏・林暲氏・東利久氏・森恭三氏・扇谷正造氏・大森俊雄氏)」 同「第二部・穂積・末弘両先生の思い出」我妻栄「セツルメントと穂積・末弘両先生」、関鑑子「明るく楽しい思い出——本所のセツルメント」、安田幹太「無題」、三谷雄一郎「穂積先生のために——セツルメントのおもいで」、中司文夫「末弘先生の想出」、村田為五郎「思い出」、新国康彦「無題」、泉広「末弘先生を憶う」、彦坂竹男「レジ三年」……(再録)福島「石田」清水編「回想の東京帝大セツルメント」(昭和59・6) 戒能通孝「平凡なセツラーの立場から」、川島武宜「穂積先生と末弘先生の思出」、石田哲「セツルの思出」、佐瀬六郎「三十年の歳月を隔てて」、奥村義雄「穂積先生の学問とセツルメント」、吉田秀夫「昭和八年より十年ごろのセツル」、市川猛雄「セツル法学士」 同「第三部・穂積・末弘両先生と社会事業」福島正夫「穂積・末弘両博士とセツルメント事業」……(所収)「福島正夫著作集・第七巻(法と歴史と社会とI)」(勤草書房、松本征二「穂積先生と社会福祉事業」、山本秋「東大セツルメントと消費組合運動——末弘先生とセツルメント・ヒューマニズム」)
	②	4	延藤富三「家団の法律行為に関する一考」大阪学院大学論叢二号 潮見俊隆「長谷川正安」宮内裕「天野和夫」富山康吉「片岡昇」渡辺洋三「乾昭三」(座談会)戦後の法学(一) 民主主義法学の回顧と

末弘徹太郎研究資料総覧 (七戸)

一九六五 (昭和40)	③	12	展望「法ゼ一〇〇号」、「座談会」戦後の法学(二)判例研究—経験法学の問題」法学ゼ一〇一号、「座談会」戦後の法学(三)現代法と現代法学」……〔所収〕潮見利隆編「戦後の法学」(昭和43・6)……〔新装版〕潮見利隆編「戦後の法学」(日本評論社、昭和52・10)
一九六八 (昭和43)	①④ ③② ③	6 6 5	庭山慶一郎「末弘先生の講義」ジュリ三九六号 久保敬治「学説一〇〇年史・労働法」ジュリ四〇〇号 潮見利隆編「戦後の法学」(日本評論社)……〔新装版〕潮見利隆編「戦後の法学」(日本評論社、昭和52・10)
一九六九 (昭和44)	① ①② ③	10 4	平野義太郎「特別企画・日本の法学者—人と学問」末弘徹太郎先生の人と学問「法ゼ一五七号」 舟橋諤一「物権と債権との区別—わが国における学説、特に末弘理論の発展について」民事研修一五〇号
一九七〇 (昭和45)	①③③	11 7 4	孫田秀春「労働法の起点—労働法の開拓者たち」(高文堂出版社) 北村久寿雄「末弘先生のこと」公労委季報四号 末川博「我妻栄」(対談)日本の法学者を語る(第二回)「法ゼ一七七号」
一九七一 (昭和46)	③①	7 6	安田幹太「無畏説考—末弘先生と無畏説・未成年者の無能力・保険受取人の失踪宣告請求権—八幡大学社会文化研究所紀要一号」 安田辰馬「末弘委員長にお仕えして」公労委季報八号
一九七二 (昭和47)	①②②②①	5 6 6 6 5	清水英夫「書評」末弘徹太郎著「民法雑記帳」現代法ジャーナル一号 利谷信義「戦前の「法社会学」川島武宜編「法社会学講座・第二卷(法社会学の現状)」(岩波書店) 森島昭夫「終戦後の法社会学」川島武宜編「法社会学講座・第二卷(法社会学の現状)」(岩波書店) 平野龍一「潮見俊隆」渡辺洋三「川島武宜」六本佳平「(シンポジウム)日本法社会学の現状と展望」川島武宜編「法社会学講座・第二卷(法社会学の現状)」(岩波書店) 六本佳平「戦後法社会学における「生ける法」理論」石井紫郎編「日本近代法史講義」(日本評論新社)
一九七三 (昭和48)	②②	4 6 8	石井紫郎「嘘の効用」と大岡裁き」図書(岩波書店)二八四号 平野義太郎「舟橋諤—」枝吉三「為成養之助」福島正夫「磯野誠一」座談会「柳島セツルメント—大正末期の大学拡張運動と穂積・末弘両博士の法学(一)」(三・完)「法時四五巻七号、八号、九号」 鈴木一郎「末弘博士の慣習法理論—不連続線理論を中心に」東北学院大学論集・法律学六号 鈴木一郎「中国農村慣行調査」東北学院大学論集・法律学六号
一九七四 (昭和49)	①②③	6	潮見俊隆「末弘徹太郎」潮見俊隆「利谷信義編「日本の法学者」(日本評論社・法学セミナー増刊)
一九七五 (昭和50)	② ② ②	8 8 8	磯村哲「社会科学の展開と構造」(日本評論社)……〔初出〕「市民法学—社会法学の展開と構造(一)」「(三)」(昭和34・6)昭和36・9 利谷信義「穂積・末弘先生と戒能先生」(特集・戒能博士の学問と業績)「法時四七巻九号」 益田福太郎「農家相続と家団論の意義」亜細亜法学一〇巻一号

一九七六 (昭和51)	③ ②	10 4	川島武宜「末弘厳太郎先生の法学理論(法学セミナー創刊二〇周年記念名作論文選)」法セ二五二二号(法セ七一〇)の再録 中央労働委員会事務局編「労働委員会三十年」(全国労働委員会連絡協議会)
一九七七 (昭和52)	④	7	近藤康男編集「明治大正農政経済名著集(二六)末弘厳太郎「農村法律問題」(農山漁村文化協会)「解題」(渡辺洋三)
一九七八 (昭和53)	① ② ③	12	法律時報創刊五〇周年記念臨時増刊「昭和の法と法学」法時五〇巻一三号「第一部・昭和の法と法学」……甲斐道太郎「末弘法学論 方法論と「物権法」を中心に」、原田純孝「農地・農業法制と法学——戦時体制への移行期を中心に」、島田信義「ファシズム体制下の労働法学」 同「第三部・著者と編集者が語る法律時報の五〇年」……小野清一郎「人は永遠に危機的存在である」、平野義太郎「末弘博士の学風にふれつつ」、福島正夫「創刊号をみながらの思い出」、田中二郎「法律時報創刊の頃」、風早八十二「嵐に抗して船出した「時報」の航跡」、川島武宜「法律ジャーナリズムの元祖」、山本秋「法律時報創刊前後のこと」、渡辺潔「戦中の法律時報と戒能先生」、岩田元彦「戦中・戦後の法律時報」、清水英夫「戦後の法律時報と法学」 同「第四部・昭和法・法学年表」戦前・吉井蒼生夫、戦後・久保田譲
一九八〇 (昭和55)	④ ② ②	10 6 3	小口彦太「中国法研究における末弘博士の今日的意義」早稲田法学五五巻二号 小口彦太「中国農村慣行調査」をとおしてみた華北農民の規範意識像」比較法学一四巻二号 潮見利隆「書評」末弘厳太郎著「戒能通考編」「末弘著作集I~V」(第二版、昭和55)法セ三〇八号
一九八一 (昭和56)	③ ④ ① ③ ④	12 11 10	向山寛夫「末弘厳太郎先生追悼の会——「労働法のはなし」のことなども」中央経済三〇巻四号 後藤清「学界万華鏡・四」末弘厳太郎先生「朝日新聞大阪本社……」(所収)「労働法乃周辺」(法令総合出版、昭和59・9) 「民事立法学」法時五三巻一四号臨時増刊……加藤一郎「立法学のあり方」、椿寿夫「民事立法学への志向と提言」、末弘厳太郎「立法学に関する多少の考察」労働組合立法に関連して(「再録」、「総論」……椿寿夫「法解釈学と民事立法学」、甲斐道太郎「法社会学と民事立法学」、五十嵐清「比較法学と民事立法学」、水本浩「民事政策と民事立法学」、平井宜雄「実用法学・解釈法学・立法学・法政策学——末弘法学体系の現代的意義」、伊藤進一「判例と民事立法」——その序論的考察、石田喜久夫「市民運動と民事立法」)
一九八二 (昭和57)	③	12	向山寛夫「資料」末弘厳太郎教授(述)「労働法」(昭和七年度東京帝国大学講義)「国学院法学二」巻三号
一九八四 (昭和59)	② ②	6 6	福島正夫「石田哲一」清水誠編「回想の東京帝大セツルメント」(日本評論社)「第二部・回想」歴代主事「石島治志「セツルメント懐古」、東利久「東大セツルメントの生い立ち」、新国康雄「セツルメントの思い出」、松本征二「思い出すまに」、能仁充乎「レヂアント・主事時代の思い出」、佐瀬六郎「回想記」、大森俊彦「最後の主事就任から東大セツルメント解散まで」 同「第二部・回想」セツラーその他の人びと、三谷雄一郎「セツル児童部の子供達と共に」、米村正一「セツル群像記」、曾田長宗「久寿美さんの話」、村田為五郎「児童部と関鑑子さん」、磯村英一「セツルメントと私」、滋賀秀俊「わが診療系譜」、為成養之助「半世紀前の法律相談部の思い出」、庄司光「思い出とお詫び」、山本秋「セツル消費組合部の思い出」、彦坂竹男「レジ三年」(福島「川島編」穂積・末弘両先生とセツルメント、昭和38・4)再録、古川文吉「セツルメントの思い出」、森恭三「追憶」、中村花子「遠い思い出と今」、福島正夫「東大セツルメントと私」、熊谷恒一「消費組合部レヂアントの三年間」、大西信治「あの頃の思い出」、原きみ「柳島元町」、森川政喜「セツルメントと私」、熊谷恒一「消費組合部レヂアントの三年間」、大西信治「あの頃の思い出」、松葉重庸「こどもと共に」、尾崎雄一郎「セツルメントの追憶」、平田六郎「東大セツルメント時代の思い出」、松田解子「謝念」、

一九八五 (昭和60)	②	11	星野英一「巻頭言」『生きた法』と『実用法律雑誌』——『法律時報』創刊七〇〇号を機縁にして』ジュリ八四七号
一九八六 (昭和61)	④④	6 1	横山大三「私の中の末弘先生」判時一一七一号 五十嵐一「嘘の効用——裁判の詩学と『詩学』の裁判（特集・フィクションとしての法）」現代思想一四卷六号
一九八八 (昭和63)	②④②	10 10 8	向山寛夫「新刊紹介」末弘徹太郎著・川島武宜編「嘘の効用」上「自由と正義三九卷八号 清水誠「法律時評」日本の法学の来し方行く末」法時六〇卷一一号 渡辺治「時代の概観と革新的法律学の課題・総論（特集・法律時報六〇年と法学の課題■法律時報の六〇年と革新的法律学）」法時六〇卷一一号 石田眞「末弘法学論——戦前・戦中における末弘徹太郎の軌跡（特集・法律時報六〇年と法学の課題■法律時報の六〇年と革新的法律学）」法時六〇卷一一号 戒能通厚「石田眞と和田進（研究座談会）『法律時報』の六〇年と革新的法律学——末弘・戒能・長谷川・渡辺法学と私たち（特集・法律時報六〇年と法学の課題）」法時六〇卷一一号 水野紀子「末弘徹太郎先生略年表・主要著作目録（特集・法律時報六〇年と法学の課題●資料編）」法時六〇卷一一号
一九八九 (平成1)	③	3	石田眞「末弘労働法ノート——『形成期』末弘労働法学の一断面」早稲田法学六四号
一九九〇 (平成2)	②②	3 3	磯野誠一「SNAP SHOTあの時の頃」東大セツルメント法律相談部」ジュリ九五一号 石田眞「戦前・日本における「アジア法」研究の一断面——華北農村慣行調査を中心として」名古屋大学法政論集一三三三号
一九九二 (平成4)	③	3	蓼沼謙一「『学匠学林』戦後労働法学の思い出3——末弘中労委」季刊労働法一六二二号……『所収』『戦後労働法学の思い出』（労働開発研究会）平成22・6）
一九九三 (平成5)	④	12	福島正夫「穂積・末弘両先生の思出」『福島正夫著作集・第七卷（法と歴史と社会とI）』（勁草書房）
一九九四 (平成6)	②	8	向山寛夫「書評・書籍紹介」末弘徹太郎著・川島武宜編「嘘の効用」下「自由と正義四五卷八号
一九九五 (平成7)	①	3	後藤巻則「民法学の方法——末弘民法学までの素描」独協法学四〇号……『所収』水本平井編『日本民法学史と各論』（信山社出版、平成9・4）

一九九六 (平成8)	③④	10 8	高田保「随想史観1」末弘厳太郎「法窓雜記」——夏の夜の報告」経済往来四八巻八号 中央労働委員会事務局編「労働委員会五十年の歩み」(全国労働委員会連絡協議会)
一九九七 (平成9)	①①①	4 3 2	水本浩「民法学の転回と新展開——大正一〇年、昭和二〇年の民法学史」水本浩、平井一雄編「日本民法学史・通史」(信山社出版) 五十嵐清「末弘厳太郎の最後の民法講義」札幌法学八巻二二号 後藤巻則「民法学の方法——末弘民法学までの素描」水本浩、平井一雄編「日本民法学史・各論」(信山社出版)
一九九八 (平成10)	②②②②③①③②②	1 1 2 4 2 1	内山雅生「二〇世紀における日本の中国研究と中国認識」(三)「華北農村慣行調査」と中国社会認識」中国研究月報五九九号 白羽祐三「日本法理研究会」の分析——法と道徳の一体化」(中央大学出版部・日本比較法研究所叢書39) 山口浩一「特集・古典を読む」日本編「労働法」末弘厳太郎「労働法研究」日本労働研究雑誌四〇巻四号 高島平蔵「末弘民法学とリアリズム」比較法政研究二二号 戒能通孝「末弘法学の現代的意義——法社会学を中心として」(特集・法律時報七〇年と末弘法学・民主主義法学Ⅰ末弘法学と二世紀法学への展望)「法時七〇巻二二号」 石田眞「末弘法学の軌跡と特質」(特集・法律時報七〇年と末弘法学・民主主義法学Ⅰ末弘法学と二世紀法学への展望)「法時七〇巻二二号」 吉田克己「末弘民法学とその継承・発展」(特集・法律時報七〇年と末弘法学・民主主義法学Ⅰ末弘法学と二世紀法学への展望)「法時七〇巻二二号」
一九九九 (平成11)	②	3	林研三「生ける法」論の展開——末弘法学・川島法社会学を中心として」札幌法学一〇巻一―二二号
二〇〇一 (平成13)	④	1	清水誠「続・市民法の目20」末弘厳太郎著作集刊行の夢」法時七三巻一号
二〇〇二 (平成14)	①	1	吉田克己「シンポジウム・近代民法学の思考様式——比較の観点から」(対照報告)社会変動期の日本民法学——鳩山秀夫と末弘厳太郎——北大法学論集五二巻五号
二〇〇五 (平成17)	②	12	石田眞「戦前の慣行調査が「法整備支援」に問いかけるもの——台湾旧慣調査・満州旧慣調査・華北農村慣行調査——比較法研究の新段階——法の継受と移植の理論」(早稲田大学比較法研究所叢書30)
	②②②	9 7	馬場健一「科学的」調査と研究者の政治責任——華北農村慣行調査とその評価をめぐって」法社会学五七号
	①	1	石田眞「植民地支配と日本の法社会学——華北農村慣行調査における末弘厳太郎の場合」比較法学三六巻一号
	①②①	7 6 4	星野英一「日本民法学者のプロファイル1」連載の始めに」法教一七五号 宮田親平「だが風を見たでしょう——ポランティアの原点・東大セツルメント物語」(文芸春秋) 和仁陽「日本民法学者のプロファイル4」末弘厳太郎——日本民法学史の自作自演者」法教一七八号

二〇〇七 (平成19)	②①②②	3 3 3 3	吉田勇「末弘講義『法律社会学』の成立経緯と講義内容」六本佳平・吉田勇編「末弘厳太郎と日本の法社会学」（東京大学出版会） 石田眞「末弘法学の軌跡」六本佳平・吉田勇編「末弘厳太郎と日本の法社会学」（東京大学出版会） 瀬川信久「末弘厳太郎の民法解釈と法理論」六本佳平・吉田勇編「末弘厳太郎と日本の法社会学」（東京大学出版会） 六本佳平「末弘法社会学の視座——戦後法社会学との対比」六本佳平・吉田勇編「末弘厳太郎と日本の法社会学」（東京大学出版会）
二〇一〇 (平成22)	①②	1	小林智「末弘厳太郎の判例研究方法論とその限界」テキスト布置の解釈学的研究と教育（名古屋大）四巻二号
二〇一一 (平成23)	③	12	中窪裕也「戦前の労働組合法案に関する資料覚書」渡辺章先生古稀記念「労働法が目指すべきもの」（信山社出版）
二〇一二 (平成24)	①②②	5 5	高橋眞「『市民法学』の意義と民法典」池田恒男・高橋眞編「現代市民法学と民法典」（日本評論社） 杉本好央「末弘厳太郎の判例論——二〇世紀初頭のドイツにおける議論と対比して」池田恒男・高橋眞編「現代市民法学と民法典」（日本評論社）
二〇一三 (平成25)	④	3	山口みなみ「広津和郎の問題意識——『主題歌は広告文か——末弘博士の「著作権問答」を巡って（馬込文士村資産化事業）研究報告——三年間の活動を終えて」実践女子短期大学紀要三四号
二〇一四 (平成26)	③	3	石井保雄「労働と法・私の論点」日本労働法学会始め探索の顛末——末弘厳太郎「労働法制」開講をめぐって」労働法律旬報一八二二号
二〇一五 (平成27)	③	3	石井保雄「労働と法・私の論点」日本労働法学会始め探索・余聞——末弘厳太郎「労働法制」開講をめぐって・再論」労働法律旬報一八三五号 石井保雄「わが国労働法学の生誕——戦前・戦後期の末弘厳太郎」独協法学九六号 笹倉秀夫「末弘厳太郎「嘘の効用」考——併せて来栖三郎「法とフィクション」考」早稲田法学九〇巻二号 小沢奈々「大正・昭和初期婦人団体による対議会活動と民法学者——『民法改正要綱』をめぐる穂積重遠と末弘厳太郎の見解」法学研究八八巻九号 七戸克彦「末弘厳太郎の青春——新渡戸稲造——高校長排斥事件の先導者」法政研究八二巻二二三号
二〇一七 (平成29)	③③	8 3	仁田道夫「戦後労使関係史（余滴2）——中央労働時報・創刊号をめぐって（その二）末弘厳太郎」中央労働時報二二二五号 石井保雄「労働法学の再出発——末弘厳太郎の陽と陰」独協法学一〇三三三号
二〇一八 (平成30)	②④	5	広渡清吾「『解題』複雑系としての末弘厳太郎——時勢のなかのポートレート」日本評論社編集部（編）「末弘厳太郎 法律時観・時評・法律時評集（上）」（日本評論社） 石田眞「『解題』労働法学者としての末弘厳太郎」日本評論社編集部（編）「末弘厳太郎 法律時観・時評・法律時評集（下）」（日本評論社）